



WebReport 2.0

ダッシュボードエディタガイド

■ ごあいさつ

このたびは弊社製品 WebReport2.0 をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本製品は、基幹系や情報系のデータベースにある様々なデータを Web ブラウザーから簡単に照会できる汎用検索ツールです。

本書は、本製品の中の、ダッシュボードエディタ機能について記載しております。ご使用の際にお読みください。

なお、表示画面などは操作の一例として掲載しているものです。お客様のご使用環境によっては、画面に表示される内容が異なる場合がありますので、ご了承ください。

本書に記載されている機能は、「WebReport2.0」をご購入のお客様のみご使用いただけます。



「WebReport2.0 Express」をご使用のお客様は、別途ライセンスをご購入いただく必要があります。

■ 著作権／ご注意

- 本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複製転載することを禁じます。
- 本書に掲載の内容および製品の仕様などは、予告なく変更されることがあります。

本書の内容は万全を期して作成しておりますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれ、乱丁、落丁などお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

■ 本書の表記方法について

 注意	ハードウェアやソフトウェアの損害やエラーの発生を防止するために、必ず守っていただきたい情報を記載しています。
	特定のテーマに関する補足情報を記載しています。
メニュー、アイコン、ボタン、ウィンドウ、タブ	[] で囲んで表記します。 (例) [OK] ボタンをクリックします。
キーボード上のキー	<> で囲んで表記します。 (例) キーボードの<Tab>キーを押します。
参照先	章、節、項は『』、見出しは「」で囲んで表記します。 (例) 『第1章1 ダッシュボードエディタとは』 (P1) を参照してください。

目次

■	ごあいさつ.....	i
■	著作権／ご注意.....	i
■	本書の表記方法について.....	i
第 1 章	ダッシュボードエディタの概要.....	1
1	ダッシュボードエディタとは.....	2
1-1	ダッシュボードエディタとは.....	2
1-2	HTML5 版と Flash 版の差異について.....	3
2	主な特徴.....	5
2-1	ドリルダウン機能.....	5
2-2	リンク機能.....	6
2-3	豊富なグラフ、コンポーネント.....	7
2-4	グラフデータの自動更新機能.....	9
2-5	ナビゲーション・バー機能.....	9
2-6	簡単な操作性.....	10
3	ダッシュボードエディタの画面構成.....	11
3-1	キャンバス.....	12
3-2	メニューバー.....	13
3-3	グラフ選択シート.....	14
3-4	プロパティシート.....	15
4	基本的な操作方法.....	17
4-1	ダッシュボードエディタの起動.....	17
4-2	キャンバスの設定.....	20
4-3	グラフ・コンポーネントの配置.....	21
4-4	データバインドの設定.....	25
4-5	プロパティの設定.....	31
4-6	ダッシュボード定義の保管.....	33
4-7	ダッシュボードエディタの終了.....	35
4-8	ダッシュボード定義の実行.....	35
第 2 章	グラフのデータバインド.....	36
1	グラフの種類とデータ取得方法.....	37
2	単一グラフ.....	40
2-1	標準表形式の場合.....	40
2-2	キューブデータの場合.....	42
3	複数グラフ.....	44
3-1	標準表形式の場合.....	44
3-2	クロス集計形式の場合.....	46

3-3 キューブデータの場合	48
4 複数（変形）グラフ	52
4-1 標準表形式の場合	52
4-2 クロス集計形式の場合	55
4-3 キューブデータの場合	57
5 混合グラフ	62
5-1 標準表形式の場合	63
5-2 キューブデータの場合	65
6 ゲージ	67
6-1 標準表形式の場合	69
6-2 クロス集計形式の場合	72
6-3 キューブデータの場合	74
7 表	76
7-1 標準表形式の場合	76
7-2 クロス集計形式の場合	78
7-3 キューブデータの場合	79
8 基準値の設定	82
9 グラフの変更	86
10 予測分析	88
10-1 使用方法	88
10-2 注意事項	90
第3章 コンポーネントによるデータの更新・検索・表示	92
1 コンポーネントの種類とデータ取得方法	93
2 データの更新と検索	95
2-1 ラジオボタンの場合	96
2-2 コンボボックスの場合	104
3 自動更新の設定	116
4 データの表示	119
5 入力値チェック	123
第4章 データのドリルダウンとリンク	127
1 ドリルダウンの設定	128
1-1 標準表形式の場合	128
1-2 クロス集計形式の場合	132
1-3 キューブデータの場合	138
2 リンクの設定	151
2-1 グラフの場合	151
2-2 コンポーネントの場合	155
3 ナビゲーション・バーの設定	165
付録 リファレンス	171
1 グラフとコンポーネントの種類	172
2 グラフのプロパティ	174

1-1 円グラフ.....	175
1-2 棒グラフ.....	176
1-3 横棒グラフ.....	178
1-4 折れ線グラフ.....	180
1-5 エリアグラフ.....	182
1-6 レーダーチャート.....	184
1-7 散布図.....	186
1-8 バブルチャート.....	188
1-9 棒・折れ線グラフ.....	190
1-10 ゲージ.....	192
1-11 スピードメーター.....	194
1-12 線ゲージ.....	196
1-13 球体.....	198
1-14 温度計.....	200
1-15 LED（縦）.....	202
1-16 LED（横）.....	204
3 コンポーネントのプロパティ.....	206
3-1 ラベル.....	207
3-2 チェックボックス.....	208
3-3 ラジオボタン.....	210
3-4 コンボボックス.....	212
3-5 ボタン.....	213
3-6 テキストインプット.....	214
3-7 スクエア.....	215
3-8 テキストエリア.....	216
3-9 データグリッド.....	217

第 1 章

ダッシュボードエディタ の概要

1 ダッシュボードエディタとは

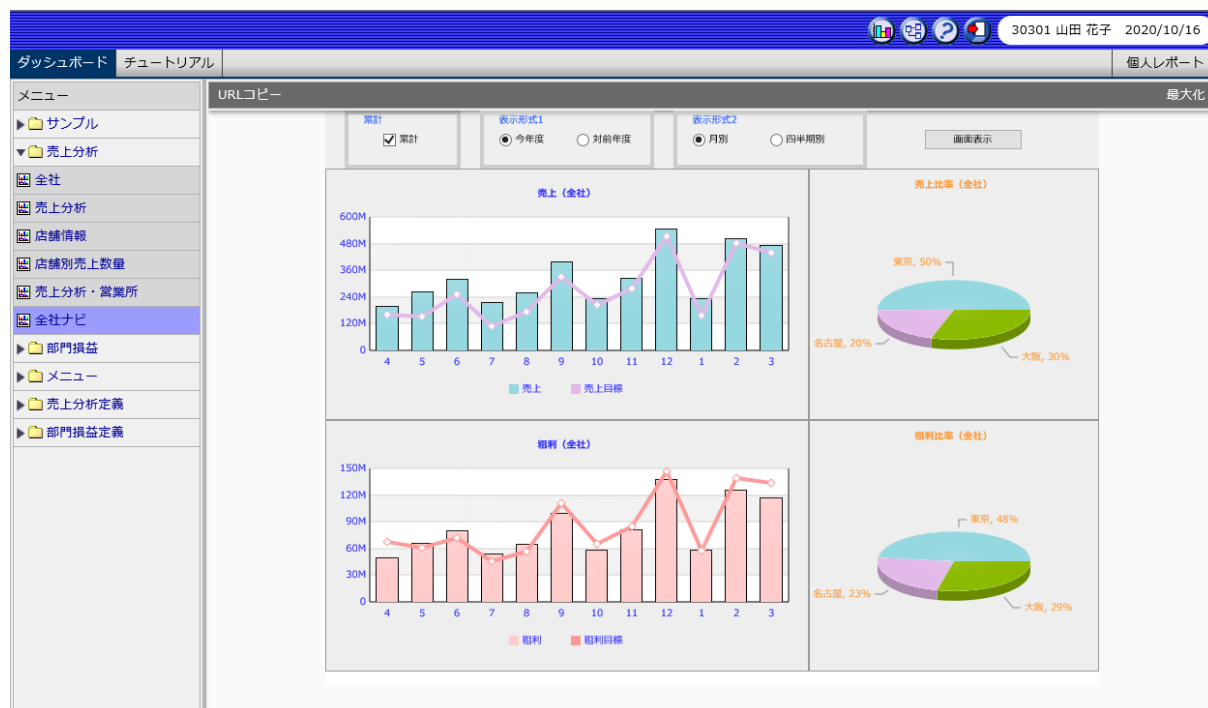
1-1 ダッシュボードエディタとは

ダッシュボードエディタとは、企業の経営者や管理者に必要な情報、および意思決定のための各種指標を、1つの画面に数値やグラフなどで表示するためのツールです。

以下のような特徴があります。

- 経営層や事業部門長、部門リーダーといった各階層が必要な情報を提供できる
- 現状把握し、将来予測、リスク回避等の経営活動に活かすことができる

ダッシュボードエディタでは、さまざまなグラフを複数配置し、それぞれのグラフに、本製品の照会定義で作成したレポート結果を反映させることができます。作成したグラフや表のレイアウト、データは、「ダッシュボード定義」として、他の照会定義と同じように保管し、本製品上に表示することができます。



ダッシュボード定義実行画面

複数のグラフや、スピードメーター等に、売上・粗利実績データや、販売管理費（経費）データを割り当てることで、売上分析表や部門損益表など、経営に活かせる表・グラフを作成できます。

1-2 HTML5 版と Flash 版の差異について

バージョン 5.9.8.d より、従来のダッシュボードで使用していた Flash コンテンツを HTML5 に変更しました。

Flash 版で作成したダッシュボード定義は、HTML5 版でも引き続きご利用になれます。

ただし、HTML5 版と Flash 版とで一部差異がありますので、下記を参照してください。

■ HTML5 版と Flash 版の差異

- ・ ダッシュボードエディタのレイアウト

グラフや設定項目の指定方法が変わりましたので、本マニュアルを参照して設定をおこなってください。

- ・ グラフの種類

内容が近いグラフを統廃合しました。詳細については『付録 1 グラフとコンポーネントの種類』を参照してください。

- ・ グラフの表現方法や目盛の間隔などの見た目の違い

Flash 版とは違うグラフ生成処理を採用しているため、グラフの表現方法や目盛の間隔などが異なります。

また、追加、廃止になった設定項目については『付録 2 グラフのプロパティ』、『付録 3 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。

■ HTML5 版で廃止になった機能

- ・ グラフの右クリック機能

「Print Dashboard」、「Print Chart」はブラウザの印刷機能をご使用ください。

円グラフの「Enable Rotation」、「Enable Slicing Movement」、「View 2D」は使用できません。

■ 注意事項、制限事項

- ・ HTML5 版と Flash 版とでは、製品の管理データベースに格納される定義データのフォーマットが異なります。

ただし、Flash 版の定義は変換や再保存をする必要はなく、そのままの状態でも HTML5 版で編集、実行することができます。

逆に HTML5 版で作成した定義は、Flash 版では編集、実行することができません。

また、Flash 版の定義を HTML5 版で保存した場合、HTML5 版のフォーマットに変換されますので、この場合も Flash 版では編集、実行することができなくなります。

必要に応じて定義のバックアップをしておくことをお勧めします。

- ・ ディスプレイやブラウザの拡大、縮小表示をすると、正しく表示、動作しない場合があります。その場合は拡大、縮小表示は「100%」に設定してご使用ください。
- ・ グラフ変更機能を使用してグラフの種類を変更した時にデータ設定とアクション設定がリセットされます。
- ・ バージョン 5.9.8.d では、英語と中国語をサポートしていません。日本語で表示される箇所が存在します。

2 主な特徴

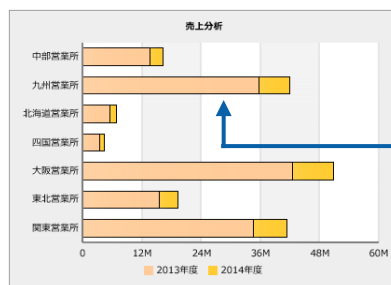
ここでは、ダッシュボードエディタの主な特徴について説明します。

2-1 ドリルダウン機能

ドリルダウンとは、グラフの X 軸や棒、アンカーマークなどをクリックしたときに、クリックした箇所の情報を、あらかじめ設定したキー項目で集計した結果を表示させる機能です。

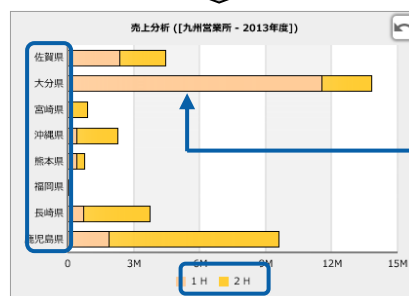
売上データを営業所別から担当地区別、年度毎から四半期毎へとドリルダウンするなど、別の視点からデータを分析することができます。

ドリルダウンしたグラフは、画面を切り替えて表示することも、別のウィンドウに表示することもできます。



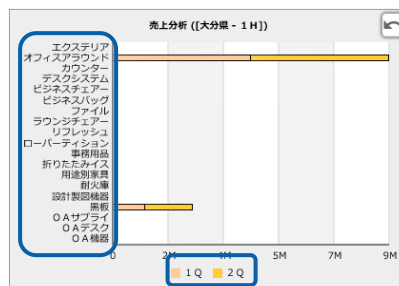
「九州営業所の 2013 年度」の棒部分をクリック

X 軸が「担当地区」、系列が「半期」に切り替わり「九州営業所における 2013 年度の売上」が表示される



さらに、「大分県の 1H (上半期)」の棒部分をクリック

X 軸が「商品カテゴリ」、系列が「四半期」に切り替わり「大分県における 1H (上半期) の売上」が表示される



ドリルダウンの設定については、『第4章 1 ドリルダウンの設定』を参照してください。

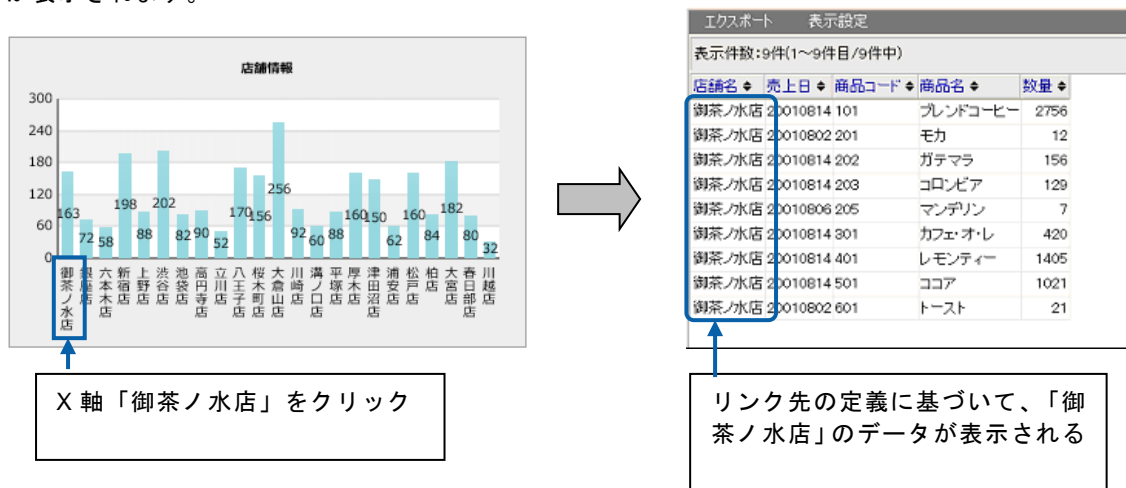
2-2 リンク機能

リンクとは、グラフやコンポーネントをクリックしたときに、別の照会定義やダッシュボード定義のデータを表示させる機能です。リンク先の定義は、画面を切り替えて表示することも、別のウィンドウに表示することもできます。

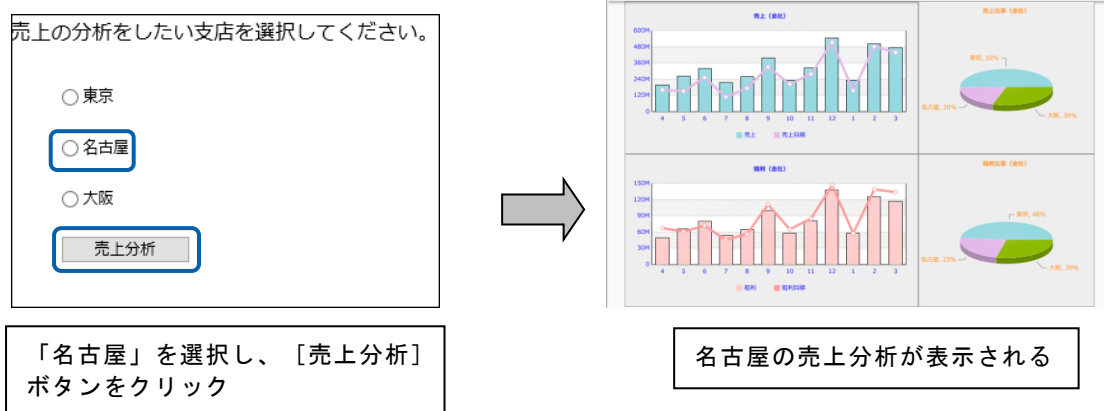
リンク先の定義に@INPUT(@GET())の検索条件が設定されているときは、クリックした箇所のデータをリンク先の定義に引き渡して、データを絞り込んで表示することができます。

グラフにリンクを設定すると、グラフのX軸や棒、アンカーマーク、系列などをクリックしたときに、リンク先で指定した照会定義やダッシュボード定義を表示します。

リンク先の定義に検索条件が設定されているときは、クリックした箇所のデータで検索された結果が表示されます。



コンポーネントにリンクを設定すると、コンポーネントを選択したときに、選択したコンポーネントに設定されているリンク先の定義を表示します。



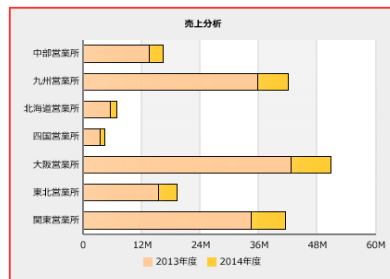
コンポーネントの場合も、リンク先の定義に検索条件が設定されているときは、「値」のデータで検索された結果が表示されます。

リンクの設定については、『第4章 2 リンクの設定』を参照してください。

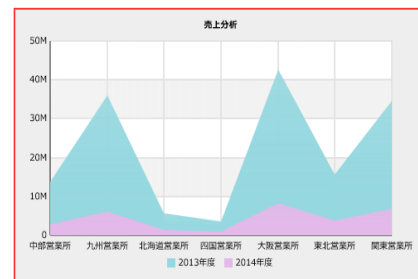
2-3 豊富なグラフ、コンポーネント

ダッシュボードエディタには、16種類のグラフが用意されており、標準表形式、クロス集計形式、キューブデータを最適な形でグラフ表示できます。

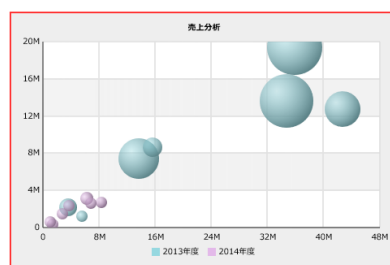
種類	グラフ名
グラフ	円グラフ
	棒グラフ
	横棒グラフ
	折れ線グラフ
	エリアグラフ
	レーダーチャート
	散布図
	バブルチャート
	棒・折れ線グラフ
	ゲージ
ゲージ	スピードメーター
	線ゲージ
	球体
	温度計
	LED（縦）
	LED（横）



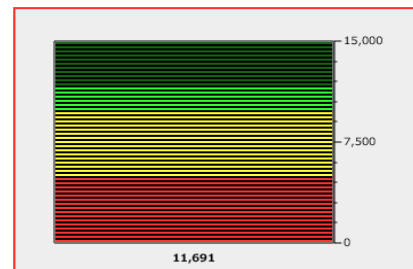
「横棒グラフ」



「エリアグラフ」



「バブルチャート」



「LED（縦）」

グラフのデータバインドについては、『第2章 グラフのデータバインド』を参照してください。

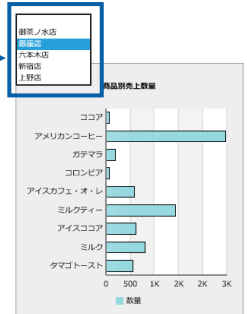
コンポーネントには、以下の9種類が用意されています。

- ラベル
- チェックボックス
- ラジオボタン
- コンボボックス
- ボタン
- テキストインプット
- スクエア
- テキストエリア
- データグリッド

コンポーネントを使い分けることによって、さまざまな状況に対応できます。

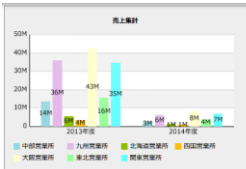
たとえば、コンボボックスを利用すると、ドロップダウンリストにある複数の選択項目から目的の値を1つ選択して、データを更新したり、リンク先の定義を表示することができます。

コンボボックスの [▼] ボタンをクリックし、ドロップダウンリストから店舗名を選択




選択した店舗の商品別売上数量が表示される

データグリッドを利用すると、ダッシュボード上に配置されているグラフのデータを表示したり、データグリッドに照会定義をバインドしてデータを表形式で表示したりすることができます。



	2013年度	2014年度
中部営業所	13702808	2802670
九州営業所	35933190	6256430
北海道営業所	5614195	1404187
四国営業所	3538850	1010050
大阪営業所	42753840	8294140
東北営業所	15682480	3728780
関東営業所	34706100	6876920



営業所	売上金額	粗利益
中部営業所	16505478	8913711
九州営業所	42189620	22517777
北海道営業所	7018382	1587922
四国営業所	4548900	2732708
大阪営業所	51047980	15520909
東北営業所	19411260	11025171
関東営業所	41583020	16274055

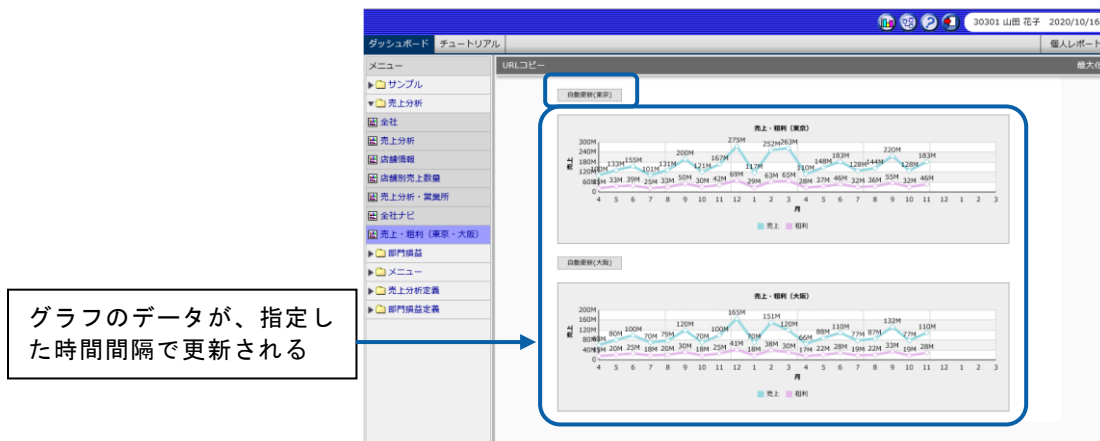
グラフにバインドされているデータを表示

各コンポーネントの詳細については、『付録 2 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。

2-4 グラフデータの自動更新機能

コンポーネントの「ボタン」に自動更新の機能を設定すると、ダッシュボード上に配置したグラフのデータを指定した時間間隔で自動的に更新することができます。

ボタンをクリックしなくても、自動的にデータを更新することができるので、常に最新のデータをグラフに表示することができます。

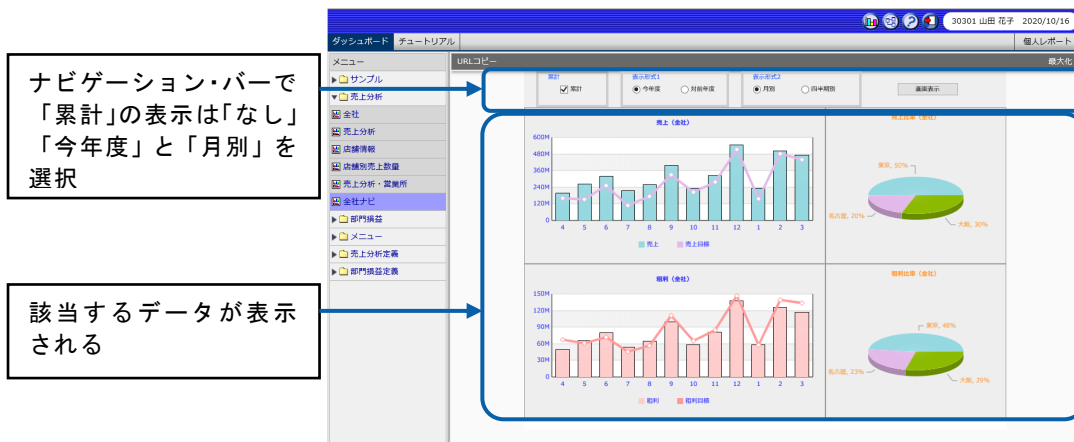


グラフデータの自動更新機能については、『第3章3 自動更新の設定』を参照してください。

2-5 ナビゲーション・バー機能

ナビゲーション・バーとは、ラジオボタンやチェックボックス、コンボボックスなどを組み合わせてキャンバスの上部に複数配置し、これらの組み合わせによって、リンク先のダッシュボード定義を切り替えて表示する機能です。

コンポーネントを選択するだけでリンク先の定義を切り替えて表示できるので、効率よくデータの分析が行えます。

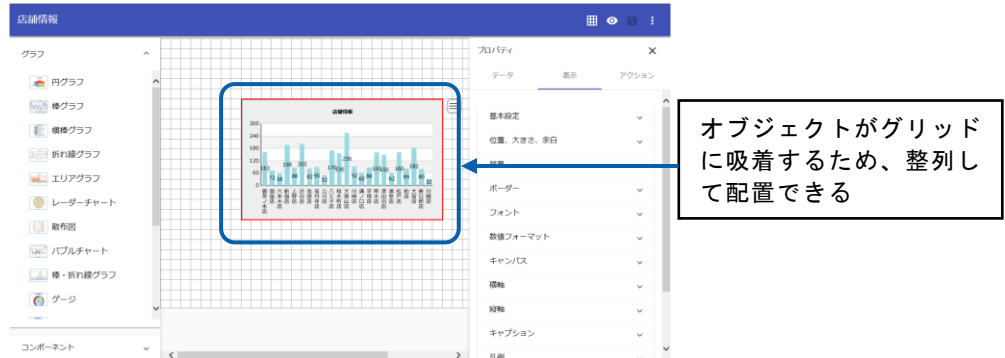


ナビゲーション・バーの設定については、『第4章3 ナビゲーション・バーの設定』を参照してください。

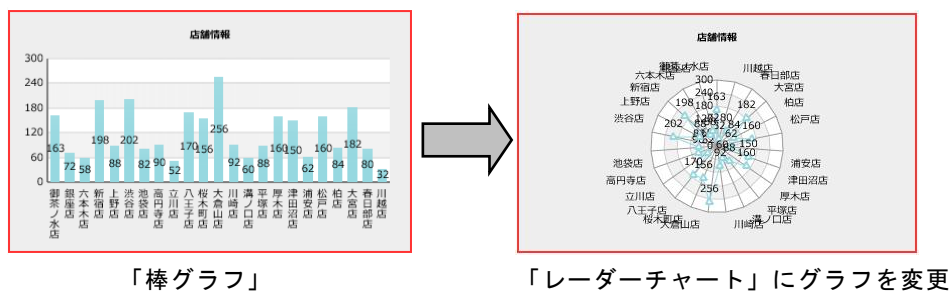
2-6 簡単な操作性

ダッシュボードエディタには、操作を効率よく行うためのさまざまな機能が用意されています。

- キャンバス上のグリッドに合わせて、グラフやコンポーネントを配置することができます。



- グラフやコンポーネントをコピーし、別の場所に貼り付けて利用できます。このとき、グラフやコンポーネントにバインドされている照会定義やプロパティもコピーされます。
- データバインドしたグラフの種類を変更することができます。



- コンポーネントが複数配置されたダッシュボード定義を実行したときに、コンポーネントのフォーカスを<Tab>キーで移動することができます。

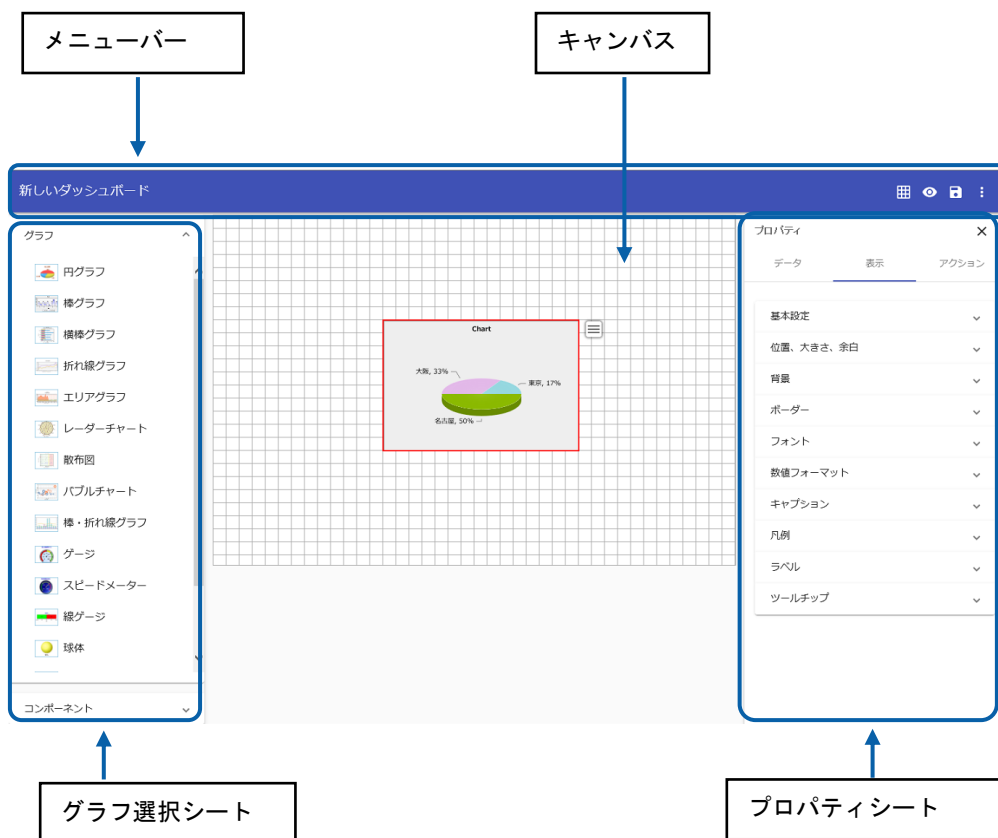


<Tab>キーでフォーカスを移動する順序は、ダッシュボードエディタで設定できます。各コンポーネントのプロパティシートの「タブインデックス」で設定します。

3 ダッシュボードエディタの画面構成

ここでは、ダッシュボードエディタの画面構成について説明します。

ダッシュボードエディタを起動すると、以下のような画面が表示されます。



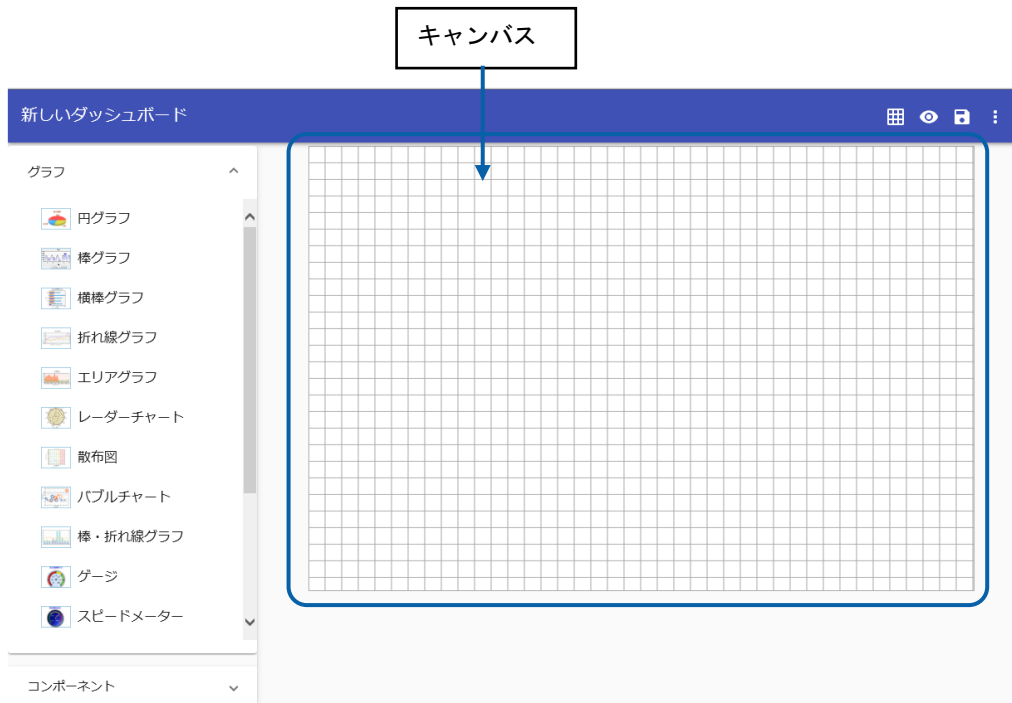
プロパティシートは、グラフやコンポーネントを選択すると表示されます。

3-1 キャンバス

背景が白く、青い線で囲まれた部分を「キャンバス」といいます。

このキャンバスの上に、グラフやコンポーネントを配置します。

初期設定では、グリッドが表示されており、グリッドに合わせてグラフやコンポーネントを配置できます。



- キャンバスの外にグラフやコンポーネントを配置することはできません。



グリッドを非表示にすることやサイズを変更することもできます。『第1章 4-2 4-2 キャンバスの設定』を参照してください。

3-2 メニューバー

ダッシュボードエディタの機能を選択するための部分を「メニューバー」といいます。

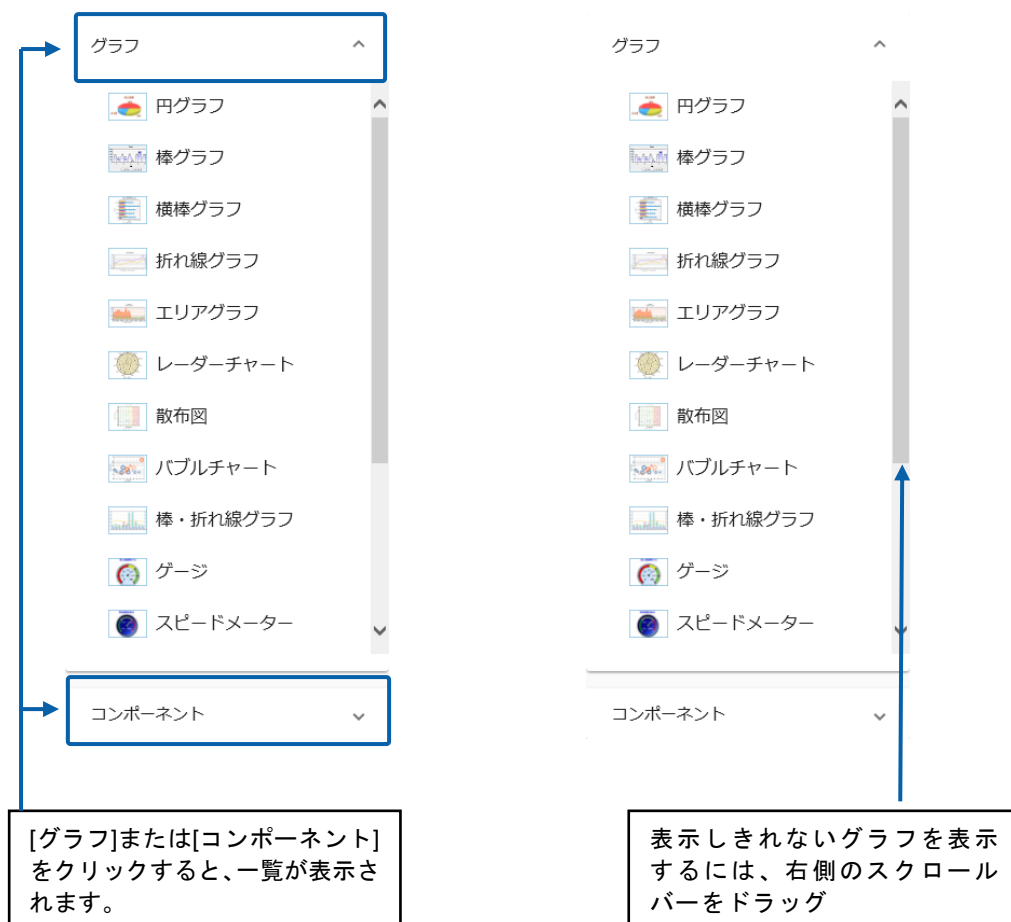


ダッシュボードエディタの上部に表示され、以下の4つの機能があります。

- キャンバス設定
キャンバスのサイズやグリッドの表示・表示の切り替えなどを設定します。
- プレビュー
作成したダッシュボードの実行結果を確認することができます。
- 上書き保存
更新したダッシュボード定義を上書き保存します。
- メニュー
定義の別名保存や定義の選択をおこないます。

3-3 グラフ選択シート

グラフ選択シートには、ダッシュボードエディタで使用できるグラフとコンポーネントが表示されています。グラフ選択シートからグラフ、コンポーネントをクリックし、キャンバス上に配置します。



3-4 プロパティシート

グラフやコンポーネントが選択されると、プロパティシートの内容が変化します。

グラフのプロパティシート

キャンバス上でグラフを選択すると、グラフ用のプロパティシートに変化します。

グラフの場合は、プロパティシートの上部に照会定義を選択するための[データ]タブ、色や大きさなどを設定するための「表示」タブ、リンクやドリルダウンを設定するための[アクション]タブが表示されます。

タブをクリックすることで表示を切り替えることができます。



「棒グラフ」の表示タブ



設定できる表示タブの内容はグラフにより異なります。
各グラフの設定内容については、『付録 2 グラフのプロパティ』を参照してください。

コンポーネントのプロパティシート

キャンバス上でコンポーネントを選択すると、コンポーネント用のプロパティシートに変化します。

コンポーネントの場合は、色や大きさなどを設定するための「表示」タブ、データ更新やリンクを設定するための「機能」タブが表示されます。

タブをクリックすることで表示を切り替えることができます。



「ラジオボタン」の表示タブ



設定できる表示タブの内容はグラフにより異なります。
各コンポーネントの設定内容については、『付録 3 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。

4 基本的な操作方法

ここでは、ダッシュボードエディタの基本的な操作方法について説明します。

4-1 ダッシュボードエディタの起動

ダッシュボードエディタを起動するには、以下の手順で行います。

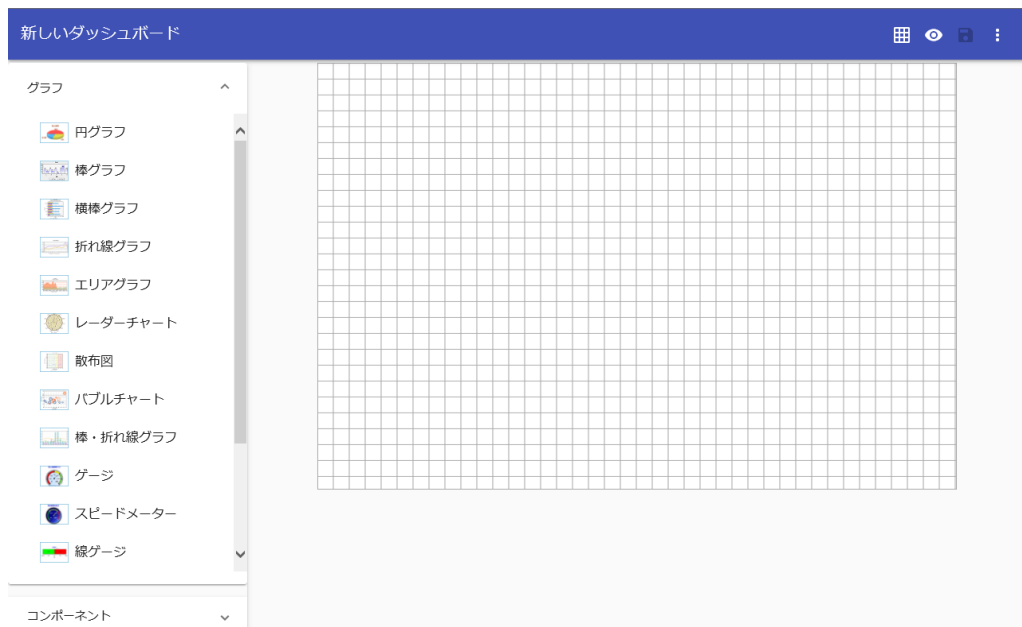
1. 本製品にログインします。

ログインの方法については、本製品の『ユーザーズマニュアル』を参照してください。

2. ダッシュボードエディタボタンをクリックします。

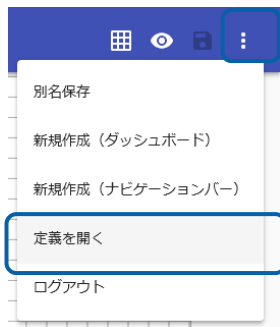


ダッシュボードエディタが起動します。



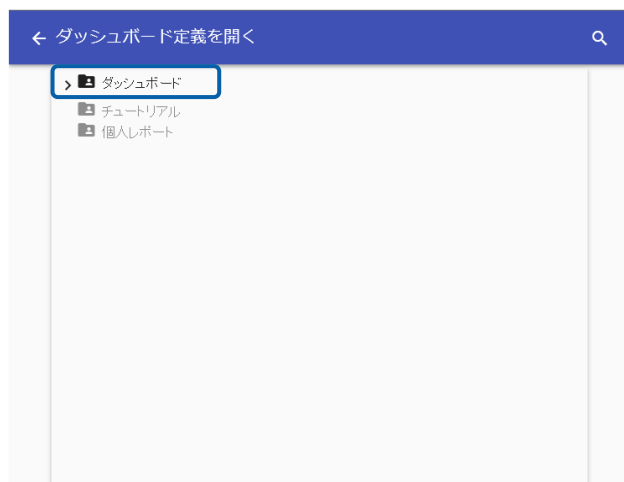
保管されているダッシュボード定義を編集する場合には、ダッシュボード定義を開きます。

3. メニューアイコンをクリックし、[定義を開く] を選択します。



[定義選択] シートが表示されます。

4. 目的のメニューをクリックします。



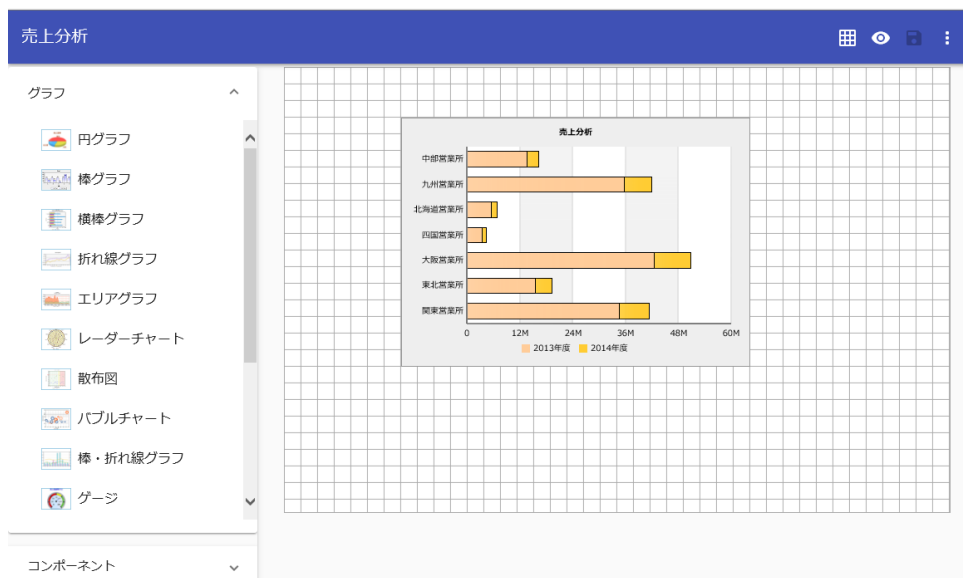
フォルダが展開されますので、目的のフォルダをクリックします。



5. 目的の定義をクリックします。



選択されたダッシュボード定義がキャンバス上に表示されます。



4-2 キャンバスの設定

キャンバスのサイズを変更したり、グリッドの表示・非表示を切り替えたりすることができます。

1. メニューバーのアイコンをクリックし、キャンバス設定シートを表示します。



2. 各設定項目を変更します。

設定項目	説明
キャンバスの幅	キャンバスの横の幅を指定します。
キャンバスの高さ	キャンバスの縦の高さを指定します。
グリッドを表示する	グリッドの線を表示する／しないを選択します。
グリッドサイズ	グリッドの間隔を指定します。
グリッドを揃える	グラフやコンポーネントの配置をグリッドに合わせるかどうかを指定します。 無効にした場合は、「吸着サイズ」の設定値により、配置間隔を決定します。
吸着サイズ	「グリッドを揃える」を無効にした場合の、グラフやコンポーネントの配置間隔を指定します。
旧フォントを使う	Flash版のフォントを使用するかどうかを選択します。 HTML5版とFlash版とでフォントが異なるため、同じサイズで作成した場合に、ラベル等が切れて表示されてしまう場合があります。そのような場合は、この設定項目を有効にしてください。 ※Flash版で作成された定義は、初期値が有効になっています。



キャンバス設定は、定義毎に保存されますので、定義実行時や次の編集時にも設定した内容が反映されます。

4-3 グラフ・コンポーネントの配置

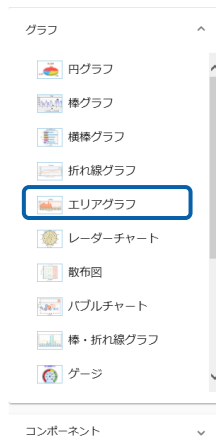
ダッシュボード定義を作成するには、まず、キャンバス上にグラフやコンポーネントを配置します。

グラフの配置

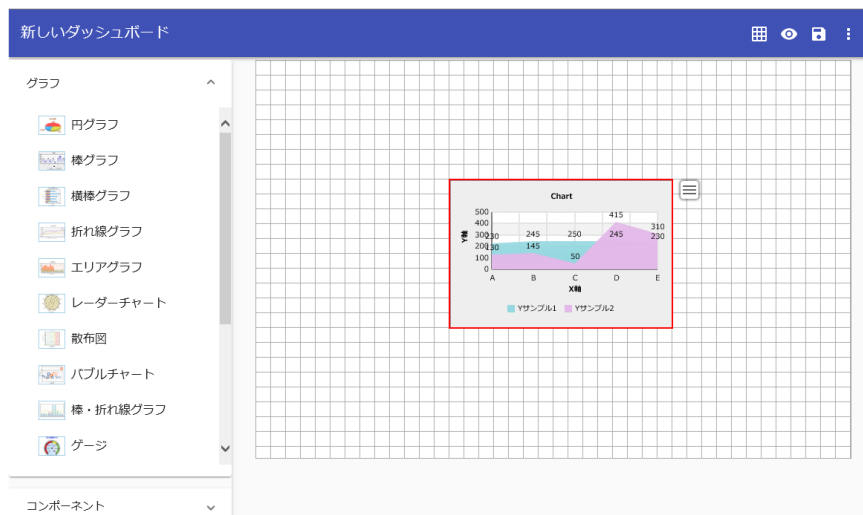
グラフの配置は、以下の手順で行います。

ここでは、「エリアグラフ」を配置します。

1. グラフ選択シートで「エリアグラフ」をクリックします。



2. キャンバス中央にグラフが配置されます。

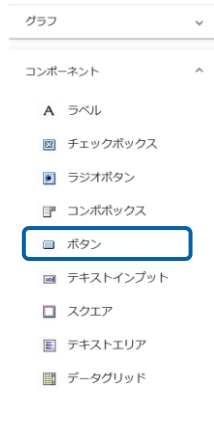


コンポーネントの配置

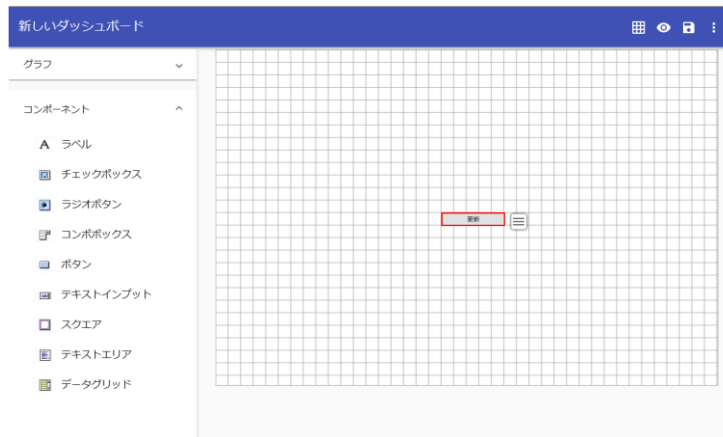
コンポーネントの配置は、以下の手順で行います。

ここでは、「ボタン」を配置します。

1. グラフ選択シートで「ボタン」をクリックします。



2. キャンバス中央にコンポーネントが配置されます。



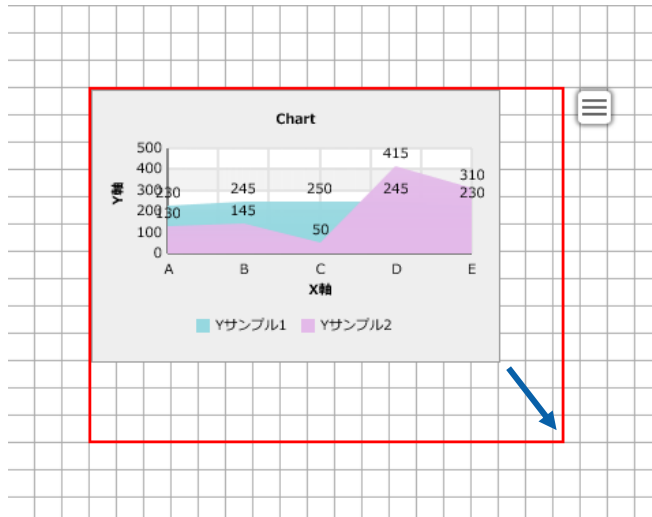
キャンバス上のグラフやコンポーネントを削除し、新しくダッシュボード定義を作成したい場合は、メニューボタンから [新規作成 (ダッシュボード)] を選択します。画面に新しく、白紙のキャンバスが表示されます。

オブジェクトの移動

オブジェクトをクリックして選択し、赤いボーダーラインの内側にマウスポインタを置いてドラッグして移動します。

オブジェクトのサイズ変更

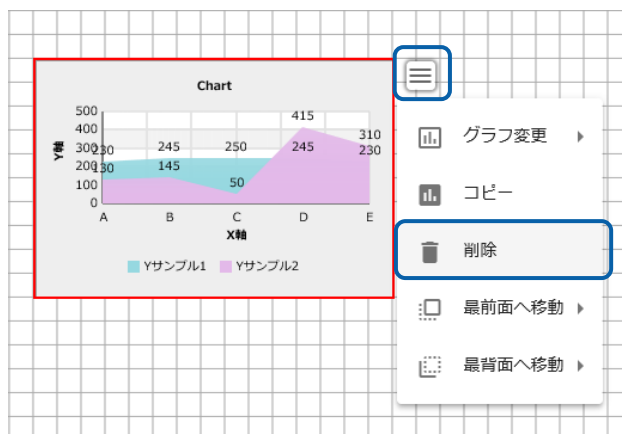
オブジェクトをクリックして選択し、赤いボーダーラインの四辺または四隅をドラッグして、サイズを変更します。



サイズの変更は、プロパティウィンドウからも行うことができます。

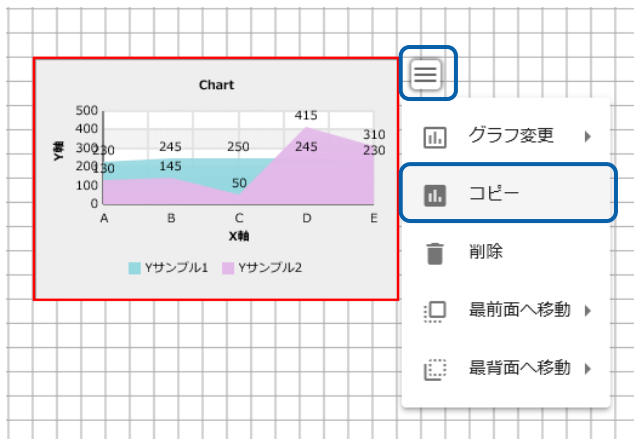
オブジェクトの削除

グラフやコンポーネントの右上にあるメニューから「削除」を選択します。

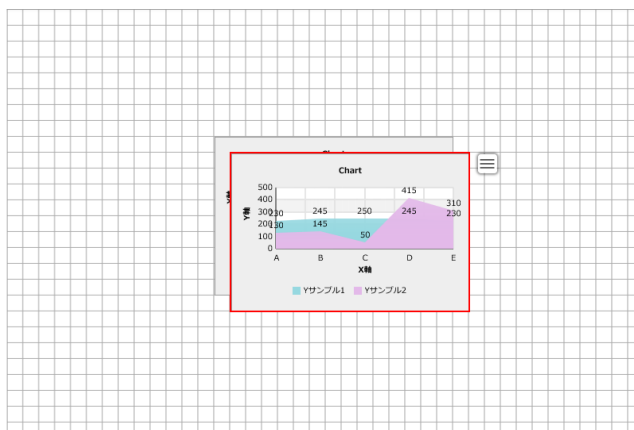


オブジェクトのコピー

グラフやコンポーネントの右上にあるメニューから [コピー] を選択します。



コピーしたオブジェクトがキャンバスに配置されます。



4-4 データバインドの設定

ダッシュボードエディタでは、配置したグラフごとに、標準表形式やクロス集計形式、キューブデータの照会定義をデータとして割り当てることができます。

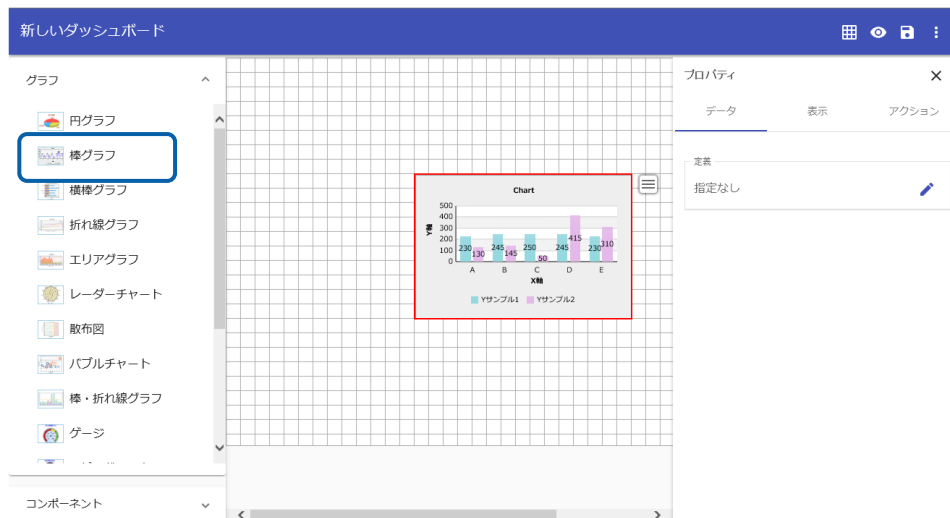
照会定義のデータをグラフに割り当てることを「データバインド」と呼びます。

ここでは、「棒グラフ」に「標準表形式」の照会定義をバインドする場合を例に、データバインドの基本的な操作手順を説明します。



データバインドの方法は、グラフの種類によって異なります。グラフ別のデータバインドの方法については、『第2章 グラフのデータバインド』を参照してください。

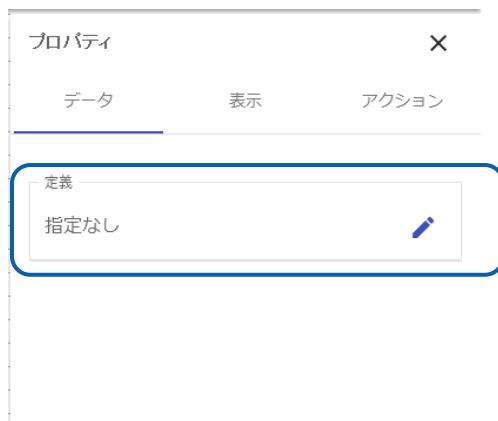
1. グラフ選択シートで [棒グラフ] をクリックします。



2. プロパティシート上部の [データ] タブをクリックします。

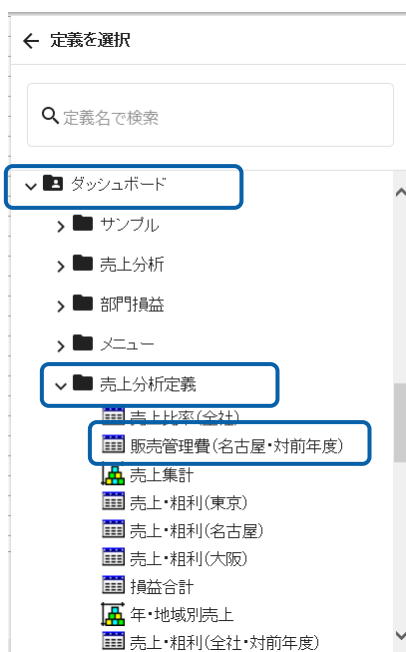


3. 項目 [定義] をクリックします。



定義選択シートが表示されます。

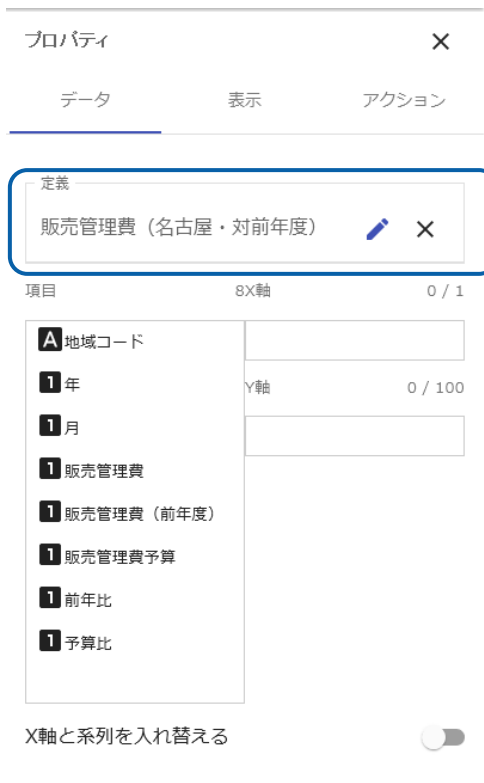
4. 使用したい照会定義をメニュー、フォルダ、定義の順に選択します。



5. 選択した照会定義名が表示されたことを確認して、右上のチェックボタンをクリックします。



選択した定義名が表示され、グラフの X 軸と Y 軸が選択できる形に変化します。



6. 左側の一覧から「月」を選択し、ドラッグアンドドロップで右側の「X軸」に配置します。

The screenshot shows the dashboard editor interface. At the top, there is a 'プロパティ' (Properties) section with a close button 'X'. Below it are tabs for 'データ' (Data), '表示' (Display), and 'アクション' (Action). The '定義' (Definition) section contains a card for '販売管理費 (名古屋・対前年度)' with edit and delete icons. The '項目' (Items) section shows a list of items: '地域コード' (Region Code), '年' (Year), '月' (Month), '販売管理費' (Sales Management Fee), '販売管理費 (前年度)' (Sales Management Fee (Previous Year)), '販売管理費予算' (Sales Management Fee Budget), '前年比' (Year-over-Year Ratio), and '予算比' (Budget Ratio). The '月' item is highlighted with a blue box, and a blue arrow indicates it is being dragged towards the '8X軸' (8 X-axis) slot. At the bottom, there is a toggle switch for 'X軸と系列を入れ替える' (Swap X-axis and Series).

「X軸」に配置されます。

The screenshot shows the dashboard editor interface after the '月' item has been placed on the X-axis. The '項目' (Items) list is the same as in the previous screenshot. The '月' item is now placed in the '7X軸' (7 X-axis) slot, which is highlighted with a blue box. The '8X軸' slot is now empty. The 'Y軸' (Y-axis) slot is labeled '0 / 100'. The 'X軸と系列を入れ替える' (Swap X-axis and Series) toggle switch is still present at the bottom.

7. 同様に、左側の一覧から「販売管理費」を選択し、ドラッグアンドドロップで右側の「Y 軸」に配置します。

プロパティ ×

データ 表示 アクション

定義

販売管理費 (名古屋・対前年度) ✎ ×

項目 7X軸 1 / 1

A 地域コード	1 月
1 年	
1 販売管理費	Y軸 0 / 100
1 販売管理費 (前年度)	
1 販売管理費予算	
1 前年比	
1 予算比	

X軸と系列を入れ替える

「Y 軸」に配置されます。

プロパティ ×

データ 表示 アクション

定義

販売管理費 (名古屋・対前年度) ✎ ×

項目 6X軸 1 / 1

A 地域コード	1 月
1 年	
1 販売管理費 (前年度)	Y軸 1 / 100
1 販売管理費予算	1 販売管理費 ✎ ×
1 前年比	
1 予算比	

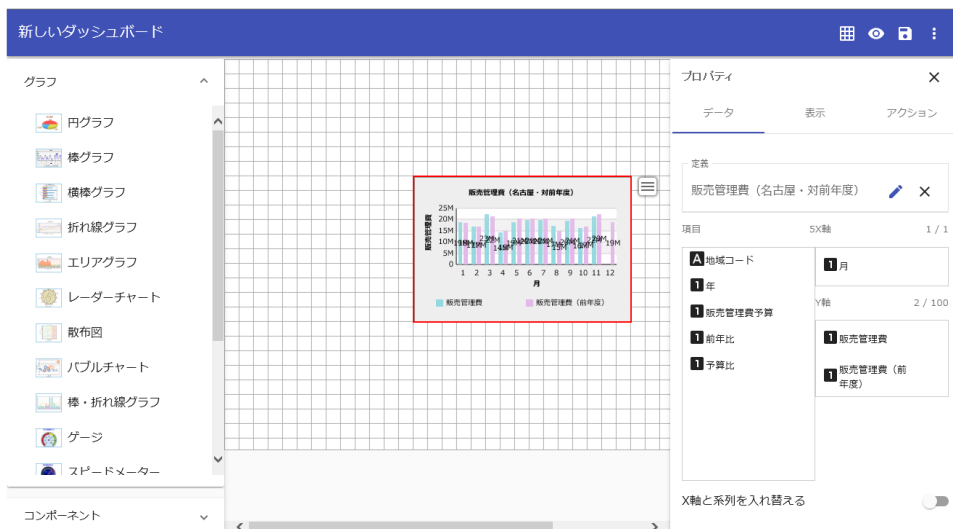
X軸と系列を入れ替える

8. 同様に、「販売管理費（前年度）」を「Y軸」に追加します。



間違った項目を選択した場合には、項目を選択し、[×] ボタンをクリックすると、選択した項目を解除することができます。
また、右側のリストでドラッグで表示順を入れ替えると、グラフに表示するデータの表示順を変更することができます。

照会定義のデータがグラフに割り当てられます。
バインドした照会定義の名前がグラフのキャプションになります。



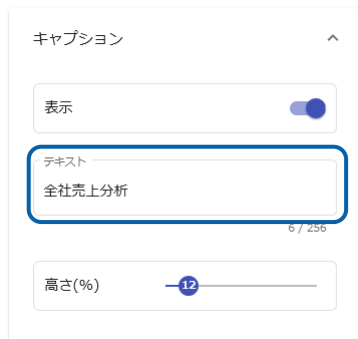
4-5 プロパティの設定

グラフやコンポーネントの表示設定は、プロパティシートの表示タブで設定します。

設定方法は、入力する設定値によって異なります。以下のような方法があります。

- 数値や文字列を入力する場合

入力フィールドに数値や文字列を入力します。



キャプション

表示

テキスト
全社売上分析
6 / 256

高さ(%)

- 「有効」または「無効」をトグルで選択する場合

項目右にあるトグルをクリックすることで「有効」、「無効」を切り替えます。



キャプション

表示

テキスト
全社売上分析
6 / 256

高さ(%)

- 数値をスライダーで指定する場合

項目右にあるスライダーを左右に移動することで指定します。



キャプション

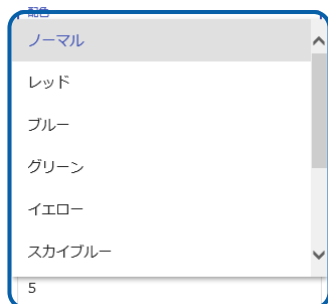
表示

テキスト
全社売上分析
6 / 256

高さ(%)

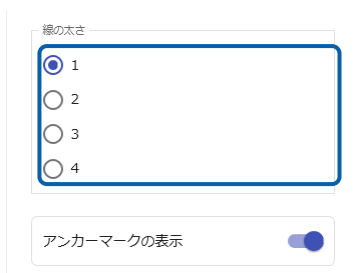
- 数値や文字列をドロップダウンリストから選択する場合

項目をクリックし、ドロップダウンリストから数値や文字列を選択します。



- 数値や文字列をラジオボタンから選択する場合

項目をクリックし、数値や文字列を選択します。



- 色をカラーチャートから選択する場合

項目をクリックし、カラーチャートで目的の色を選択します。



- 別のシートを表示して設定する場合

項目をクリックすると、別シートが表示されます。

別シートで設定するプロパティには、グラフの [基準値設定] (『第2章 8 基準値の設定』参照) があります。

4-6 ダッシュボード定義の保管

ダッシュボードの作成が完了したら、配置したグラフやコンポーネントを「ダッシュボード定義」として保管します。

保管した定義は、他の照会定義と同じように、Web 実行画面で実行できるようになります。

新しく作成したダッシュボード定義に名前を付けて保管するには、以下の手順で行います。

1. メニューから [別名保存] を選択します。

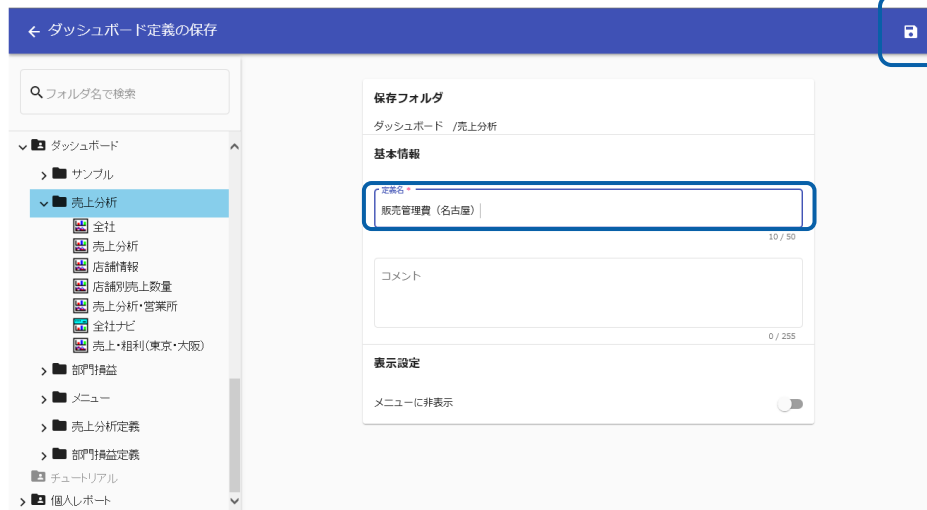


定義保存シートが表示されます。

2. 保存先にしたいフォルダーを選択します。



3. [定義名] にダッシュボード定義に付ける名前を入力し、[保存] ボタンをクリックします。



保存が完了します。

保存に失敗した場合には、エラーメッセージが表示されます。

[メニューに非表示]にチェックを入れて保存した場合は、保存した定義は照会定義メニューに表示されません。

上書き保存

既に作成済みの定義を更新して保存する場合には、「上書き保存」します。既に保存した定義のみ実行可能です。

上書き保存するには、以下の手順で行います。

1. メニューの [上書き保存] ボタンをクリックします。



確認のダイアログが表示されます。

[上書きする] ボタンをクリックします。

4-7 ダッシュボードエディタの終了

作業が終了したら、ダッシュボードエディタを終了します。

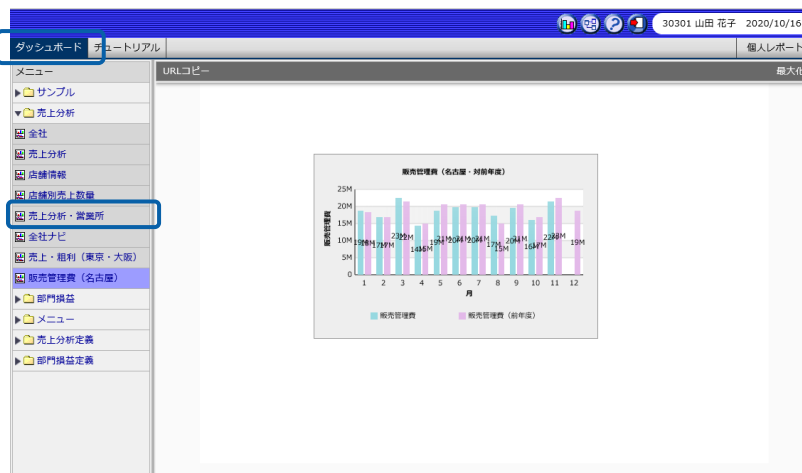
ダッシュボードエディタを終了するには、以下の手順で行います。

1. ブラウザのタブを閉じます。
2. ブラウザの確認ダイアログが表示されますので、終了する場合は「このページから移動する」ボタン、戻る場合は「このページにとどまる」ボタンを選択します。

4-8 ダッシュボード定義の実行

保存したダッシュボード定義は、他の照会定義と同様に、Web 実行画面から実行します。

ダッシュボード定義を実行するには、Web 実行画面の照会定義メニューでダッシュボード定義を選択します。



第 2 章

グラフのデータバインド

1 グラフの種類とデータ取得方法

この章では、グラフの種類別に、データバインドの方法を説明します。

グラフの種類によって、軸の数や、データを取得すべき数などが異なるため、設定方法が異なります。また、バインドできる定義もそれぞれ異なります。

グラフにバインドできる定義には、「標準表形式」、「クロス集計形式」、「キューブデータ」があります。

- 標準表形式

標準表形式とは、照会定義の結果をレコード単位で読み込み、そのまま表形式で表示した定義です。

列と行からなる表形式で管理されており、列方向に複数の項目名が、1行に1件分のデータが表示されています。

	月売上	売上(前年度)	粗利	粗利(前年度)
4	220000000.000	200040000.000	55000000.000	50000000.000
5	294300000.000	266600800.000	73400000.000	66604000.000
6	366600000.000	321709090.000	91600000.000	80455000.000
7	256600000.000	217800000.000	64200000.000	54450000.000

- クロス集計形式

クロス集計形式とは、設定した行キーと列キーによって集計値を配置し、クロス集計の形式で表示した定義です。

行方向と列方向の両方に、行キーと列キーで設定された項目名が配置され、それぞれがクロスする位置に集計値が表示されています。

列キー	地域名	名古屋	大阪	東京
行キー	年	売上	売上	売上
	2005	553640700.000	843800000.000	1383219190.000
	2006	738600000.000	1087900000.000	1877000000.000

- キューブデータ

キューブデータとは、さまざまな角度から分析を行うために、複数の次元を設定し、次元の組み合わせによって集計分析を行う定義です。

分析を行う項目を設定した「分析次元」と、数値の項目を設定した「数値次元」で構成されており、次元を展開し、それぞれのレベルでの集計値を表示することができます。

			年度	
営業所	商品カテゴリ	数量		11,691

展開されていないキューブデータ

ダッシュボードエディタでは、分析定義の展開の形により、「標準表」タイプと「クロス集計」タイプに分類しています。

展開されていない定義の場合は、どちらかを選択してグラフにバインドします。

- 「標準表」タイプ

列エッジ、行エッジのどちらかが数値次元のみで展開された形

	商品カテゴリ	営業所		
		2002年度	2003年度	年度
数量		9,505	2,186	11,691
売上金額		151,931,463	30,373,177	182,304,640
粗利益		65,346,747	13,235,506	78,582,253

行エッジ : 数値次元

列エッジ : 分析次元

- 「クロス集計」タイプ

列エッジ、行エッジのどちらにも数値次元以外の次元が位置する形

	商品カテゴリ	数量		
		2002年度	2003年度	年度
中部営業所		1,695	300	1,995
九州営業所		2,308	507	2,815
北海道営業所		254	308	562
四国営業所		720	203	923
大阪営業所		1,464	270	1,734
東北営業所		839	176	1,015
関東営業所		2,225	422	2,647
営業所		9,505	2,186	11,691

行エッジ : 分析次元

列エッジ : 分析次元

バインドできる照会定義はグラフの種類によって、以下のようになります。

また、表に照会定義をバインドして表形式で表示することもできます。

グラフ		照会定義			
グラフ種類	グラフ名	標準表	クロス集計	フォーム	キューブ
単一グラフ	円グラフ	○	×	-	△
複数グラフ	棒グラフ	○	○	-	○
	横棒グラフ	○	○	-	○
	折れ線グラフ	○	○	-	○
	エリアグラフ	○	○	-	○
	レーダーチャート	○	○	-	○
複数(変形)グラフ	散布図	○	○	-	○
	バブルチャート	○	○	-	○
混合グラフ	棒・折れ線グラフ	○	×	-	△
ゲージ	ゲージ	○	○	-	△
	スピードメーター	○	○	-	△
	線ゲージ	○	○	-	△
	球体	○	○	-	△
	温度計	○	○	-	△
	LED(縦)	○	○	-	△
	LED(横)	○	○	-	△
表	データグリッド	○	○	-	△

△は一部の形式のみ可

グラフの配置の基本的な操作については、『第1章 4-3 グラフ・コンポーネントの配置』を参照してください。



データバインドの基本的な操作については、『第1章 4-4 データバインドの設定』を参照してください。

2 単一グラフ

単一グラフは、1つのX軸の項目に対し、1つのY軸の値を割り当てるグラフです。

- グラフ：円グラフ
- データとして使用できる照会定義：標準表形式、キューブデータ

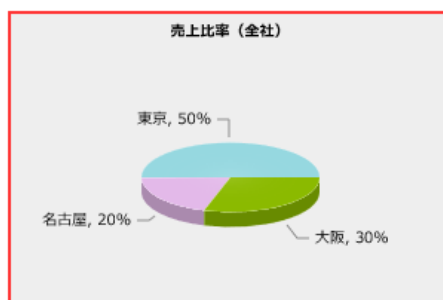
2-1 標準表形式の場合

- 単一グラフで、標準表形式の照会定義を選択した場合は、X軸の項目を1つ、Y軸の値を1つ設定します。
- X軸にバインドした項目名がパイのラベルになり、Y軸にバインドした値が、パイの幅となります。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「単一グラフ（円グラフ）」にバインドする例で手順を説明します。

地域名	売上
東京	2173300000.000
名古屋	868900000.000
大阪	1303500000.000

照会定義：「売上比率（全社）」



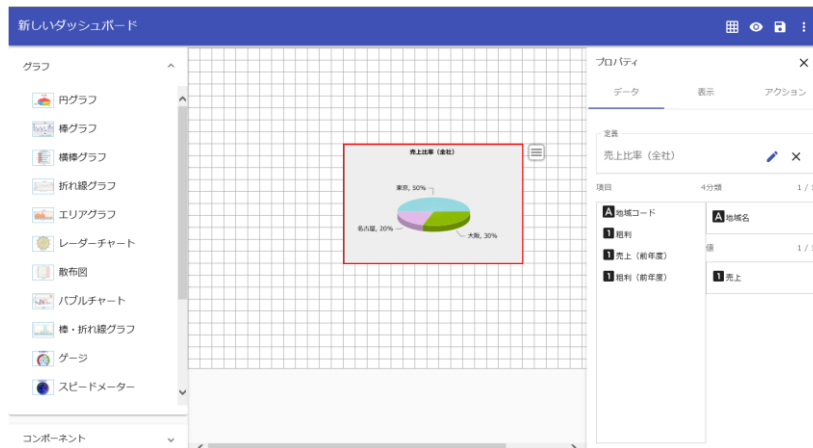
「地域名」をパイのラベル、「売上」をパイの幅として表示

手順

1. 円グラフを配置し、プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
2. [定義] クリックし、[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「売上比率（全社）」を選択します。
3. [X 軸] に「地域名」を選択します。
4. [Y 軸] に「売上」を選択します。



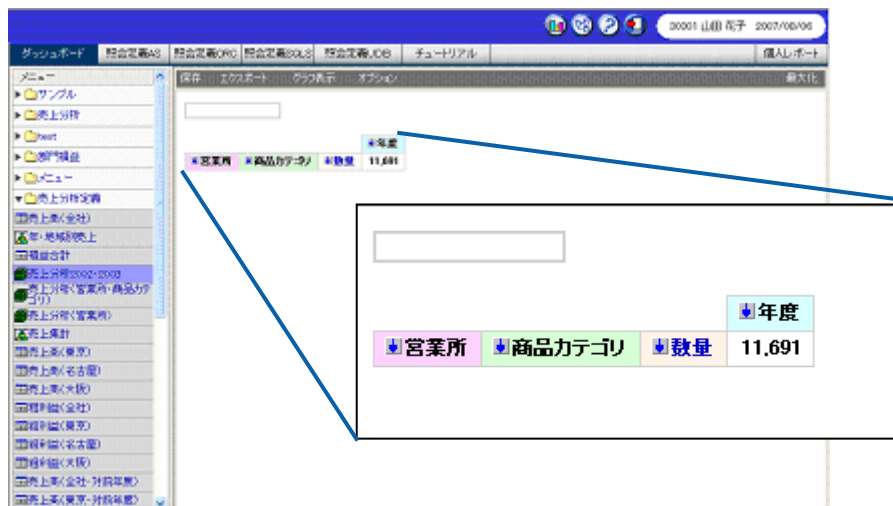
円グラフにデータがバインドされます。



2-2 キューブデータの場合

- 単一グラフで、キューブデータ形式の照会定義を選択した場合は、X 軸の項目（分析次元）を 1 つ、Y 軸の値（数値項目）を 1 つ設定します。
- 展開されたキューブデータの定義を選択すると、X 軸の項目は自動的に割り当てられます。ただし、「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義は、バインドできません。
- X 軸にバインドした項目名がパイのラベルになり、Y 軸にバインドした値がパイの幅となります。

ここでは、以下のようなキューブデータの定義を「単一グラフ（円グラフ）」にバインドする方法を例に説明します。



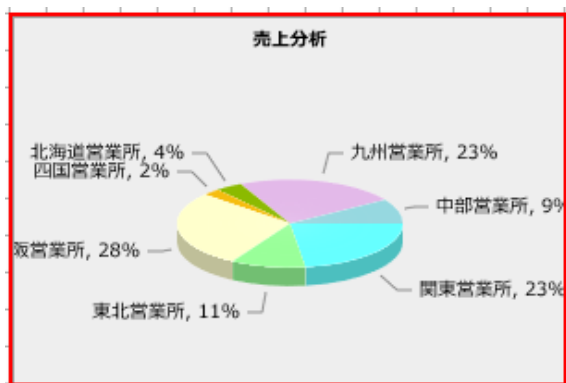
照会定義：「売上分析 2002・2003」

照会定義「売上分析」の数値次元名には「数量」が設定されており、「数量」次元には、「数量」、「売上金額」、「粗利益」の 3 つのレベルが設定されています。

[X 軸] に「営業所」、[Y 軸] に「売上金額」を設定します。



「営業所」がパイのラベル、「売上金額」がパイの幅として表示されます。



単一グラフにキューブデータの照会定義をバインドする手順の詳細については、『第2章 2-1 標準表形式の場合』を参照してください。

3 複数グラフ

複数グラフは、1つのX軸の項目に対し、複数のY軸の値を選択することができるグラフです。

- グラフ
 - 複数（棒）：棒グラフ、横棒グラフ
 - 複数（線）：折れ線グラフ、エリアグラフ、レーダーチャート
- データとして使用できる照会定義：標準表形式、クロス集計形式、キューブデータ

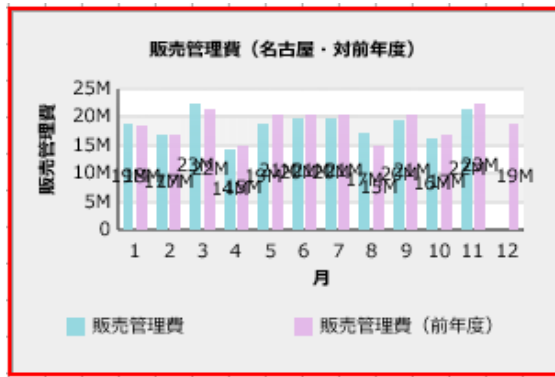
3-1 標準表形式の場合

- 複数グラフで、標準表形式の照会定義を選択した場合は、X軸の項目を1つ、Y軸の値を複数設定します。
- X軸にバインドした項目名がグラフのX軸になり、Y軸にバインドした値が、グラフの値となります。
- Y軸の目盛りは、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- [X軸と系列を入れ替える]を有効にすると、X軸の項目と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「複数グラフ（棒グラフ）」にバインドする例で手順を説明します。

照会定義：「販売管理費（名古屋・対前年度）」

月	販売管理費	販売管理費(前年度)
4	9500000.000	5300000.000
5	13000000.000	7000000.000
6	13100000.000	13800000.000
7	13100000.000	6100000.000
8	9560000.000	9000000.000
9	13100000.000	10500000.000
10	10700000.000	9600000.000
11	14300000.000	8800000.000
12	11900000.000	10500000.000
1	11900000.000	6100000.000
2	10700000.000	9600000.000
3	14300000.000	10500000.000



「月」をX軸、「販売管理費」と「販売管理費 (前年度)」をY軸として表示

手順

1. 棒グラフを配置し、プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
2. [定義] クリックし、[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「販売管理費 (名古屋・対前年度)」を選択します。
3. [X軸] に「月」を選択します。
4. [Y軸] に「販売管理費」と「販売管理費 (前年度)」をそれぞれ選択します。



棒グラフにデータがバインドされます。



3-2 クロス集計形式の場合

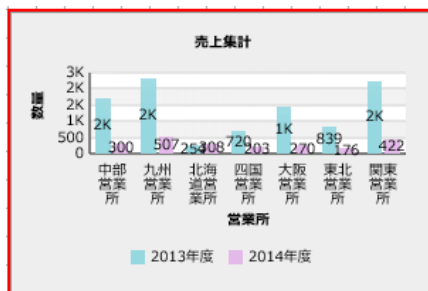
- 複数グラフで、クロス集計形式の照会定義を選択した場合は、クロス集計対象の項目となる値を1つ設定します。
- X軸にはクロス集計表の列キー、系列には行キーが自動的に設定され、クロス集計対象の項目となる値にバインドした数値がグラフの値となります。
- 列キーが、複数設定されているクロス集計定義の場合は、最初に定義されている項目が自動的に、X軸に設定されます。
- 行キーが、複数設定されているクロス集計定義の場合は、最初に定義されている項目が自動的に、系列に設定されます。
- Y軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- [X軸と系列を入れ替える]を有効にすると、X軸の項目と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のようなクロス集計形式の定義を「複数グラフ（棒グラフ）」にバインドする例で手順を説明します。

年度	半期	四半期	売上	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	
2002年度	1H	1Q	200204						6	152580	127998	20	188400	127060	
2002年度	1H	1Q	200205												
2002年度	1H	1Q	200206				5	7450	5340	12	305160	255996	20	188400	127060
2002年度	1H	2Q	200207									40	376800	254120	
2002年度	1H	2Q	200208						6	152580	127998	20	188400	127060	
2002年度	1H	2Q	200209	1	5080	3184	5	7450	5340						
2002年度	2H	3Q	200210	2	10160	6368	5	7450	5340						
2002年度	2H	3Q	200211												

照会定義：「売上集計」

※拡大図はクロス集計表の一部です。



「営業所」をX軸、「数量」をY軸、「年度」を系列として表示

手順

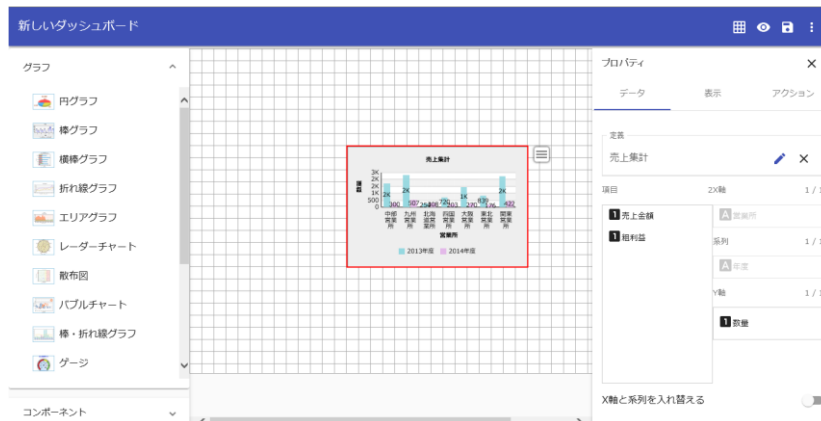
1. 棒グラフを配置し、プロパティシート of [データ] タブをクリックします。
2. [定義] をクリックし、[[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「売上集計」を選択します。

X 軸には列キーの「営業所」が、系列には行キーの「年度」がそれぞれ自動的に割り当てられます。

3. [Y 軸] に「数量」を選択します。



棒グラフにデータがバインドされます。



3-3 キューブデータの場合

複数グラフで、キューブデータの照会定義を選択した場合は、キューブデータの展開の方法が「標準表」タイプか「クロス集計」タイプかによって、設定内容が異なります。

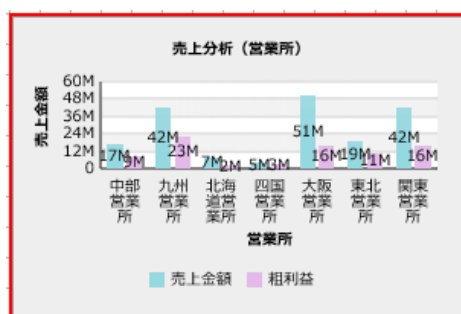
「標準表」タイプ

- 展開されていないキューブデータの定義を選択した場合は、「標準表」タイプを選択し、X軸の項目を1つ、Y軸の値を複数設定します。
- 「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、タイプが自動的に判別され、X軸に次元が自動的に割り当てられます。
- X軸にバインドした項目名がグラフのX軸になり、Y軸にバインドした値が、グラフの値となります。
- Y軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- [X軸と系列を入れ替える] を有効にすると、X軸の項目と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のように「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を「複数グラフ（棒グラフ）」にバインドする例で手順を説明します。

年度	商品カテゴリ				
	中部営業所	九州営業所	北海道営業所	四国営業所	東北営業所
数量	1,995	2,815	562	923	1,011
売上金額	16,505,478	42,189,620	7,018,382	4,548,900	18,411,261
粗利益	8,913,711	22,517,777	1,587,922	2,732,708	11,835,117

照会定義：「売上分析（営業所）」



「営業所」をX軸、「売上金額」と「粗利益」をY軸として表示

手順

1. 棒グラフを配置し、プロパティシート of [データ] タブをクリックします。
2. [定義] をクリックし、[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「売上分析（営業所）」を選択します。

展開されたキューブデータの場合は、表のタイプが自動的に判別され、X 軸には、自動的に「営業所」が割り当てられます。

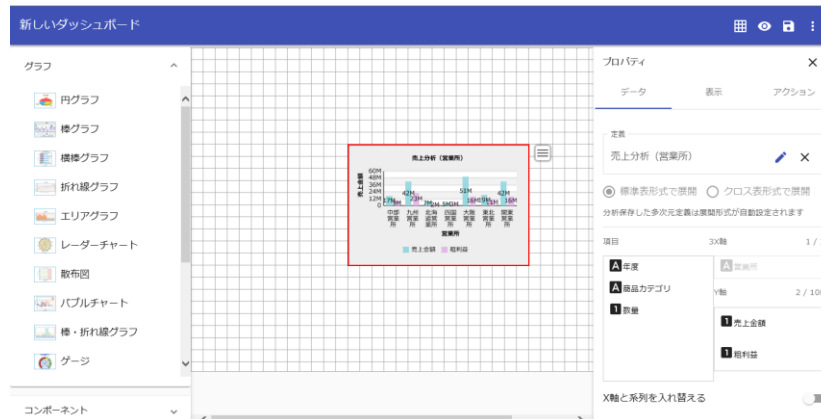


展開されていないキューブデータを選択した場合は、[標準表形式で展開] を選択し、[X 軸] に項目を 1 つ設定します。

3. [Y 軸] に「売上金額」と「粗利益」をそれぞれ選択します。



棒グラフにデータがバインドされます。



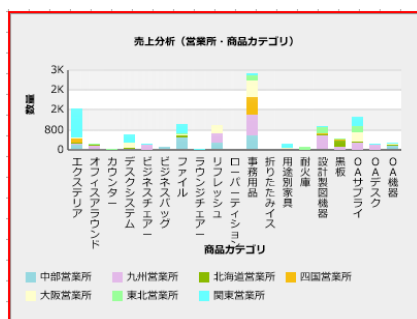
「クロス集計」タイプ

- 展開されていないキューブデータの定義を選択した場合は、「クロス集計」タイプを選択し、X軸の項目を1つ、系列の項目を1つ、数値項目の値を1つ設定します。
- 「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、タイプが自動的に判別され、X軸に列キー、系列には行キーが自動的に割り当てられます。
- X軸にバインドした項目がグラフのX軸、系列にバインドした項目が系列、数値項目にバインドした値がグラフの値となります。
- Y軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- [X軸と系列を入れ替える]を有効にすると、X軸の項目と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のように「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義を「複数グラフ(棒グラフ)」にバインドする例で手順を説明します。



照会定義：「売上分析（営業所・商品カテゴリ）」



「商品カテゴリ」をX軸、「数量」をY軸、「営業所」を系列として表示

手順

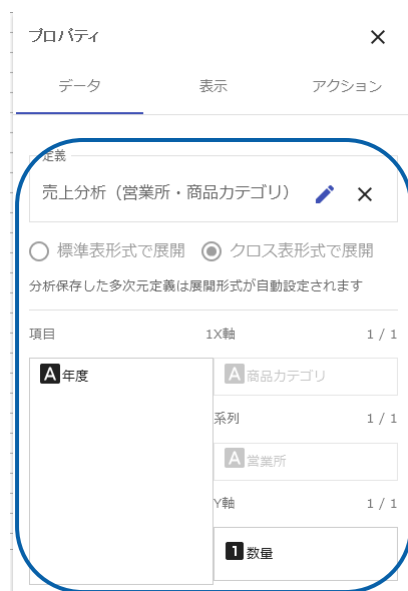
1. 棒グラフを配置し、プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
2. [定義] をクリックし、[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「売上分析（営業所・商品カテゴリ）」を選択します。

表のタイプが自動的に判別され、X 軸に「商品カテゴリ」、系列に「営業所」が自動的に割り当てられます。

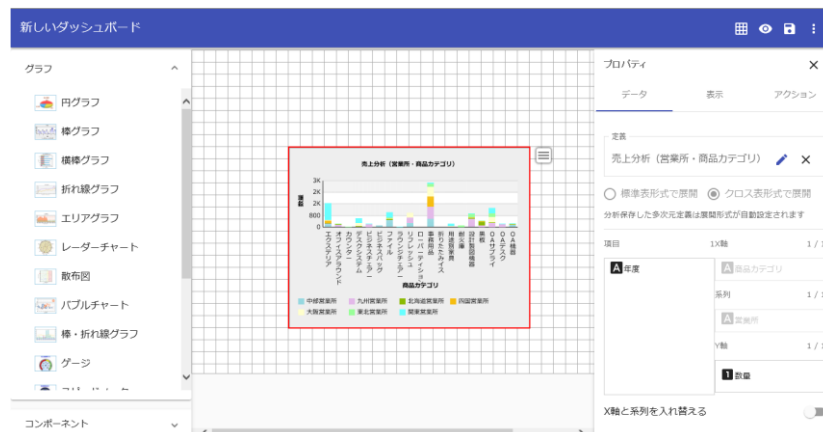


展開されていないキューブデータを選択した場合は、[クロス表形式で展開] を選択し、[X 軸] と [系列] に項目を1つずつ設定します。

3. [Y 軸] に「数量」を選択します。



棒グラフにデータがバインドされます。



※見た目を整えるため、[表示] タブでサイズの変更をしたり、積上げを有効にしています。

4 複数（変形）グラフ

複数（変形）グラフは、1つの項目に対し、複数の値を選択することのできるグラフです。

散布図の場合は、1つの項目に対し、X軸とY軸の値を1つずつ、バブルチャートの場合は、X軸とY軸とZ軸の値を1つずつ設定できます。

- グラフ：散布図、バブルチャート
- データとして使用できる照会定義：標準表形式、クロス集計形式、キューブデータ

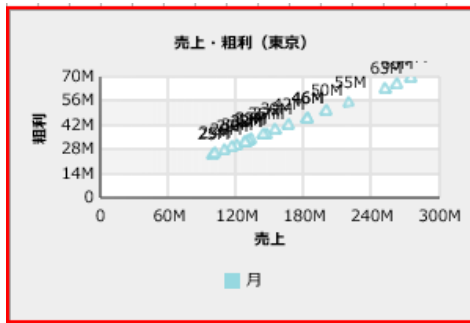
4-1 標準表形式の場合

- 複数（変形）グラフで標準表形式の照会定義を選択した場合は、データの名前を1つ、X軸の値を1つ、Y軸の値を1つ設定します。バブルチャートの場合は、さらにバブルの大きさに値を1つ設定します。
- 名前にバインドした項目がデータの名前になり、X軸にバインドした値とY軸にバインドした値が、グラフの値となります。バブルチャートの場合、バブルの大きさの値はバブルの大きさになります。
- X軸とY軸の目盛りは、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- [名前と系列を入れ替える]を有効にすると、名前と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「複数（変形）グラフ（散布図）」にバインドする例で手順を説明します。

照会定義：「売上・粗利（東京）」

月売上	売上目標	粗利	粗利目標
4 170000000.000	229200000.000	275000000.000	573000000.000
5 147600000.000	229200000.000	367000000.000	573000000.000
6 183300000.000	229200000.000	458000000.000	573000000.000
7 128300000.000	229200000.000	321000000.000	573000000.000
8 144400000.000	229200000.000	361000000.000	573000000.000
9 220000000.000	229200000.000	550000000.000	573000000.000
10 128300000.000	229200000.000	321000000.000	573000000.000
11 183300000.000	229200000.000	458000000.000	573000000.000
12 302500000.000	229200000.000	756000000.000	573000000.000
1 128300000.000	229200000.000	321000000.000	573000000.000
2 277300000.000	229200000.000	693000000.000	573000000.000
3 220000000.000	229200000.000	550000000.000	573000000.000



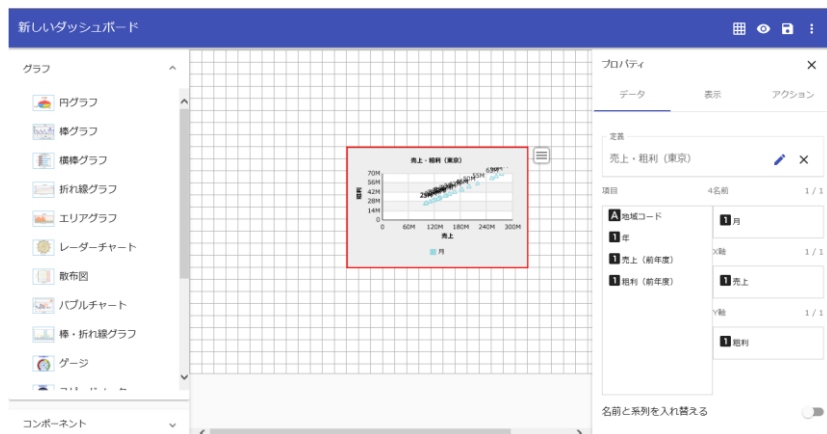
「売上」をX軸、「粗利」をY軸、「月」をアンカーマークとして表示

手順

1. 散布図を配置し、プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
2. [定義] をクリックし、[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「売上・粗利 (東京)」を選択します。
3. [名前] に「月」を選択します。
4. [X 軸] に「売上」を選択します。
5. [Y 軸] に「粗利」を選択します。



散布図にデータがバインドされます。



4-2 クロス集計形式の場合

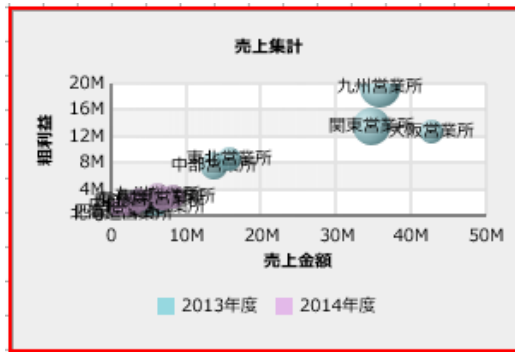
- 複数（変形）グラフで、クロス集計形式の照会定義を選択した場合は、X軸とY軸の値を1つずつ設定します。バブルチャートの場合は、さらにバブルの大きさに値を1つ設定します。
- 名前にはクロス集計表の列キー、系列には行キーが自動的に設定され、X軸にバインドした値とY軸にバインドした値が、グラフの値となります。バブルチャートの場合、バブルの大きさの値はバブルの大きさになります。
- 列キーが、複数設定されているクロス集計定義の場合は、最初に定義されている項目が自動的に、名前に設定されます。
- 行キーが、複数設定されているクロス集計定義の場合は、最初に定義されている項目が自動的に、系列に設定されます。
- 散布図の場合は、クロス集計対象となる項目が2つ以上設定されているクロス集計の定義が使用できます。
- バブルチャートの場合は、クロス集計対象となる項目が3つ以上設定されているクロス集計の定義が使用できます。
- X軸とY軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- [名前と系列を入れ替える]を有効にすると、名前と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のようなクロス集計形式の定義を「複数（変形）グラフ（バブルチャート）」にバインドする例で手順を説明します。

年度	半期	四半期	売上年月	営業所 中部営業所			中部営業所			中部営業所			中部営業所				
				数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益		
2002年度	1H	1Q	200204														
2002年度	1H	1Q	200205														
2002年度	1H	1Q	200206														
2002年度	1H	2Q	200207						5	7450	5340	12	305160	255996	20	188400	127060
2002年度	1H	2Q	200208									6	152580	127998	20	188400	127060
2002年度	1H	2Q	200209	1	5080	3184	5	7450	5340								
2002年度	2H	3Q	200210	2	10160	6368	5	7450	5340								
2002年度	2H	3Q	200211														

照会定義：「売上集計」

※拡大図はクロス集計表の一部です。



「売上金額」をX軸、「粗利益」をY軸、「数量」をバブルの大きさ、「年度」を系列、「営業所」をバブルとして表示

手順

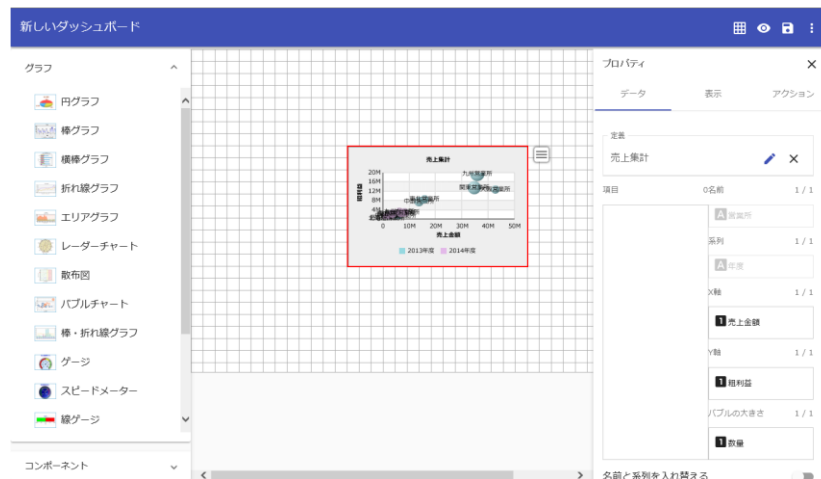
1. バブルチャートを配置し、プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
2. [定義] をクリックし、[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「売上集計」を選択します。

名前にはクロス集計表の最初に定義されている列キーの「営業所」が、系列には最初に定義されている行キーの「年度」がそれぞれ自動的に割り当てられます。

3. [X軸] に「売上金額」を選択します。
4. [Y軸] に「粗利益」を選択します。
5. [バブルの大きさ] に「数量」を選択します。



バブルチャートにデータがバインドされます。



4-3 キューブデータの場合

複数（変形）グラフで、キューブデータの照会定義を選択した場合は、キューブデータの展開の方法が「標準表」タイプか「クロス集計」タイプかによって、設定内容が異なります。

「標準表」タイプ

- 展開されていないキューブデータの定義を選択した場合は、「標準表」タイプを選択し、データの名前を1つ、X軸の値を1つ、Y軸の値を1つ設定します。バブルチャートの場合は、さらにバブルの大きさに値を1つ設定します。
- 「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、タイプが自動的に判別され、名前に次元が自動的に割り当てられます。
- 名前にバインドした項目がグラフの項目名になり、X軸にバインドした値とY軸にバインドした値が、グラフの値となります。バブルチャートの場合、バブルの大きさの値はバブルの大きさになります。
- X軸とY軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。
- [名前と系列を入れ替える] を有効にすると、名前と系列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のように「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を「複数（変形）グラフ（散布図）」にバインドする例で手順を説明します。

The screenshot shows a software interface with a data table and a zoomed-in view of a specific data slice. The data table has columns for '年度' (Year) and '商品カテゴリ' (Product Category), and rows for '数量' (Quantity), '売上金額' (Sales Amount), and '粗利益' (Gross Profit). The zoomed-in view shows data for the year 2001, with columns for '年度' and '商品カテゴリ', and rows for '数量', '売上金額', and '粗利益'.

年度	商品カテゴリ	数量	売上金額	粗利益
2001	中部営業所	1,995	16,505,478	8,913,711
2001	九州営業所	2,815	42,189,620	22,517,777
2001	北海道営業所	562	7,018,382	1,587,922
2001	四国営業所	923	4,548,900	2,732,708
2001	大瀬営業所	1,734	51,047,583	18,411,26
2001	東北営業所	1,011	18,411,26	11,835,17

照会定義：「売上分析（営業所）」



「数量」をX軸、「売上金額」をY軸、「営業所」をアンカーマークとして表示

手順

1. 散布図を配置し、プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
2. [定義] をクリックし、[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「売上分析（営業所）」を選択します。

表のタイプが自動的に判別され、名前には、自動的に「営業所」が割り当てられます。

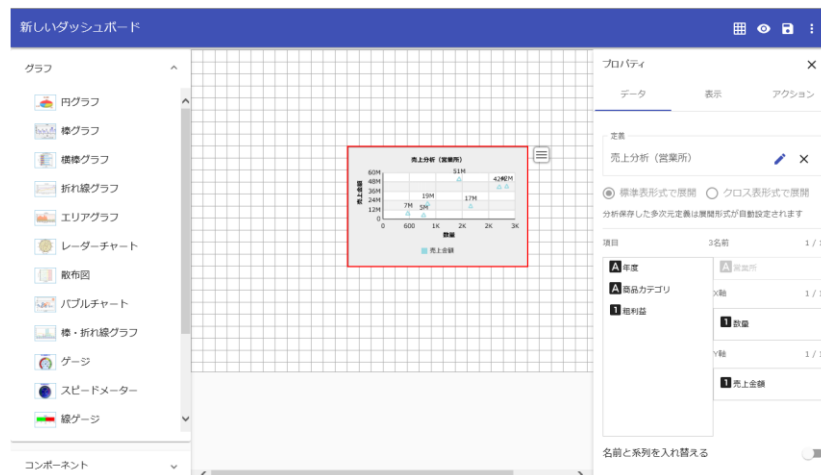


展開されていないキューブデータを選択した場合は、[標準表形式で展開] を選択し、[名前] に項目を1つ設定します。

3. [X軸] に「数量」を選択します。
4. [Y軸] に「売上金額」を選択します。



散布図にデータがバインドされます。



「クロス集計」タイプ

- 展開されていないキューブデータの定義を選択した場合は、「クロス集計」タイプを選択し、データの名前を1つ、系列を1つ、X軸とY軸の値を1つずつ設定します。バブルチャートの場合は、さらにバブルの大きさに値を1つ設定します。
- 「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、タイプが自動的に判別され、名前に列キー、系列には行キーが自動的に設定されます。
- 名前にバインドした項目がグラフの項目名、系列にバインドした項目が系列になり、X軸にバインドした値とY軸にバインドした値が、グラフの値となります。バブルチャートの場合、バブルの大きさの値はバブルの大きさになります。
- X軸とY軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。

- 「名前と系列を入れ替える」を有効にすると、名前と系列を入れ替えて表示できます。ただし、展開されていない「クロス集計」タイプのキューブデータの場合は、名前と系列を入れ替えて表示することはできません。

ここでは、以下のように「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータの定義を「複数（変形）グラフ（散布図）」にバインドする方法を例に説明します。

年度		エクステリア	オフィスア라운드	カウンター
中部営業所	数量	210	18	13
九州営業所	数量	50	125	29
北海道営業所	数量	31		
四国営業所	数量	150		
大阪営業所	数量	39		
東北営業所	数量	30		
関東営業所	数量	1,151		
営業所	数量	1,661	232	48

照会定義：「売上分析（営業所・商品カテゴリ）」

表のタイプが自動的に判別され、自動的に、名前に「商品カテゴリ」、系列に「営業所」が設定されます。

〔X軸〕に「売上金額」、〔Y軸〕に「粗利益」を設定します。

プロパティ

データ 表示 アクション

定義

売上分析（営業所・商品カテゴリ）
展開

標準表形式で展開 クロス表形式で展開

分析保存した多次元定義は展開形式が自動設定されます

項目 2名前 1 / 1

年度 営業所

数量 系列 1 / 1

商品カテゴリ

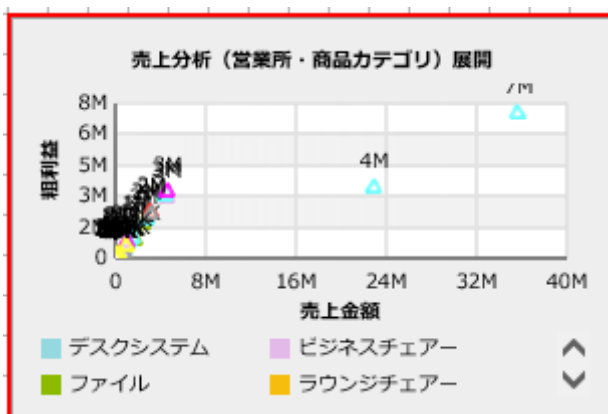
X軸 1 / 1

売上金額

Y軸 1 / 1

粗利益

「売上金額」が X 軸に、「粗利益」が Y 軸に、系列に「営業所」が、アンカーマークに「商品カテゴリ」が表示されます。



複数（変形）グラフに「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータをバインドする手順の詳細については、『第2章 4-3 キューブデータの場合』の「標準表タイプ」を参照してください。

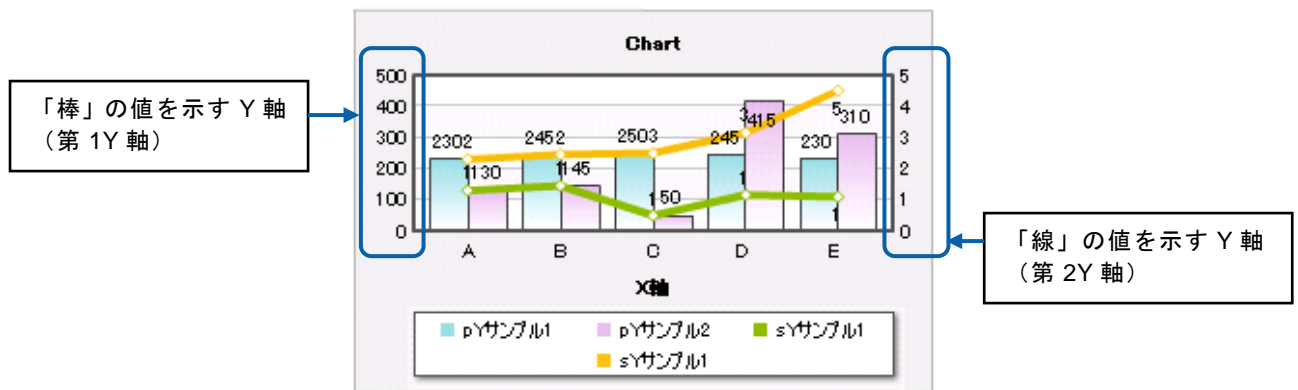
5 混合グラフ

混合グラフは、1つのX軸の項目に対し、複数のY軸の値を選択することができます。

複数グラフと異なり、1つのグラフの中で、棒と折れ線など、2種類の表現ができます。

- グラフ：棒・折れ線グラフ
- データとして使用できる照会定義：標準表形式、キューブデータ

「棒」と「折れ線」ごとに、Y軸が2つ作成されます。



「棒」の値を示す Y 軸
(第 1Y 軸)

「線」の値を示す Y 軸
(第 2Y 軸)

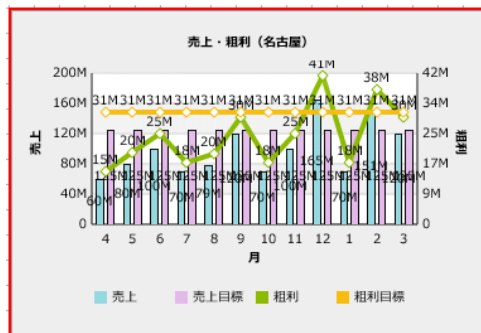
5-1 標準表形式の場合

- 混合グラフで、標準表形式の照会定義を選択した場合は、X軸の項目を1つ、第1Y軸の値を複数、第2Y軸の値を複数設定します。
- X軸にバインドした項目名がグラフのX軸になり、第1Y軸、第2Y軸にバインドした値が、グラフの値となります。
- 第1Y軸に設定した値は棒、第2Y軸に設定した値は線で表示されます。
- Y軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「混合グラフ（棒・折れ線グラフ）」にバインドする例で手順を説明します。

月	売上	売上目標	粗利	粗利目標
4	44000000.000	91700000.000	11000000.000	22900000.000
5	58700000.000	91700000.000	14700000.000	22900000.000
6	73300000.000	91700000.000	18300000.000	22900000.000
7	51300000.000	91700000.000	12800000.000	22900000.000
8	57800000.000	91700000.000	88000000.000	22900000.000
9	88000000.000	91700000.000	22000000.000	22900000.000
10	51300000.000	91700000.000	12800000.000	22900000.000
11	73300000.000	91700000.000	18300000.000	22900000.000
12	121000000.000	91700000.000	30300000.000	22900000.000
1	51300000.000	91700000.000	12800000.000	22900000.000
2	110900000.000	91700000.000	27700000.000	22900000.000
3	88000000.000	91700000.000	22000000.000	22900000.000

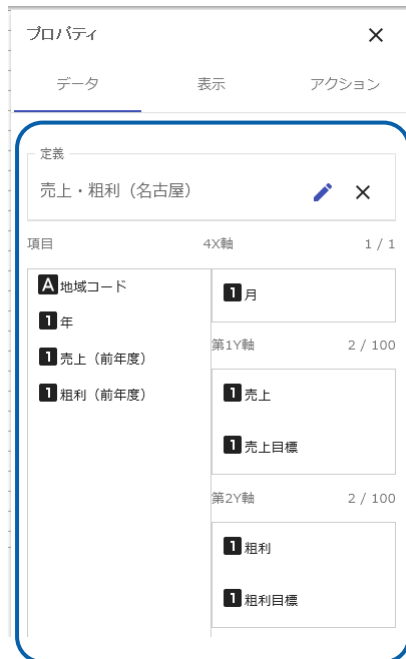
照会定義：「売上・粗利（名古屋）」



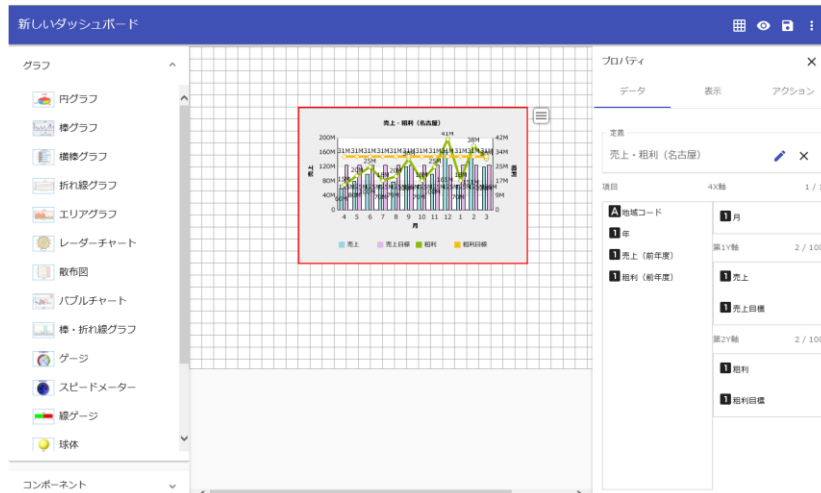
「月」をX軸、「売上」と「売上目標」を第1Y軸（「棒」で表示）、「粗利」と「粗利目標」を第2Y軸（「線」で表示）として表示

手順

1. 棒・線グラフを配置し、プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
2. [定義] をクリックし、[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「売上・粗利（名古屋）」を選択します。
3. [X 軸] に「月」を選択します。
4. [第 1Y 軸] に「売上」と「売上目標」をそれぞれ選択します。
5. 同様にして、[第 2Y 軸] に「粗利」と「粗利目標」を設定します。



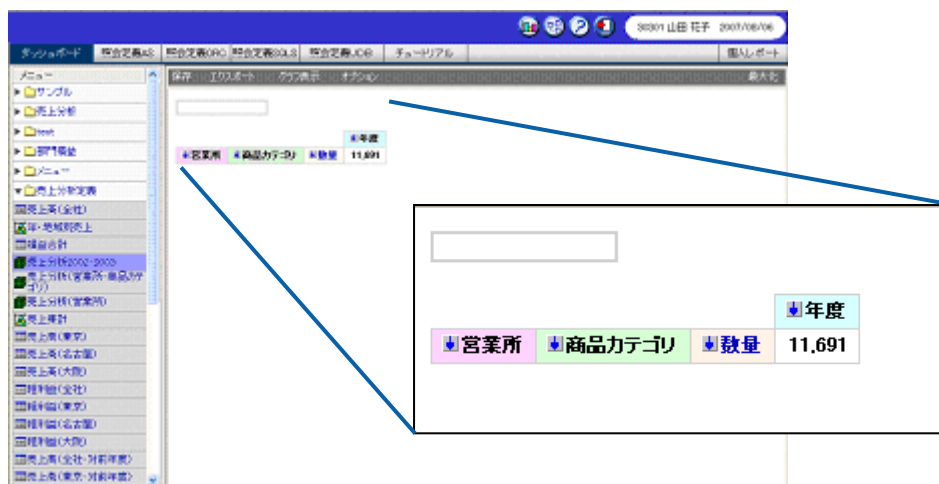
棒・折れ線グラフにデータがバインドされます。



5-2 キューブデータの場合

- 混合グラフで、キューブデータの照会定義を選択した場合は、X軸の項目を1つ、第1Y軸の値を複数、第2Y軸の値を複数設定します。
- X軸にバインドした項目名がグラフのX軸になり、第1Y軸、第2Y軸にバインドした値が、グラフの値となります。
- 第1Y軸に設定した値は棒、第2Y軸に設定した値は線で表示されます。
- 「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を選択すると、X軸に項目が自動的に割り当てられます。ただし、「クロス集計」タイプで展開されたキューブデータは、選択できません。
- Y軸の目盛は、値がバインドされると、自動的に計算され、表示されます。

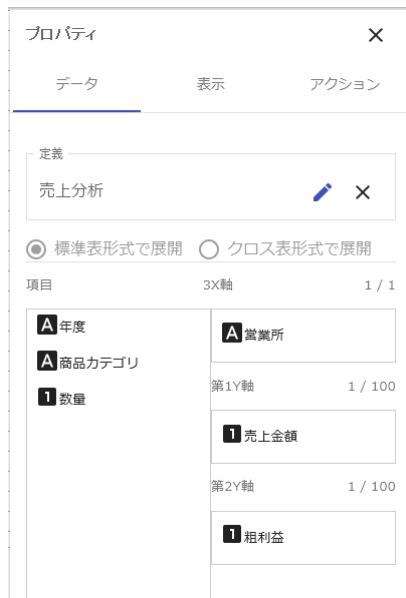
ここでは、以下のようなキューブデータの定義を「混合グラフ（棒・折れ線グラフ）」にバインドする方法を例に説明します。



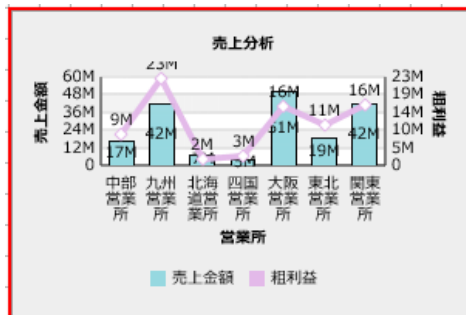
照会定義：「売上分析」

照会定義「売上分析」の数値次元名には「数量」が、「数量」次元には、「数量」、「売上金額」、「粗利益」の3つのレベルが設定されています。

[X 軸] に「営業所」、[第 1Y 軸 (数値項目)] の値に「売上金額」、[第 2Y 軸 (数値項目)] に、「粗利益」を設定します。



「営業所」がグラフの X 軸になり、「売上金額」が第 1Y 軸に「棒」で表示され、「粗利益」が「線」で表示されます。



混合グラフにキューブデータの照会定義をバインドする手順の詳細については、『第 2 章 5-1 標準表形式の場合』を参照してください。

6 ゲージ

ゲージは、ゲージが示す単一の値が、設定した閾値のどの範囲に属しているかを示すことのできるグラフです（「温度計」を除く）。

他のグラフとは異なり、軸はありません。

- グラフ：ゲージ、スピードメーター、線ゲージ、球体、温度計、LED（縦）、LED（横）
- データとして使用できる照会定義：標準表形式、クロス集計形式、キューブデータ

閾値の設定

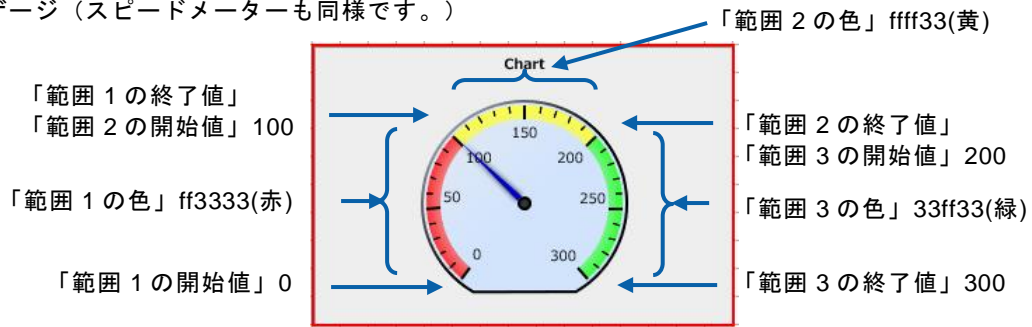
- ゲージでは、データを割り当てる前に、閾値の設定が必要です。
- プロパティシートの表示タブで、目盛りの上限と下限、ゲージの色、閾値を設定します。
- データの値が何を示しているのか（よい状態か、悪い状態か）を判定するために、値の範囲が3つ（初期状態では赤、黄色、緑の色の部分）用意されています。
- ゲージの閾値は、「範囲1~3」の設定内容で決まります。必ず設定してください。
- 範囲には、以下のプロパティを持つことができます。
 - 「範囲1の表示名」、「範囲1の色」
 - 「範囲2の表示名」、「範囲2の色」
 - 「範囲3の表示名」、「範囲3の色」



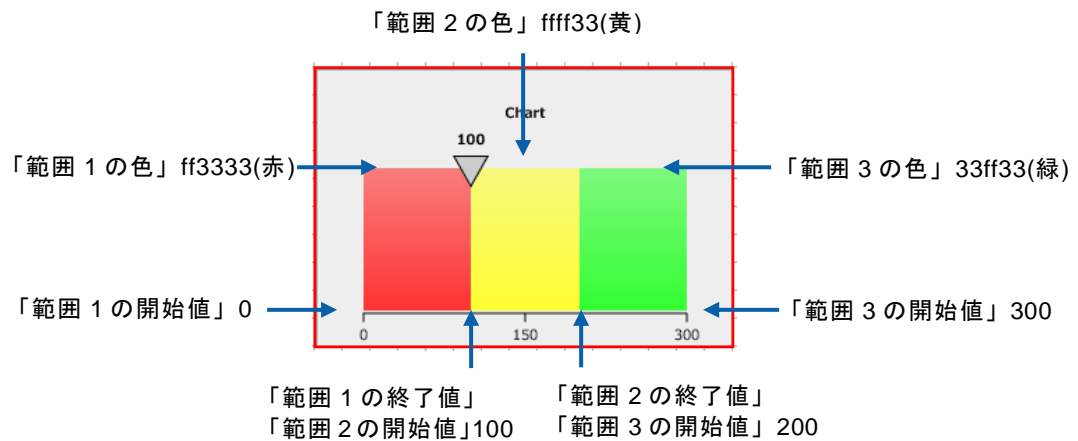
「範囲1の表示名」、「範囲2の表示名」、「範囲3の表示名」を設定できるのは、「線ゲージ」のみです。

サンプルの初期状態のプロパティは以下のとおりです。

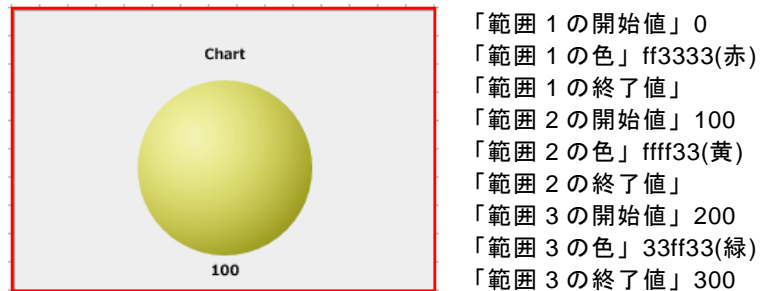
●ゲージ（スピードメーターも同様です。）



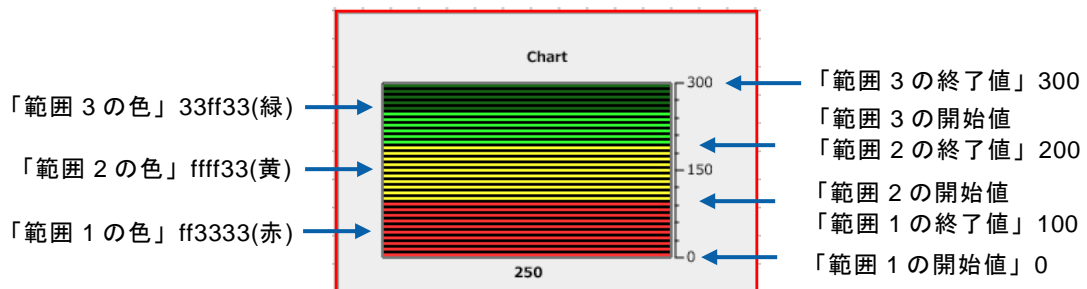
●線ゲージ



●球体（データの値が示す範囲の色で球体が表示されます。）



●LED（横）（LED（縦）も同様です。）



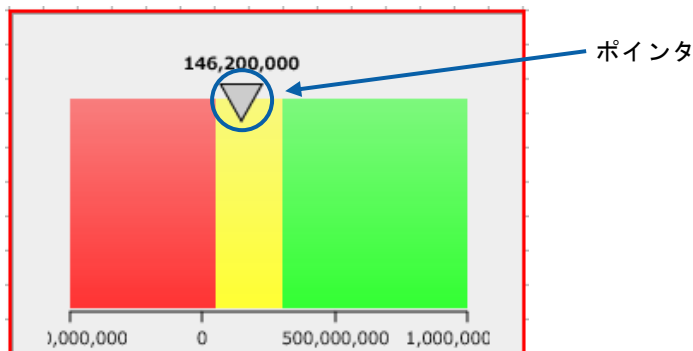
6-1 標準表形式の場合

- ゲージで、標準表形式の照会定義を選択した場合は、データを1つ選択します。
- データにバインドした項目名のリストに表示される最初の値が、ゲージの示す値となります。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「ゲージ（線ゲージ）」にバインドする方法を例に手順を説明します。

月	損益	損益目標	損益目標地点1	損益上限
1	429290000.000	348000000.000	243600000.000	522000000.000

照会定義：「損益合計」



「損益」のリストの最初の値が、ポインタの示す値（ここでは、「146200000」）になる

手順

1. 線ゲージを配置します。
2. プロパティシートの[表示]タブをクリックし、[軸]を開きます。



3. 線ゲージの閾値を設定します。

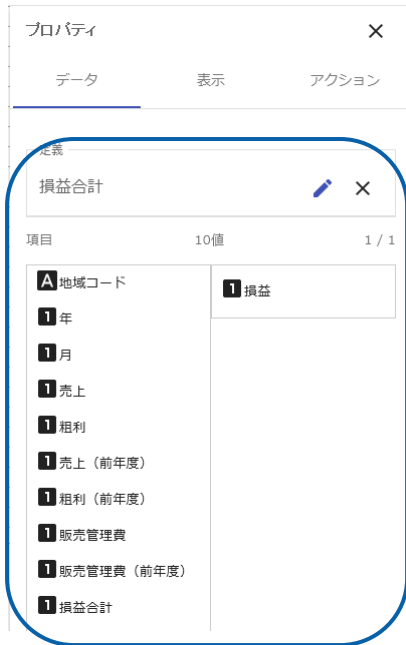
[範囲1の開始値]に「-50000000」、[範囲1の終了値]に「50000000」と入力します。

[範囲2の開始値]に「50000000」、[範囲2の終了値]に「300000000」と入力します。

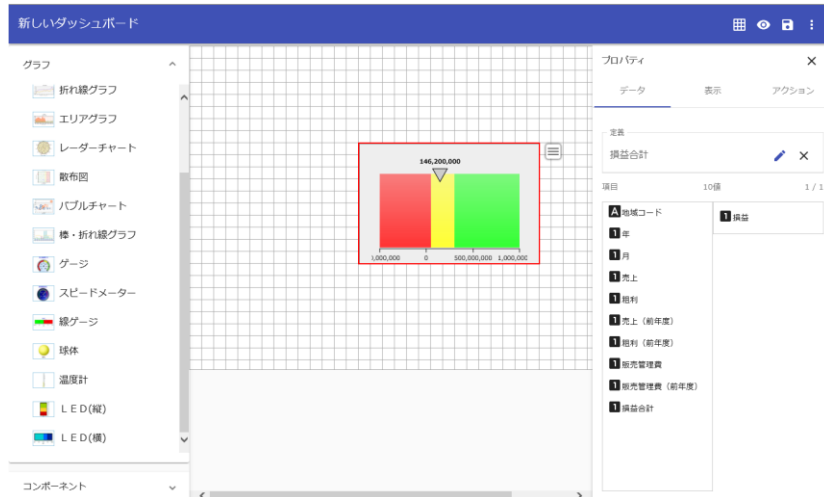
[範囲3の開始値]に「300000000」、[範囲3の終了値]に「950000000」と入力します。



4. プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
5. [定義] をクリックし、[定義選択] シートでグラフにバインドする照会定義「損益合計」を選択します。
6. [値] に「損益」を選択します。



線ゲージにデータがバインドされます。



6-2 クロス集計形式の場合

- ゲージで、クロス集計形式の照会定義を選択した場合は、クロス集計対象となる項目を1つ選択します。
- データにバインドしたクロス集計対象となる項目の最初の値が、ゲージの示す値となります。

ここでは、以下のようなクロス集計形式の定義を「ゲージ（スピードメーター）」にバインドする方法を例に説明します。

地域名	名古屋	大阪	東京
年	売上	売上	売上
2005	553640700.000	843800000.000	1383219190.000
2006	738600000.000	1087900000.000	1877000000.000

照会定義：「年・地域別売上」

[範囲1の開始値]に「0」、[範囲1の終了値]に「300000000」と入力します。

[範囲2の開始値]に「300000000」、[範囲2の終了値]に「600000000」と入力します。

[範囲3の開始値]に「600000000」、[範囲3の終了値]に「900000000」と入力します。

範囲1	範囲2	範囲3
開始値 0	開始値 300000000	開始値 600000000
終了値 300000000	終了値 600000000	終了値 900000000
色 #FF3333	色 #FFFF33	色 #33FF33

照会定義「年・地域別売上」を選択し、[値]に「売上」を選択します。



[売上]の最初の値（「553640700」）が、メーターの示す値となります。

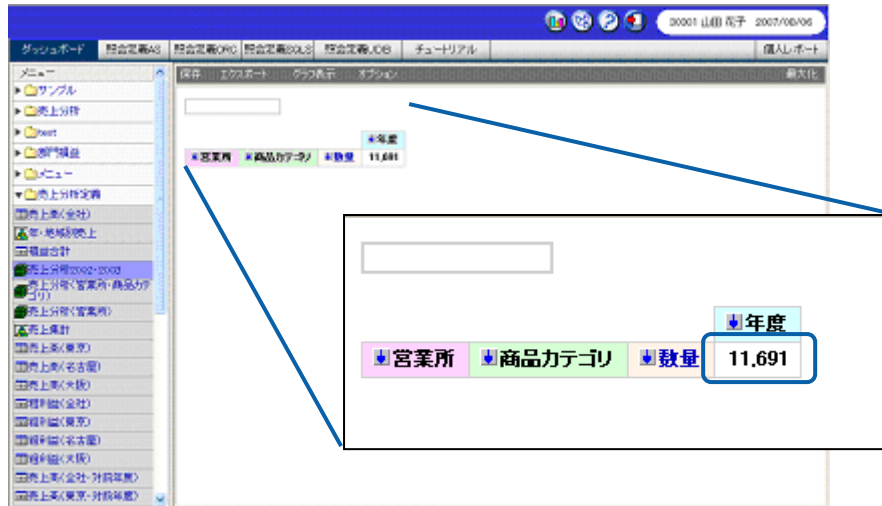


ゲージにクロス集計形式の照会定義をバインドする手順の詳細については、『第2章 6-1 標準表形式の場合』を参照してください。

6-3 キューブデータの場合

- ゲージでキューブデータの照会定義を選択した場合は、数値次元の項目を1つ選択します。
- データにバインドした次元・レベルの最初の値が、ゲージの示す値となります。

ここでは、以下のような形のキューブデータの定義を「ゲージ（LED（縦）」）にバインドする方法を例に説明します。



照会定義：「売上分析」

[範囲1の開始値]に「0」、[範囲1の終了値]に「5000」と入力します。

[範囲2の開始値]に「5000」、[範囲2の終了値]に「10000」と入力します。

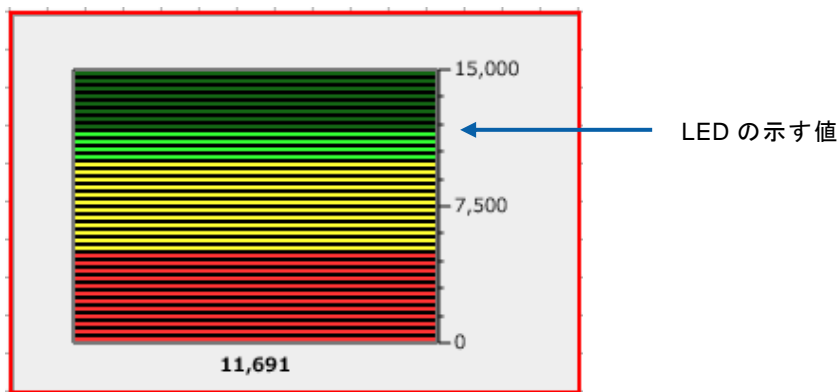
[範囲3の開始値]に「10000」、[範囲3の終了値]に「15000」と入力します。

範囲1	範囲2	範囲3
開始値 0	開始値 5000	開始値 10000
終了値 5000	終了値 10000	終了値 15000
色 #FF3333	色 #FFFF33	色 #33FF33

照会定義「売上分析」を選択し、[値]に「数量」を選択します。



「数量」の最初の値（11691）が、LEDの示す値となります。



ゲージにキューブデータの照会定義をバインドする手順の詳細については、『第2章 6-1 標準表形式の場合』を参照してください。

7 表

選択した照会定義のデータを表形式で表示します。

- グラフ：データグリッド
- データとして使用できる照会定義：標準表形式、クロス集計形式、キューブデータ

7-1 標準表形式の場合

- 標準表形式の照会定義を選択した場合は、項目を複数設定します。
- 項目にバインドした項目名がデータグリッドの列項目になります。
- [行と列を入れ替える] を有効にすると、データグリッドの行と列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のような標準表形式の定義を「データグリッド」にバインドする方法を例に手順を説明します。

照会定義：「売上・粗利(全社・対前年度)」

売上	売上(前年度)	粗利	粗利(前年度)
4 2200000000.000	2000400000.000	5500000000.000	5000000000.000
5 2943000000.000	2998000000.000	7340000000.000	6990400000.000
6 3999000000.000	3217000000.000	9160000000.000	8048500000.000
7 2599000000.000	2178000000.000	6420000000.000	5445000000.000
8 2888000000.000	2623000000.000	1458000000.000	5900700000.000
9 4400000000.000	4000000000.000	11000000000.000	10000000000.000
10 2566000000.000	2352100000.000	6420000000.000	5880200000.000
11 3666000000.000	3270000000.000	9160000000.000	8177500000.000
12 6050000000.000	5500000000.000	15130000000.000	13760000000.000
1 2566000000.000	2368000000.000	6420000000.000	5850000000.000
2 5546000000.000	5042000000.000	13860000000.000	12600000000.000
3 4400000000.000	4730000000.000	11000000000.000	11750000000.000

月	売上	粗利
4	200040000.000	50000000.000
5	266600800.000	66604000.000
6	321709090.000	80455000.000
7	217800000.000	54450000.000
8	262300000.000	65607000.000
9	400000000.000	100000000.000
10	235210000.000	58802000.000
11	327000000.000	81775000.000
12	550000000.000	137600000.000
1	236800000.000	58500000.000
2	504200000.000	126000000.000
3	473000000.000	117500000.000
4	200040000.000	50000000.000

列項目に「月」と「売上」と「粗利」を表示

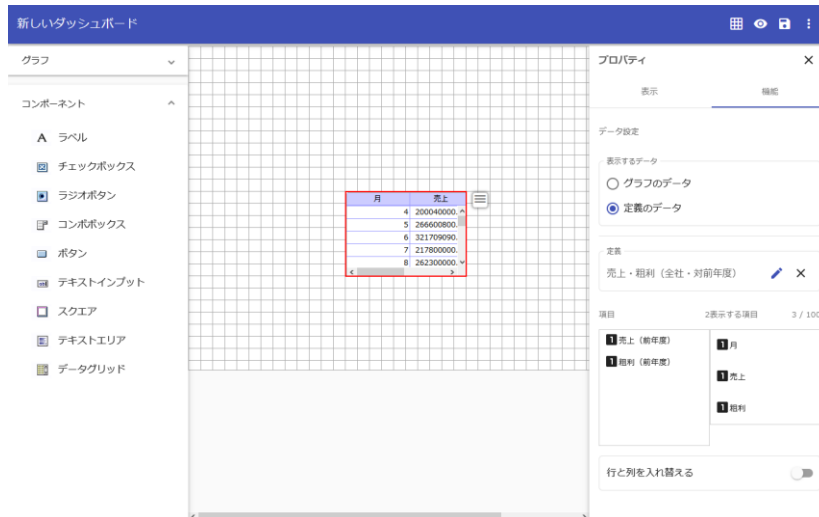
手順

1. グラフ選択シートからデータグリッドをクリックして配置し、プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
2. [定義のデータ] を選択します。
3. [定義] をクリックし、[定義選択] シートで表にバインドする照会定義「売上・粗利（全社・対前年度）」を選択します。
4. [項目] に「月」、「売上」、「粗利」をそれぞれ選択します。



データグリッドにデータがバインドされます。

適宜、データグリッドのサイズや位置を調整します。



7-2 クロス集計形式の場合

- クロス集計形式の照会定義を選択した場合は、照会定義実行時と同じ形式でデータグリッドが表示されます。
- [行と列を入れ替える] を有効にすると、データグリッドの行と列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のようなクロス集計形式の定義を「データグリッド」にバインドする方法を例に説明します。

年度	半期	四半期	売上年月	営業所 中部営業所			中部営業所 三重県			中部営業所 三重県			中部営業所 富山県		
				数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益	数量	売上金額	粗利益
2002年度	1H	1Q	200204												
2002年度	1H	1Q	200205												
2002年度	1H	1Q	200206												
2002年度	1H	2Q	200207												
2002年度	1H	2Q	200208												
2002年度	1H	2Q	200209	1	5080	3184	5	7450	5340						
2002年度	2H	3Q	200210	2	10160	6368	5	7450	5340						
2002年度	2H	3Q	200211												

照会定義：「売上集計」

※拡大図はクロス集計表の一部です。

データグリッドを配置し、[データ] タブの [定義のデータ] を選択し、照会定義を選択します。

照会定義と同じ形式でデータグリッドが表示されます。

営業所 担当地区				中部営業所 三重県		
商品カテゴリ 商品名				カウンター カウンター		
年度	半期	四半期	売上年月	数量	売上金額	
2013年度	1 H	1 Q	201304			
2013年度	1 H	1 Q	201305			
2013年度	1 H	1 Q	201306			
2013年度	1 H	2 Q	201307			
2013年度	1 H	2 Q	201308			
2013年度	1 H	2 Q	201309	1		5
2013年度	2 H	3 Q	201310	2		10
2013年度	2 H	3 Q	201311			
2013年度	2 H	3 Q	201312	1		5
2013年度	2 H	4 Q	201401			
2013年度	2 H	4 Q	201402			
2013年度	2 H	4 Q	201403	1		5
2014年度	1 H	1 Q	201404			
2014年度	1 H	1 Q	201405	2		10

データグリッドにクロス集計形式の照会定義をバインドする手順の詳細については、『第2章 7-1 標準表形式の場合』を参照してください。

7-3 キューブデータの場合

- キューブデータの照会定義を選択した場合は、照会定義実行時と同じ形式でデータグリッドが表示されます。
- バインドできる照会定義は、展開されたキューブデータだけです。
- [行と列を入れ替える] を有効にすると、データグリッドの行と列を入れ替えて表示できます。

ここでは、以下のように「標準表」タイプで展開されたキューブデータの定義を「データグリッド」にバインドする方法を例に説明します。

The screenshot shows a software interface with a pivot table. The main table has columns for '年度' (Year) and '商品カテゴリ' (Product Category), and rows for '数量' (Quantity), '売上金額' (Sales Amount), and '粗利益' (Gross Profit). The data is grouped by six business divisions: 中部営業所, 九州営業所, 北海道営業所, 四国営業所, 大瀬営業所, and 東北営業所. A callout box highlights a view where the columns are '年度' and '商品カテゴリ', and the rows are '数量', '売上金額', and '粗利益', with data for the first four divisions: 中部営業所, 九州営業所, 北海道営業所, and 四国営業所.

年度	商品カテゴリ				
	中部営業所	九州営業所	北海道営業所	四国営業所	
数量	1,995	2,815	562	923	
売上金額	16,505,478	42,189,620	7,018,382	4,548,900	
粗利益	8,913,711	22,517,777	1,587,922	2,732,708	

照会定義：「売上分析（営業所）」

データグリッドを配置し、「定義のデータ」を選択し、照会定義を選択します。

プロパティ

表示 機能

データ設定

表示するデータ

グラフのデータ

定義のデータ

定義

売上分析 (営業所)

行と列を入れ替える

照会定義と同じ形式で表が表示されます。

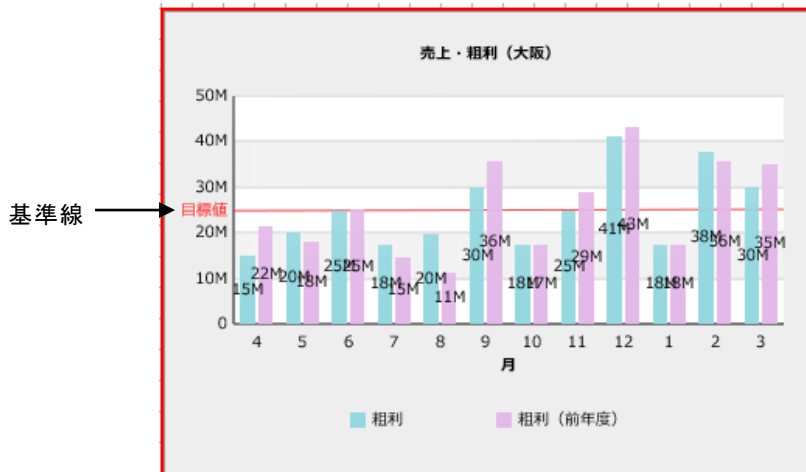
営業所	中部営業所	九州営業所	北海道営業所	四国営業所	大阪営業所
数量	1995	2815	562	923	1
売上金額	16505478	42189620	7018382	4548900	51047
粗利益	8913711	22517777	1587922	2732708	15520

データグリッドにキューブデータの照会定義をバインドする手順の詳細については、『第2章 7-1 標準表形式の場合』を参照してください。

8 基準値の設定

データバインドしたグラフに基準値を設定することができます。

基準値を設定すると、グラフ上に基準線やゾーンが表示され、基準とする値に到達しているかいないかを簡単に判別できるようになります。



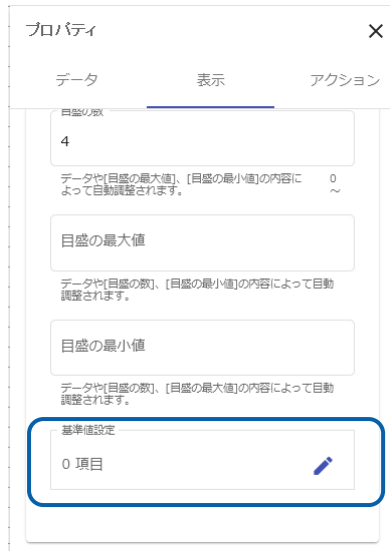
基準値を設定できるグラフは以下のとおりです。

- 複数：棒グラフ、横棒グラフ、折れ線グラフ、エリアグラフ、
- 複数（変形）：散布図、バブルチャート

ここでは、「棒グラフ」に基準値を設定する場合を例に手順を説明します。

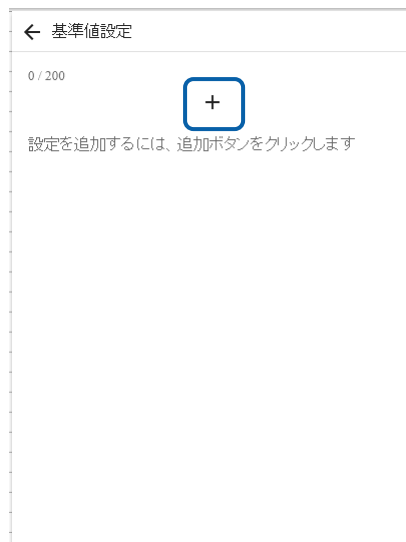
1. 基準線を設定したいグラフを選択します。

2. プロパティシート of [表示] タブ→[縦軸]→[基準値設定]をクリックします。



[基準値設定] シートが表示されます。

3. 追加ボタンをクリックします。



4. 各設定値を入力します。

ここでは、[開始値]に「25000000」、[終了値]に「25000000」、[表示名]に「目標値」と入力します。また、[色]をカラーチャートから選択します。

[開始値]と[終了値]に異なる値を設定し、[ゾーン]を有効にすると、帯状の太線で表示されます。「なし」を選択すると[開始値]と[終了値]を結ぶ線で表示されます。

× 基準値設定の編集 ✓

開始値
25000000

終了値
25000000

表示名
目標値
3 / 256

色 #FF3333

ゾーン

5. 右上のチェックボタンをクリックします。

× 基準値設定の編集 ✓

開始値
25000000

終了値
25000000

表示名
目標値
3 / 256

色 #FF3333

ゾーン

一覧に設定した基準値が表示されます。

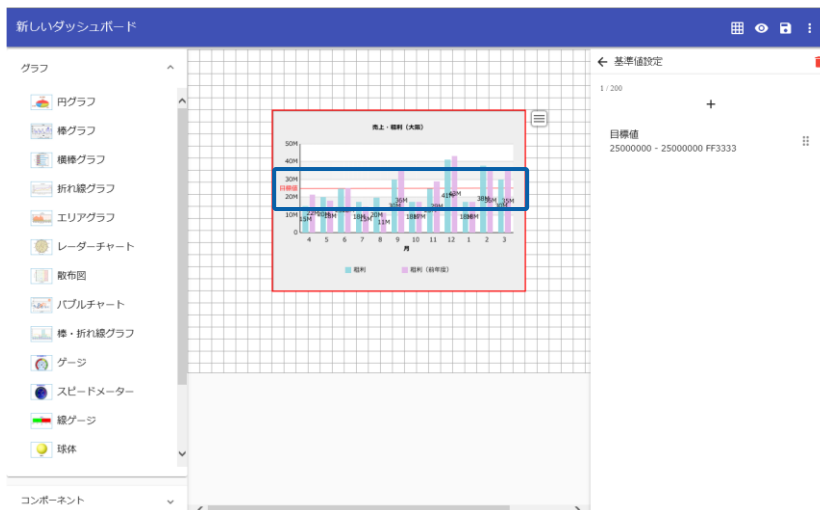
← 基準値設定

1 / 200

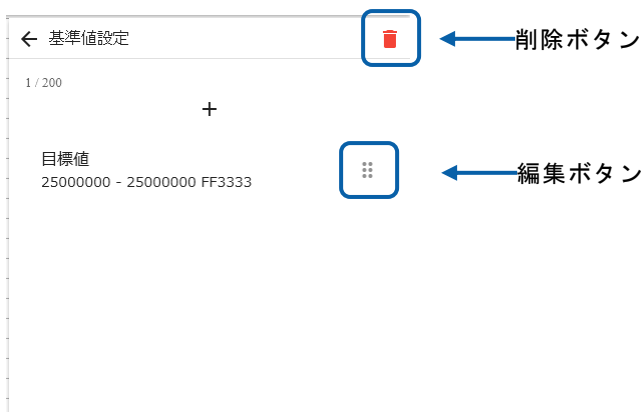
+

目標値
25000000 - 25000000

グラフに基準値が設定されます。



- 6. 複数の基準値を設定する場合は、手順 3~5 を繰り返します。
- 7. 編集、削除する場合は、編集ボタン、削除ボタンをクリックします。



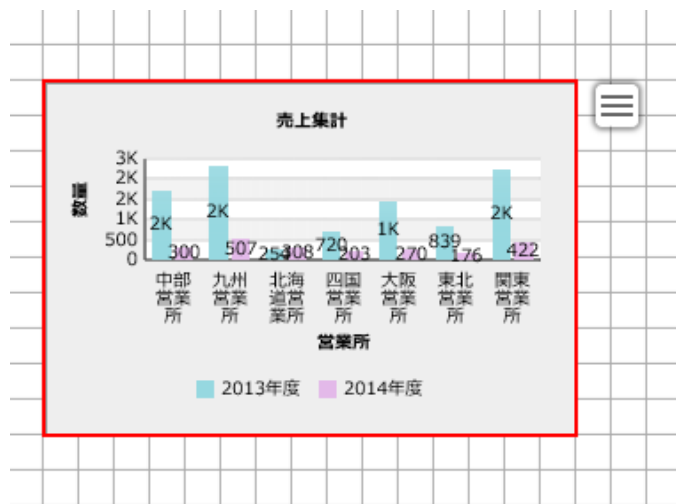
9 グラフの変更

グラフの種類を変更することができます。

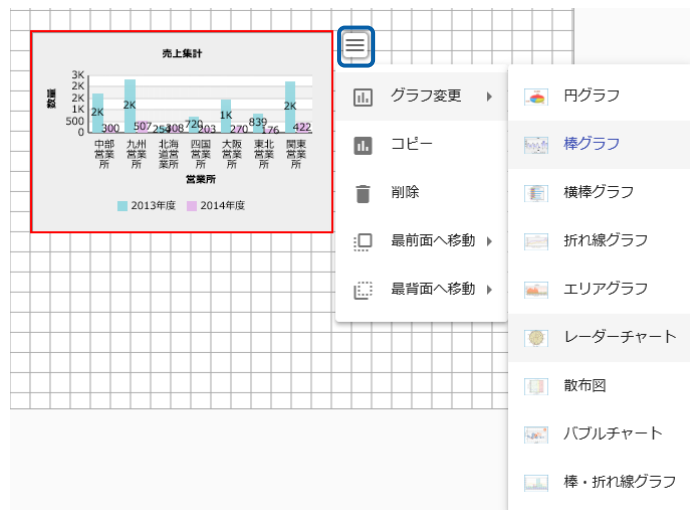
変更後のグラフには、グラフのサイズや配置、キャプションなど引き継ぎ可能なものは引き継がれ、元のグラフに固有の項目は削除されます。

ここでは、標準表形式のデータがバインドされた、「棒グラフ」を「レーダーチャート」に変更する場合を例に手順を説明します。

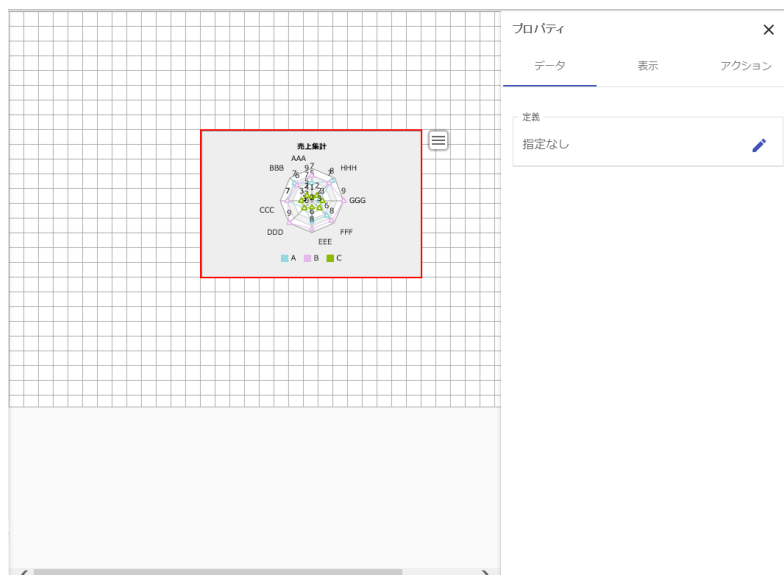
1. キャンバス上で種類を変更したいグラフを選択します。



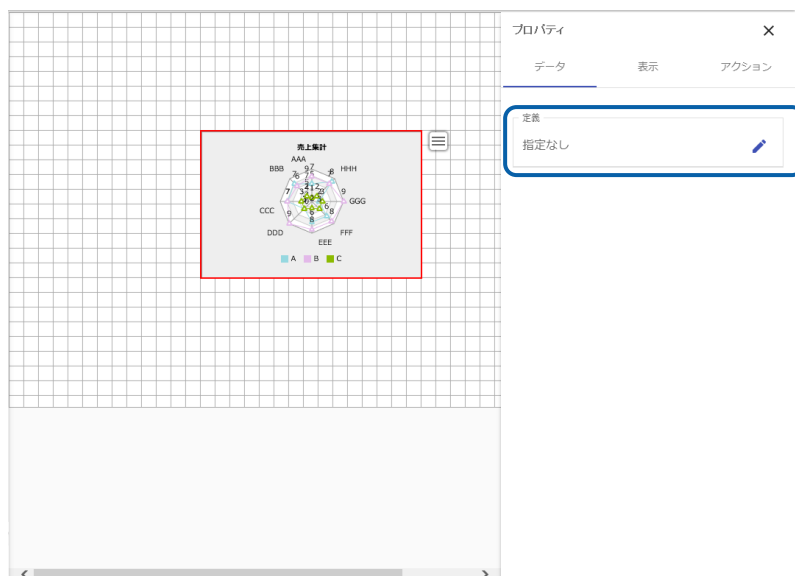
2. 右上のツールボタンをクリックし、[グラフ変更] → [レーダーチャート]を選択します。



棒グラフがレーダーチャートに変更されます。



3. プロパティシートからデータ設定をおこなってください。



10 予測分析

時系列に並んだ実績値を分析し、予測値をグラフで表示することができます。

10-1 使用方法

1. ダッシュボードエディタで「折れ線グラフ」を選択し、「データ」タブをクリックします。
2. 定義、項目を選択した後、「時系列予測データを表示する」を有効にします。



3. 詳細な設定をおこなう場合は[時系列予測設定]をクリックします。

プロパティ ×

データ 表示 アクション

定義

売上・粗利 (全社・対前年度) ✎ ✕

項目 3X軸 1 / 1

1 売上 (前年度)	1 月
1 粗利	Y軸 1 / 100
1 粗利 (前年度)	1 売上

X軸と系列を入れ替える

時系列予測設定

時系列予測データを表示する

時系列予測設定

1 項目 ✎

時系列予測シートが表示されます。

4. 各種項目を設定後に右上のチェックボタンをクリックします。

× 時系列予測 ☑

予測割合

予測期間の割合

60% ▼

集計設定

単位

集計なし 月

種別

合計 平均 最大 最小

表示設定

境界線

項目設定 1

予測項目名

売上(予測) 6 / 256

線の種類

実線 点線

線の色

自動 予測対象項目と同じ

設定できる内容は以下のとおりです。

設定項目		設定内容
予測割合	予測期間の割合	「10%」～「90%」の中から選択します
集計設定	単位	「集計なし」、「月」の中から選択します
	種別	単位に「月」を選択した時に「合計」、「平均」、「最大」、「最小」の中から選択します
表示設定	境界線	「有効」、「無効」から選択します
項目設定(※1)	予測項目名	項目の名前を指定します
	線の種類	「実線」、「点線」の中から選択します
	線の色	「自動」、「予測対象項目と同じ」の中から選択します

10-2 注意事項

グラフの種類

本機能は、「折れ線グラフ」の場合のみ使用することができます。

ダッシュボードエディタにおいて、他のグラフを選択した場合は、本機能の設定項目が表示されません。

参照する定義の種類

本機能は、参照する定義が「標準表」の場合のみ使用することができます。

「クロス表」、「キューブ定義」を選択した場合は、本機能の設定項目が表示されません。

X軸に指定できるデータの型と書式

「X軸」に指定できるデータの型と書式は以下のとおりです。

データ型	データ書式	対応(O)、非対応(x)
日付型	YYYY-MM-DD YYYY-M-D YYYY/MM/DD YYYY/M/D YYYYMMDD	O
	上記以外	x
日付時刻型	YYYY-MM-DD * YYYY-M-D * YYYY/MM/DD * YYYY/M/D * YYYYMMDD*	O(※2)
	上記以外	x
文字列型(年月日)	YYYY-MM-DD *	O(※2)

データ型	データ書式	対応(O)、非対応(x)
	YYYY-M-D * YYYY/MM/DD * YYYY/M/D * YYYYMMDD *	
	上記以外	x
文字列型(年月)	YYYY-MM YYYY-M YYYY/MM YYYY/M YYYYMM	O
	上記以外	x
数値型		x

※2 時、分、秒、ミリ秒の値は使用されません。

Y 軸に指定できるデータの型

「Y 軸」で指定する値項目のデータ型は以下のとおりです。

データ型	対応(O)、非対応(x)
数値型	O
文字列型(数値文字列)	O
文字列型(数値文字列以外)	x
日付型	x
日付時刻型	x

実行エラーになるパターン

以下の場合、実行時にエラーとなります。

- 「X 軸に指定できるデータの型と書式」で非対応(x)のデータ型とデータ書式の場合
- X 軸のデータが空の場合
- X 軸のデータが日時順でソートされていない場合
- 「Y 軸に指定できるデータの型」で非対応(x)のデータ型の場合
- 最大データ件数が 20000 件を超える場合(予測データを含む)

例)「予測期間の割合」が「50%」の時、予測に使用するデータが 10000 件より大きい場合、エラーとなります。

- 予測対象項目のデータ期間が、

X 軸のデータ型が年月日の時 : 8 日に満たない場合

X 軸のデータ型が年月の時 : 93 日に満たない場合

第 3 章

コンポーネントによる
データの更新・検索・表示

1 コンポーネントの種類とデータ取得方法

コンポーネントを利用すると、ダッシュボード上にテキストや四角形を配置したり、グラフを更新することができます。また、表形式でデータを表示することもできます。

ダッシュボードエディタには、コンポーネントとして、以下の9種類が用意されています。

各コンポーネントの機能とプロパティの設定は以下のとおりです。

コンポーネントの種類	機能	プロパティの設定
ラベル	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュボード上にテキストを表示 	<ul style="list-style-type: none"> [テキスト] に表示したいテキストを入力
チェックボックス	<ul style="list-style-type: none"> グラフを表示するための検索条件として使用 チェックボックスにチェックマークを付けてボタンをクリックすると、「値」で検索した結果がグラフに表示 	<ul style="list-style-type: none"> @INPUT(@GET("変数名"))を含む定義をバインドしたグラフを配置し、チェックボックスのプロパティで@INPUT(@GET())で指定した変数名を[プロパティ名]に、検索したい値を[値]に入力する
ラジオボタン	<ul style="list-style-type: none"> グラフを表示するための検索条件として使用 ラジオボタンを1つ選択し、「ボタン」をクリックすると、選択したラジオボタンの「値」で検索した結果がグラフに表示 「自動で更新」の機能を使うと、「ボタン」がなくても結果を表示可能 	<ul style="list-style-type: none"> 2つ以上の配置が必要 @INPUT(@GET("変数名"))を含む定義をバインドしたグラフを配置し、ラジオボタンのプロパティで@INPUT(@GET())で指定した変数名を[プロパティ名]に、検索したい値を[値]に入力する (『第3章 2-1 ラジオボタンの場合』参照)
コンボボックス	<ul style="list-style-type: none"> グラフを表示するための検索条件として使用 コンボボックスで値を1つ選択しボタンをクリックすると、選択した「表示名」の「値」で検索した結果がグラフに表示 「自動で更新」の機能を使うと、「ボタン」がなくても結果を表示可能 	<ul style="list-style-type: none"> @INPUT(@GET("変数名"))を含む定義をバインドしたグラフを配置し、コンボボックスの[機能設定]ダイアログで@INPUT(@GET())で指定した変数名を[プロパティ名]に、ドロップダウンリストに表示するテキストを[表示名]に、それに対応する値を[値]に入力 (『第3章 2-2 コンボボックスの場合』参照)
ボタン	<ul style="list-style-type: none"> チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットを使用したときに、データを送信し、グラフを更新する 「自動更新」の機能を使うと、指定した時間間隔でグラフのデータを自動的に更新可能 (『第3章 3 自動更新の設定』参照) 	—

コンポーネントの種類	機能	プロパティの設定
テキスト入力	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを表示するための検索条件として使用 ・テキスト入力に値を入力し、ボタンをクリックすると、入力した「値」で検索した結果がグラフに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・@INPUT(@GET("変数名"))を含む定義をバインドしたグラフを配置し、テキスト入力のプロパティで@INPUT(@GET())で指定した変数名を[プロパティ名]に入力
スクエア	<ul style="list-style-type: none"> ・ダッシュボード上に四角形を表示 	—
テキストエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ダッシュボード上に複数行にわたるテキストを表示 	—
データグリッド	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフにバインドされている照会定義のデータを表形式で表示 (『第3章 4 データの表示』参照) ・表に照会定義をバインド (『第2章 7 表』参照) 	—






コンポーネントによって設定する内容が異なります。
各コンポーネントのプロパティについては、『付録 3 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。

2 データの更新と検索

ラジオボタン、チェックボックス、コンボボックス、テキストインプット、およびボタンを、@INPUT(@GET())を使用した定義でバインドしたグラフとともに利用すると、各コンポーネントの値によってデータを検索し、グラフを更新することができます。

コンポーネントを利用してグラフのデータを更新するためのダッシュボード定義を作成するには、以下の手順で行います。

1 照会定義の作成	@INPUT(@GET())を使用した照会定義を作成します。 使用する本製品の機能 … 定義設定
	
2 グラフの配置	グラフを配置し、「1.照会定義の作成」で作成した照会定義をグラフにデータバインドします。 使用する本製品の機能 … ダッシュボードエディタ
	
3 コンポーネントの配置	ラジオボタンやボタンなどのコンポーネントを配置し、「データ更新」の機能とプロパティを設定します。 ダッシュボードエディタ上で、@INPUT(@GET("変数名"))で指定した「変数名」と、検索する「値」を設定します。 使用する本製品の機能 … ダッシュボードエディタ
	
4 ダッシュボード定義の実行	保管したダッシュボード定義を Web 上の定義実行画面で実行し、コンポーネントを使用します。 本製品を実行

2-1 ラジオボタンの場合

ラジオボタンを使用したダッシュボード定義の作成方法を前ページの作成手順にしたがって、説明します。

ここでは、以下のように表示したい地域名のラジオボタンを選択し、[データ更新] ボタンをクリックすると、目的の地域のデータだけが表示されるグラフの作成を例に手順を説明します。



1 照会定義の作成

検索条件に@INPUT(@GET("変数名"))を使用した照会定義を作成します。

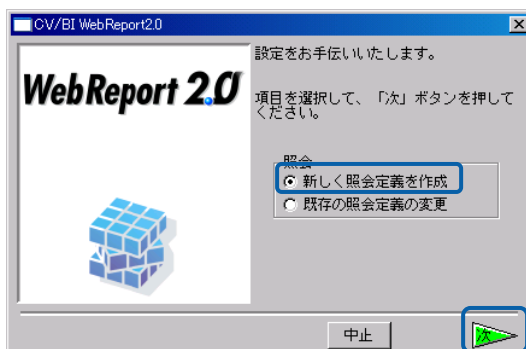
「東京」、「名古屋」、「大阪」という3つの地域があり、地域名を指定して、それぞれの売上データを見るレポートを作成します。

以下の手順で行います。

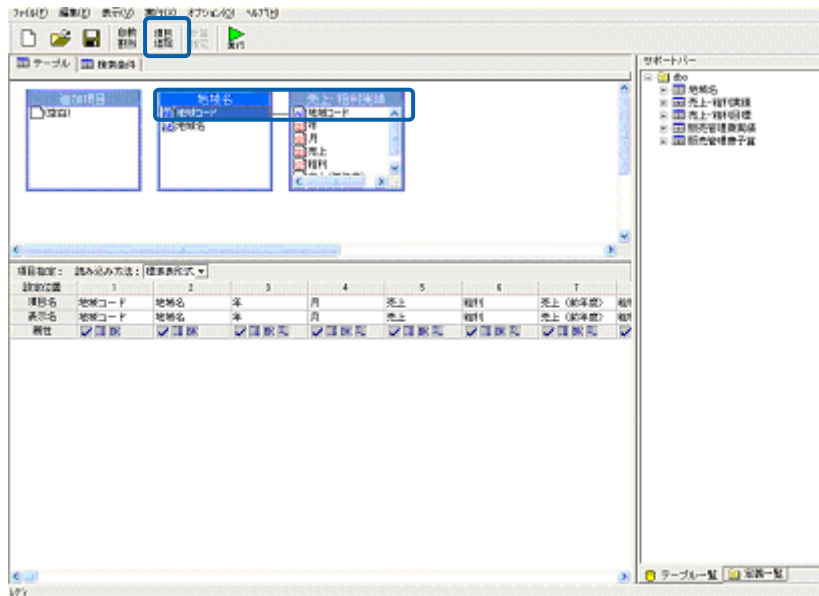
1. 本製品にログインし、[定義設定] ボタンをクリックします。



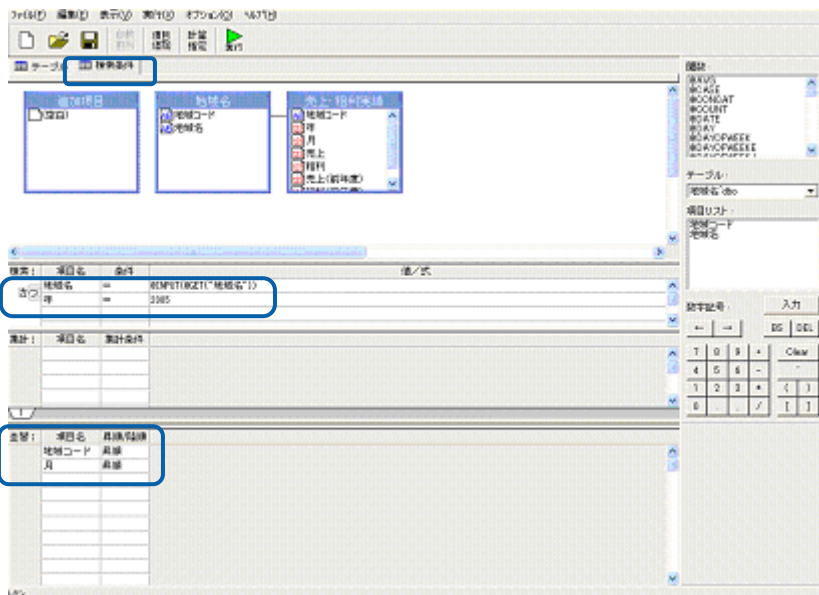
2. 定義設定ウィザードを起動し、[新しく照会定義を作成] を選択します。[次] ボタンをクリックします。



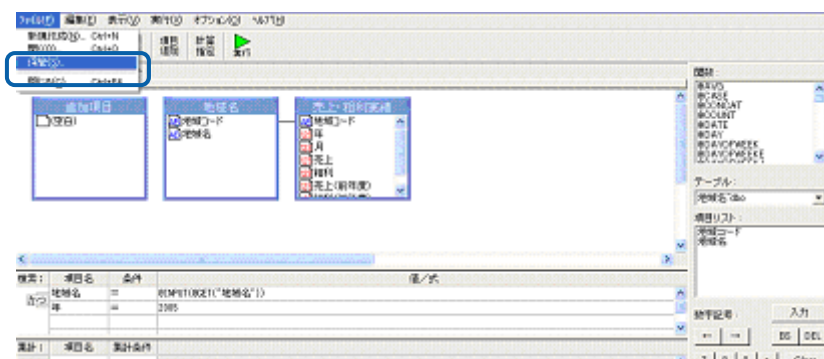
3. テーブル指定域に、「地域名テーブル」、「売上・粗利実績テーブル」をドロップします。
4. 「地域コード」でテーブル結合し、「[自動割当]」ボタンで項目を設定します。



5. [検索条件] タブをクリックします。
6. 検索条件に以下の設定をします。
 - 「地域名」 = @INPUT(@GET("地域名")) かつ
 - 「年」 = 2005
7. 並替条件に、以下の設定をします。
 - 「地域コード」昇順
 - 「月」昇順



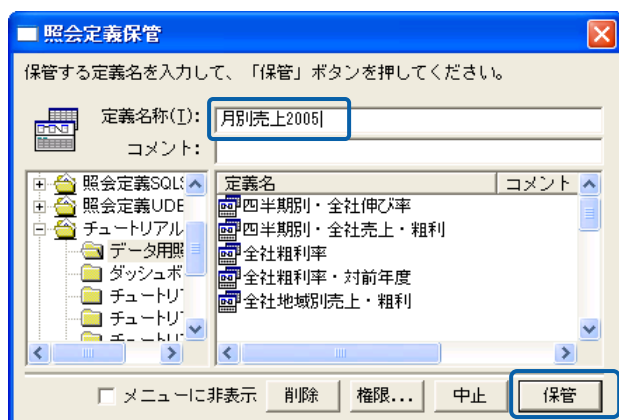
8. [ファイル] メニューの [保管] を選択します。



[照会定義保管] ダイアログが表示されます。

9. 任意のメニュー、フォルダを選択し、[定義名称] に名前を入力し、[保管] ボタンをクリックします。

ここでは、「チュートリアル」メニューの「データ用照会定義」というフォルダに、「月別売上 2005」という名前で保管します。



10. 定義設定画面を終了します。

2 グラフの配置

ダッシュボードエディタを起動し、ダッシュボード定義を作成します。

グラフを配置し、「1 照会定義の作成」で作成した照会定義（「月別売上 2005」）をバインドします。

以下の手順で行います。

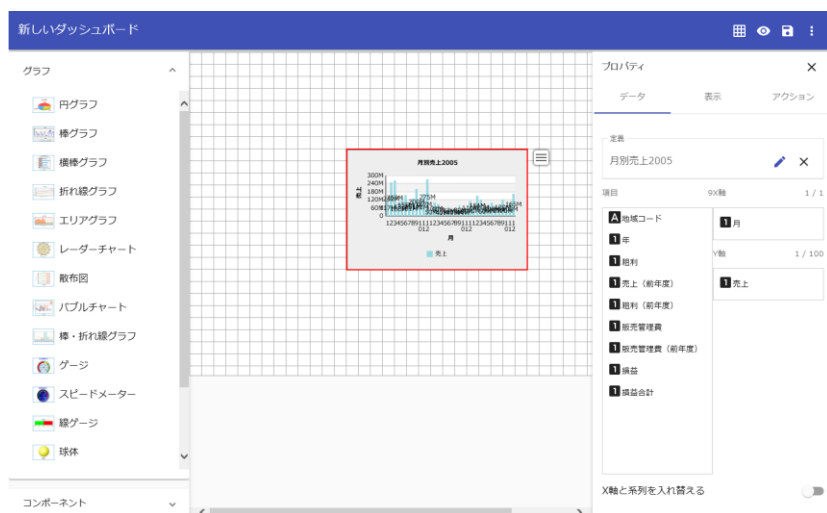
1. ダッシュボードエディタを起動します。
2. キャンバス上にグラフを配置します。

ここでは、棒グラフをグラフ選択シートから選択します。

3. プロパティシートの [データ] タブをクリックします。
4. [定義] をクリックし、[定義選択] シートで照会定義を選択します。
ここでは、「1 照会定義の作成」で作成した「月別売上 2005」を選択します。
5. [X 軸] に「月」、[Y 軸] に「売上」を設定します。



グラフにデータがバインドされます。



このときは、@INPUT(@GET())の検索条件が無視された状態でデータが表示されます。



複数グラフへのデータバインドの手順については、『第2章 3 複数グラフ』を参照してください。

3 コンポーネントの配置

ラジオボタンとボタンを配置し、コンポーネントに「データ更新」の機能とプロパティを設定します。

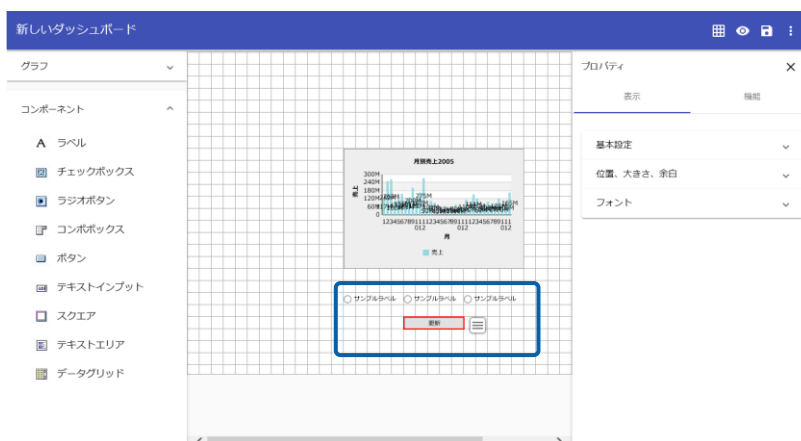


チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットを配置する際には、選択されたデータをサーバーへ送信するためのボタンが必要です。

ただし、ラジオボタンやコンボボックスのデータ更新の機能で「自動で更新」の機能を設定した場合は、ボタンがなくても、値を選択するだけでデータを更新することができます。

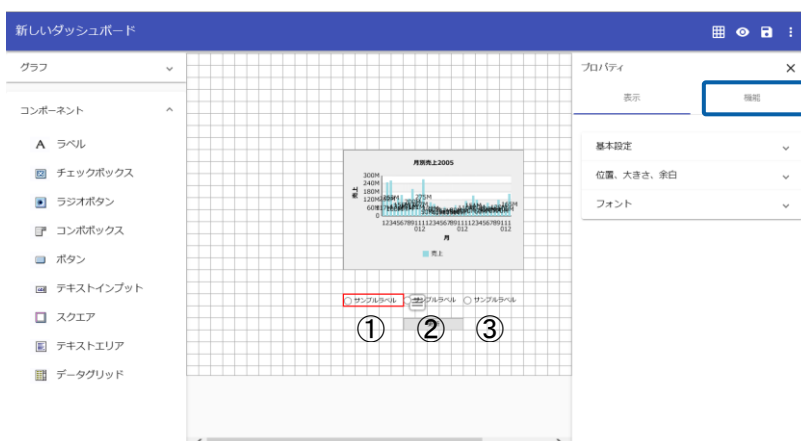
以下の手順で行います。

1. グラフ選択シートからラジオボタンを3つ、ボタンを1つキャンバス上に配置します。



2. ラジオボタンに「データ更新」の機能を設定します。

図の①のラジオボタンを選択し、プロパティシートの「機能」タブをクリックします。



3. [コンポーネントの機能] で [データ更新] を選択します。



[クリック時にデータを更新する] を有効にすると、ダッシュボード定義実行時にボタンが配置されていなくても、値を選択するだけで、データが更新されます。

4. 手順 2~3 を繰り返し、②、③のラジオボタンも同様に設定します。

5. 下記の項目を設定します。

タブ	項目	ラジオボタン		
		①のラジオボタン	②のラジオボタン	③のラジオボタン
[表示]	[テキスト]	「東京」	「名古屋」	「大阪」
	[選択状態]	「あり」	「なし」	「なし」
[機能]	[プロパティ名]	「地域名」	「地域名」	「地域名」
	[値]	「東京」	「名古屋」	「大阪」

[プロパティ名] に照会定義の@INPUT(@GET("変数名"))で指定した変数名を、[値] に検索したい値を設定します。

- ボタンに「データ更新」の機能を設定します。
ボタンを選択し、プロパティシートの [機能] タブをクリックします。
- [コンポーネントの機能] で「データ更新」、[更新対象]更新したいグラフを選択します。
ここでは、キャンバス上の棒グラフの「名前」 (「chart1」) を選択します。
グラフの名前は、プロパティシートの[表示]タブ→[基本設定]→ [名前] で確認できます。

プロパティ ×

表示 機能

基本設定

コンポーネントの機能

データ更新

リンク

データ更新設定

更新対象

chart1(棒グラフ)

自動で更新する

更新間隔 (秒)

20

1 ~ 300

- ボタンのラベルを設定します。
ボタンを選択し、プロパティシートの[表示]タブ→[基本設定]→ [テキスト] にボタンに表示する名前を入力します。ここでは、「データ更新」と入力します。

プロパティ ×

表示 機能

基本設定

テキスト

データ更新

5 / 256

タブインデックス

4

0 ~

表示

- 編集した内容をダッシュボード定義として保存します。
- ダッシュボードエディタを終了します。

4 ダッシュボード定義の実行

Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ラジオボタンの設定が正しくできているか確認します。

以下の手順で行います。

1. Web 実行画面でメニュー、フォルダを選択し、保管した定義名（「月別売上（地域）2005」）をクリックします。

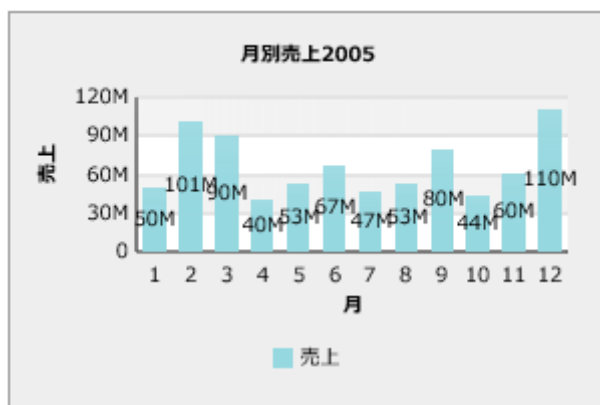
初期状態では、「東京」のラジオボタンの〔選択状態〕が「あり」に設定されているので、東京のデータだけが表示されます。



2. 変更したい地域名のラジオボタンをクリックし、〔データ更新〕ボタンをクリックします。

ここでは、「名古屋」を選択します。

グラフが更新され、名古屋のデータだけが表示されます。



東京

名古屋

大阪

データ更新

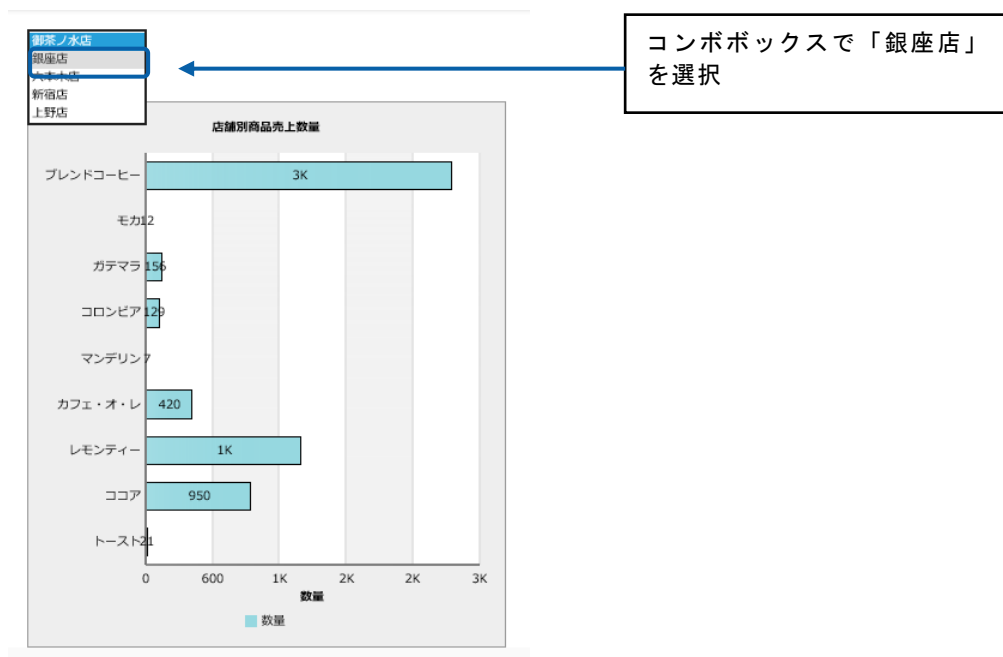
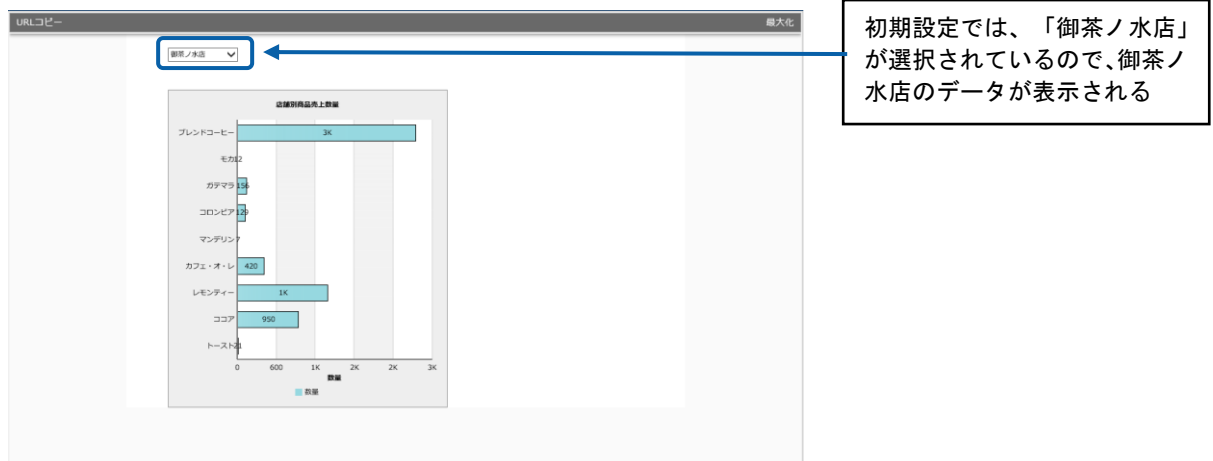
2-2 コンボボックスの場合

ここでは、コンボボックスを使用したダッシュボード定義の作成方法を説明します。

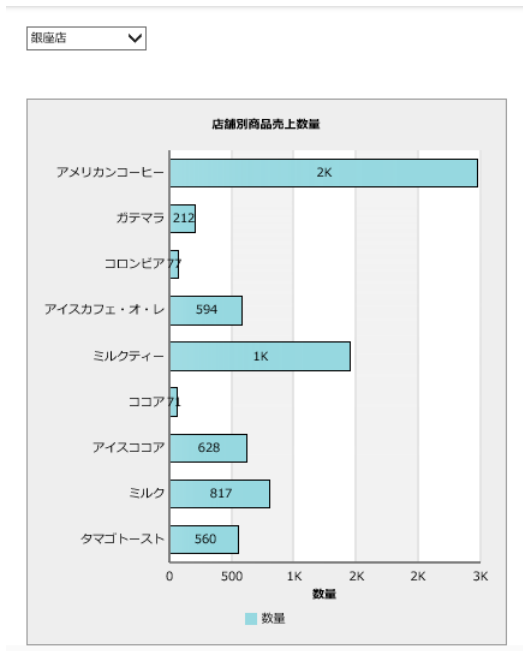
コンボボックスにはボタンと組み合わせて使用しなくても、コンボボックスで値を選択するだけでデータを更新する機能が用意されています。

ここでは、以下のように店舗名を選択すると、その商品別売上データが表示されるグラフの作成を例に手順を説明します。

手動でコンボボックスの値を設定する方法と、存在する「照会定義」の結果の「フィールド」で指定された列の値から設定する方法があります。



「銀座店」のデータを検索



「銀座店」の「店舗別商品売上数量」

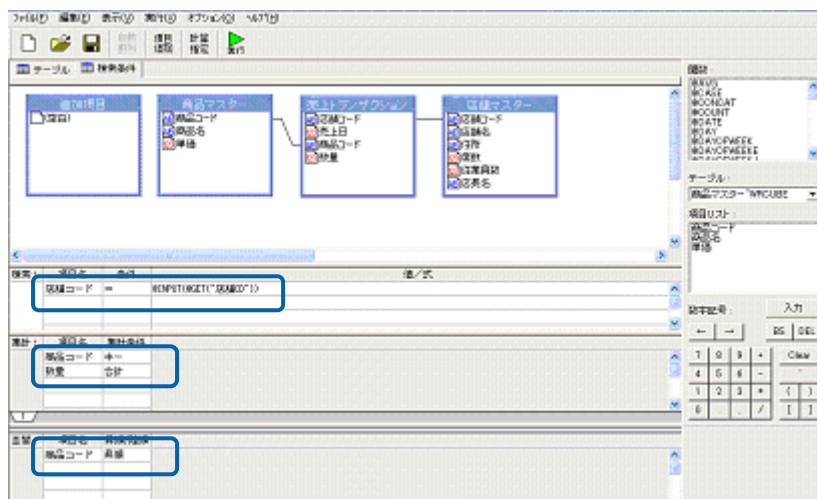
手順（手動で値を設定する場合）

1. 検索条件「(@INPUT(@GET("変数名")))」を使用した照会定義を作成します。

「御茶ノ水店」「銀座店」「六本木店」「新宿店」「上野店」などの店舗名を含む商品別の売上データを、店舗コードで照会し、それぞれの店舗の商品別売上数量を見るレポート（「店舗別商品売上数量」）を作成します。

検索条件を以下のように設定します。

- 検索 : 「店舗コード」 = @INPUT(@GET("店舗 CD"))
- 集計 : 「商品コード」のキー
「数量」の合計
- 並び替え条件 : 「商品コード」の昇順





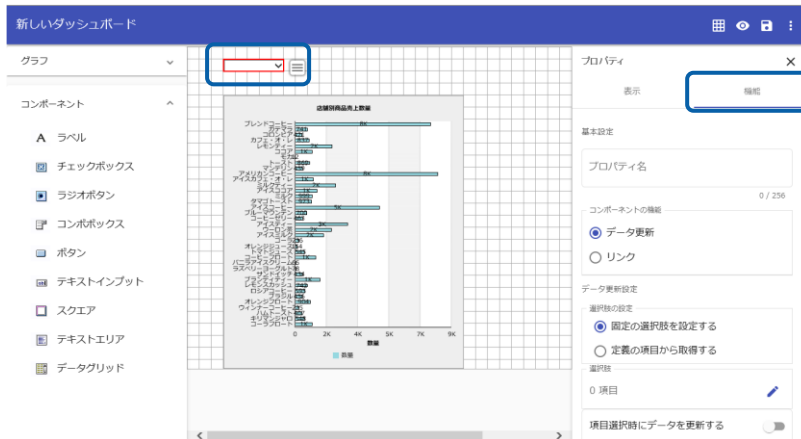
照会定義の作成については、『第3章 2-1 ラジオボタンの場合』の「1 照会定義の作成」を参照してください。

2. 横棒グラフを配置し、グラフに1で作成した照会定義（「店舗別商品売上数量」）をバインドします。

ここでは、[X軸]に「商品名」、[Y軸]に「数量」を設定します。



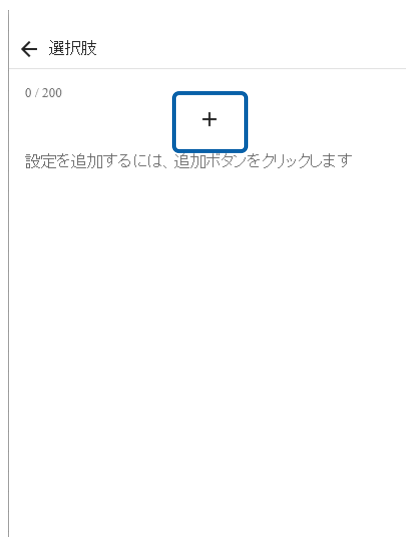
3. グラフ選択シートからコンボボックスをキャンバス上に配置します。
4. コンボボックスを選択し、プロパティシートの[機能]タブをクリックします。



5. [コンポーネントの機能]で[データ更新]を選択、[選択肢の設定]で[固定の選択肢を設定する]を選択します。



6. [選択肢]をクリックして、[選択肢]シートを表示します。
7. 追加ボタンをクリックします。



8. [表示名]に「御茶ノ水店」、[値]に「101」と入力し、右上のチェックボタンをクリックします。

× 選択肢の編集 ✓

表示名
御茶ノ水店 5 / 256

値
101 3 / 256

一覧に設定した内容が表示されます。

← 選択肢 🗑️

1 / 200

+

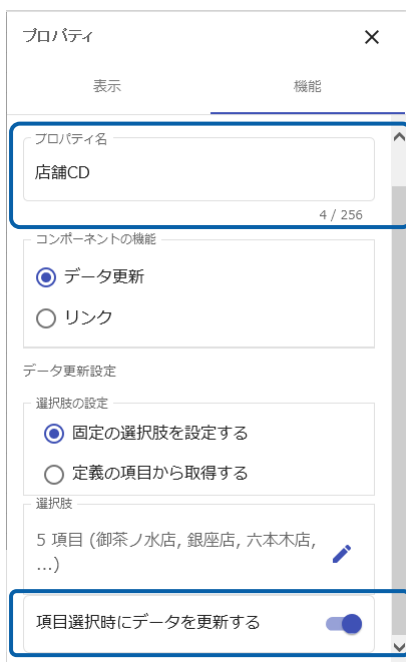
御茶ノ水店
101 ⋮

9. 手順 7、8 を繰り返し、コンボボックスに表示する [表示名] と [値] を設定します。

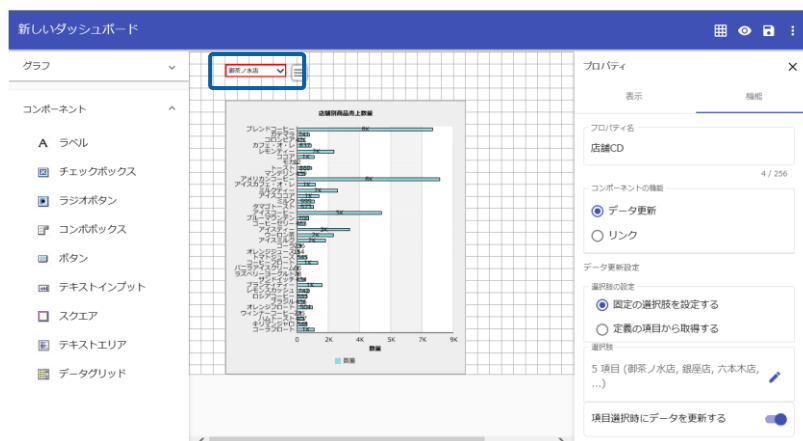
[表示名]	[値]
「銀座店」	「102」
「六本木店」	「103」
「新宿店」	「104」
「上野店」	「105」



10. [プロパティ名]に照会定義の@INPUT(@GET("変数名"))で指定した変数名「店舗CD」を入力、
[項目選択時にデータを更新する]を有効にします。



コンボボックスに、最初に設定した表示名の「御茶ノ水店」が表示されます。



11. 編集した内容をダッシュボード定義として保管します。
[ファイル]メニューの[保管]を選択し、「店舗別商品売上数量分析」という名前で保管します。
12. ダッシュボードエディタを終了します。
13. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、コンボボックスの設定が正しくできているか確認します。

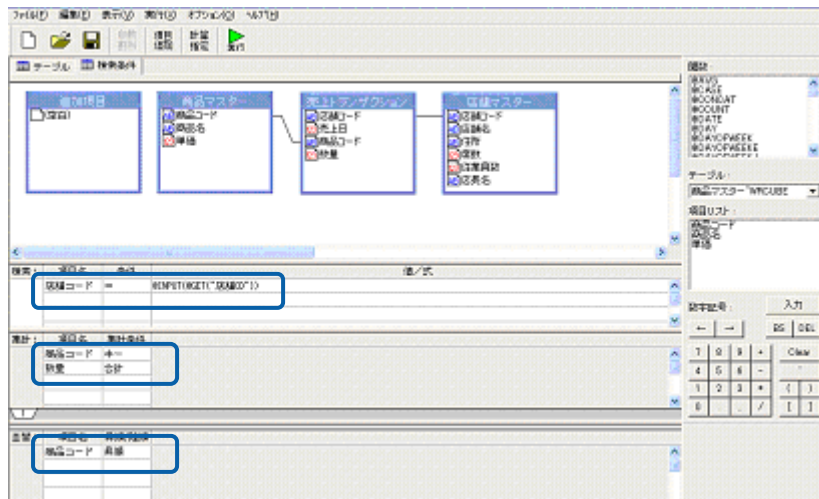
手順（定義の結果から値を取得する場合）

1. 検索条件「（@INPUT(@GET("変数名"))）」を使用した照会定義を作成します。

「御茶ノ水店」「銀座店」「六本木店」「新宿店」「上野店」などの店舗名を含む商品別の売上データを、店舗コードで照会し、それぞれの店舗の商品別売上数量を見るレポート（「店舗別商品売上数量」）を作成します。

検索条件を以下のように設定します。

- 検索 : 「店舗コード」 = @INPUT(@GET("店舗 CD"))
- 集計 : 「商品コード」のキー
「数量」の合計
- 並び替え条件 : 「商品コード」の昇順



照会定義の作成については、『第3章 2-1 ラジオボタンの場合』の「1 照会定義の作成」を参照してください。

2. コンボボックスの値として使用する結果を持つ照会定義を作成します。

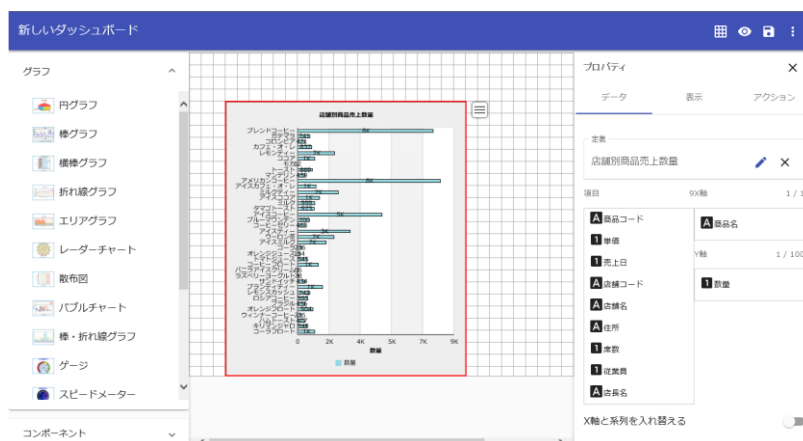
ここでは、店舗名や住所などの店舗情報を持った「店舗マスター」テーブルを照会する定義（「店舗情報一覧」）を作成します。

設定位置	1	2	3	4	5	6	7
項目名	店舗コード	店舗名	住所	席数	従業員数	店長名	
表示名	店舗コード	店舗名	住所	席数	従業員数	店長名	
属性	<input checked="" type="checkbox"/> 読取	<input checked="" type="checkbox"/> 読取	<input checked="" type="checkbox"/> 読取	<input checked="" type="checkbox"/> 読取	<input checked="" type="checkbox"/> 読取	<input checked="" type="checkbox"/> 読取	<input checked="" type="checkbox"/> 読取

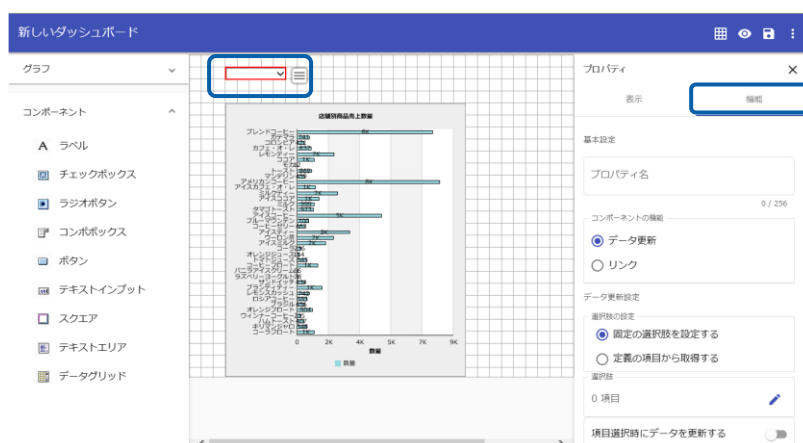
店舗コード	店舗名	住所	席数	従業員数	店長名
101	御茶ノ水店	東京都千代田区神定2-9-8	163	12	齋田基之介
102	銀座店	東京都中央区守屋5-12-2スカイビル5F	72	8	堀口学大
103	六本木店	東京都港区九本木3-3-15マギービルB1	58	5	櫻井先次郎
104	新宿店	東京都山科区西山1-19-18	198	18	尾崎洋行
105	上野店	東京都台東区東上野2-21-5スターダストビル2F	88	8	稲畑はる
106	渋谷店	東京都渋谷区秋葉町15-5-12	202	19	芥川百合之介
107	池袋店	東京都豊島区東富田4-11-7南口ビル3F	82	9	永井風花
108	高円寺店	東京都杉並区高円寺南3-50-1プラザビル2F	90	7	井伏清次
109	立川店	東京都立川市網野町1-3-22次平ビル1F	52	4	藤原基太郎
110	八王子店	東京都八王子市円山町4-7-5	170	11	井原金馬
111	板本町店	神奈川県横浜市南区新宿1-2-23	156	10	滝沢金吾
202	大倉山店	神奈川県横浜市港北区有楽町1566JBOビル	256	22	石川高道
203	川崎店	神奈川県川崎市川崎区藤が丘4-12-3	92	8	有島和夫
204	溝ノ口店	神奈川県川崎市高津区寿田3-3-5ラッキービル5F	60	6	阿部元次
205	平塚店	神奈川県平塚市松森町23-8羽衣ビル1F	98	8	林美歩子
206	厚木店	神奈川県厚木市北千住3-10-10マッコーサービル	160	10	谷崎一彦
301	津田沼店	千葉県習志野市南入町5-12-21	150	10	小林茶一
302	浦安店	千葉県浦安市小島2-12-6グリーンビル3F	62	5	幸田半郎
303	松戸店	千葉県松戸市富士が丘268	160	11	大塚幸夢
304	柏店	千葉県柏市青山町1-15-23サニービル2F	84	9	三島あゆ香
401	大宮店	埼玉県倉吉市流石町2-126	182	14	吉川泰次
402	春日部店	埼玉県春日部市愛宕2-30-24スライドビル6F	80	6	堀島英夫
403	川越店	埼玉県川越市横浜町1-32-1サテンビル1F	32	3	坂口広徳

- 2D 横棒グラフを配置し、グラフに 1 で作成した照会定義（「店舗別商品売上数量」）をバインドします。

ここでは、[X 軸] に「商品名」、[Y 軸] に「数量」を設定します。



- グラフ選択シートからコンボボックスを配置します。
- コンボボックスを選択し、プロパティシートの [機能] タブをクリックします。



- [コンポーネントの機能] で [データ更新] を選択、[選択肢の設定]で[定義の項目から取得する] を選択します。

プロパティ ×

表示 機能

店舗CD 4 / 256

コンポーネントの機能

- データ更新
- リンク

データ更新設定

選択肢の設定

- 固定の選択肢を設定する
- 定義の項目から取得する

定義

指定なし ✎

表示名 ▼

値 ▼

7. [定義] で2で作成した照会定義（「店舗情報一覧」）を選択します。
8. 表示名に[店舗名]、[値]に「店舗コード」を選択します。

[プロパティ名] に照会定義の@INPUT(@GET("変数名"))で指定した変数名「店舗CD」を入力します。

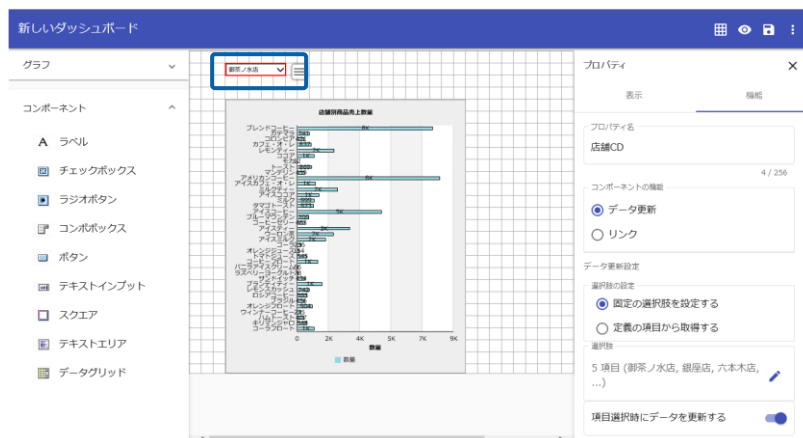
[項目選択時にデータを更新する] を有効にします。

[最大表示件数]は、コンボボックスに表示させる最大の件数を設定できます。

[先頭に空白の項目を追加する]にチェックをつけると、コンボボックスの初期値が空白となります。



コンボボックスに、照会結果の一番初めの「御茶ノ水店」が表示されます。



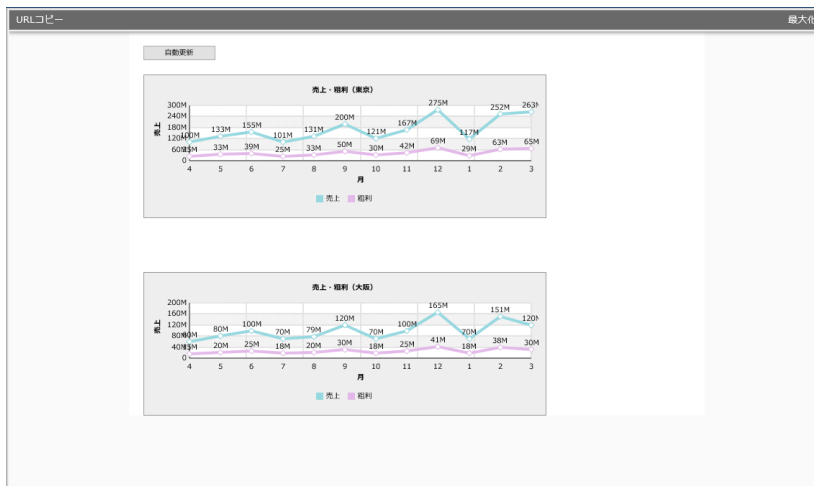
9. 編集した内容をダッシュボード定義として保管します。
10. ダッシュボードエディタを終了します。

11. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、コンボボックスの設定が正しくできているか確認します。

3 自動更新の設定

自動更新の設定をしたボタンをキャンバス上に配置しておく、ダッシュボード定義実行時にボタンをクリックしなくても、指定した時間間隔で自動的にデータを再取得して、グラフを表示できます。

ここでは、以下のように指定した時間間隔（180 秒毎）で自動的にデータが更新されるグラフの作成を例に手順を説明します。



指定した時間間隔でグラフが自動更新

手順

1. グラフを配置し、データバインドします。

ここでは、折れ線グラフを2つ配置し、それぞれ照会定義「売上・粗利（東京）」、「売上・粗利（大阪）」をバインドします。

2. グラフ選択シートからボタンを配置します。

- ボタンを選択し、プロパティシートの「機能」タブをクリックします。



- 「コンポーネントの機能」で「データ更新」を選択します。
- 「更新対象」でデータを自動的に再取得したいグラフを選択します。

ここでは、「全てのグラフ」を選択します。

特定のグラフだけデータを自動更新したい場合は、「グラフ」で目的のグラフのグラフ名を選択します。

「自動更新」を有効にし、「更新間隔（秒）」で指定します。

ここでは、自動更新の時間間隔に「180」秒と設定します。



- ボタンのラベルを設定します。
ボタンを選択し、プロパティシート「表示」タブ→「基本設定」→「テキスト」にボタンに表示する名前を入力します。ここでは、「自動更新」と入力します。



7. 編集した内容をダッシュボード定義として保管します。
8. ダッシュボードエディタを終了します。
9. ダッシュボード定義を実行します。



ボタンに自動更新の設定をした場合でも、ボタンをクリックしたときに、データを再取得することができます。
また、ボタンは非表示にしておくことができます。ボタンを非表示にするには、プロパティシートの [表示] タブ→[基本設定]→ [表示] を無効にします。

4 データの表示

「データグリッド」を利用すると、グラフにバインドされているデータを表形式で表示することができます。また、表の行と列を入れ替えて表示することもできます。

ここでは、以下のようなダッシュボード定義を作成する例で手順を説明します。



グラフにバインドされているデータをグラフの下に表示

手順

1. グラフを2つ配置し、データバインドします。

ここでは、棒グラフと棒・折れ線グラフを配置し、それぞれ照会定義「売上集計」（クロス集計形式）と、「売上分析（営業所）」（標準表タイプのキューブデータ）をバインドします。

2. 2つのグラフを区別するために、グラフに名前を設定します。

プロパティシートの[表示]タブ→[基本設定]→[名前]にそれぞれ、「売上集計」、「売上分析（営業所）」と入力します。

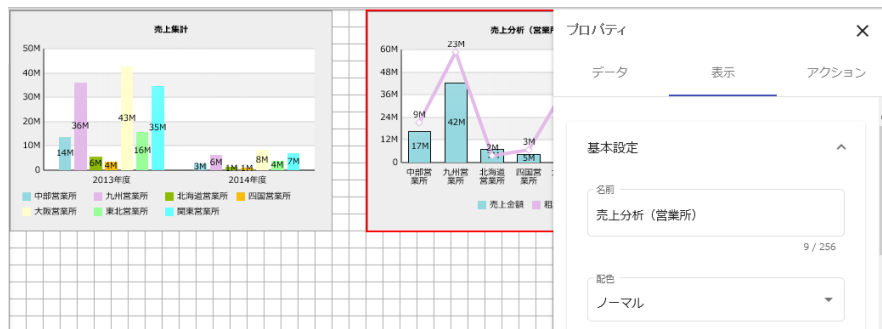
プロパティ

データ 表示 アクション

基本設定

名前
売上集計

配色
ノーマル



3. グラフ選択シートからデータグリッドを配置します。
4. プロパティシートの [データ] タブをクリックします。

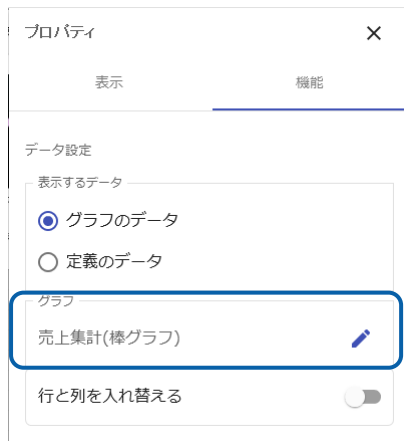


5. [表示するデータ] で「グラフのデータ」を選択します。

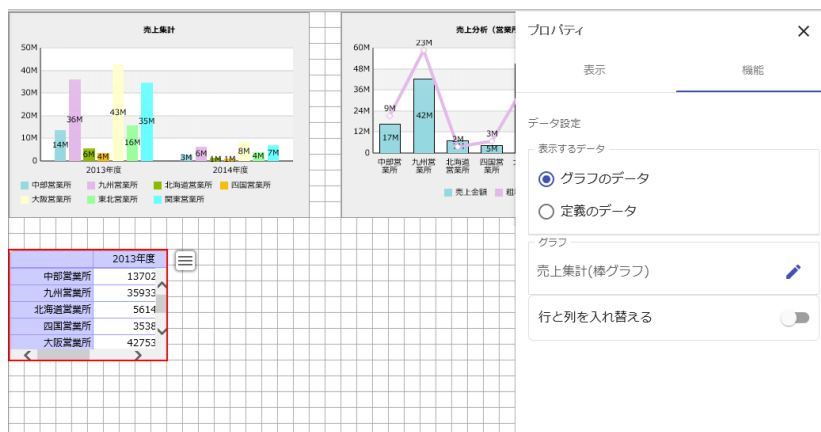


6. [グラフ] をクリックすると、[グラフを選択]シートが表示されるので、データを表示したいグラフを選択します。

ここでは、「売上集計」を選択します。

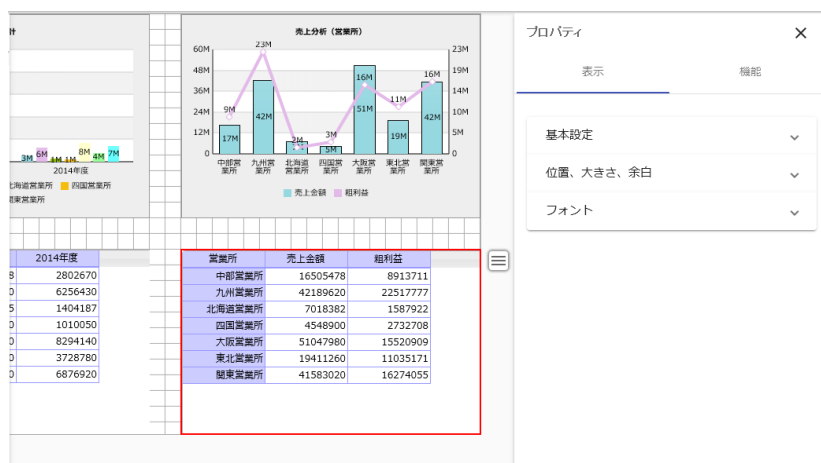


選択したグラフのデータが表形式で表示されます。



7. 表のサイズや位置を変更します。

8. 手順 3~7 を繰り返して表を配置し、「売上分析（営業所）」のグラフのデータを表示します。



9. 必要に応じて、表の配色を変更します。

プロパティシートの[表示]タブ→[基本設定]→[配色]で目的の配色を選択します。



10. 編集した内容をダッシュボード定義として保管します。
11. ダッシュボードエディタを終了します。
12. ダッシュボード定義を実行します。

5 入力値チェック

「テキストインプット」の [入力値チェック] を設定すると、入力したテキストを検査し、検査ポリシーに反する場合はエラーメッセージを表示します。

検査の種類は以下のとおりです。各検査の併用も可能です。

種類	説明
空白チェック	入力値が空白かどうかを検査します。
書式チェック	入力値の日時や数値の桁数を検査します。 日時の場合は、書式の検査に加え、入力値が実在する日時か否かも判別します。
範囲チェック	2つのテキストインプット（開始値と終了値）の日時や数値の範囲を検査します。 指定した範囲を超える場合や開始値が終了値より小さい場合にエラーとします。

手順

1. テキストインプットを配置します。
2. テキストインプットを選択し、プロパティシート→[機能]タブ→ [入力値チェック設定] の [チェック項目] をクリックします。

プロパティ ×

表示 機能

基本設定

プロパティ名
0 / 256

初期値
0 / 256

入力値チェック設定

チェック項目
設定なし

3. チェック内容を入力し、右上のチェックボタンをクリックします。

- 空白チェック

× 入力値チェック ✓

空白チェック

書式チェック

範囲チェック

指定する項目は以下のとおりです。

項目	説明
空白チェック	有効にすると機能が有効になります。

- 書式チェック

× 入力値チェック ✓

空白チェック

書式チェック

種類

日時 数値

書式文字列 *

YYYY-MM-DD

10 / 256

書式文字列で使用可能な文字列

YYYY|YY|MM|DD|hh|mm|ss|/|-|.|:|半角スペース

範囲チェック

指定する項目は以下のとおりです。

項目	説明
書式チェック	有効にすると機能が有効になります。
種類	「日時」、「数値」の何れかを選択します。
書式文字列	日時や数値の書式文字列を指定します。 使用可能な文字列については、次の表を参照してください。

また、書式文字列に使用可能な文字列と意味は以下のとおりです。

種類	書式文字列	許可する入力値
日時	YYYY	1900 ~ 2099 (年)
	YY	00 ~ 99 (1950 ~ 2049 年)
	MM	01 ~ 12 (月)
	DD	01 ~ 31 (日)
	hh	00 ~ 23 (時)
	mm	00 ~ 59 (分)
	ss	00 ~ 59 (秒)
	/ (半角スラッシュ) - (半角ハイフン) . (半角ピリオド) : (半角コロン) (半角スペース)	左に同じ
数値	#	任意の数字 (1 桁以上)
	0	任意の数字 (1 桁)
	. (半角ピリオド)	左に同じ (小数点)

- 範囲チェック

開始値の場合

終了値の場合

指定する項目は以下のとおりです。

項目		説明
範囲チェック		有効にすると機能が有効になります。
種類		「開始」、「終了」の何れかを選択します。
「開始」 の場合	グループ ID	半角英数字の文字列で指定します。 対応する終了値のテキストインプットのグループ ID と同じ文字列を指定する必要があります。
	単位	「年」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」、「数値」の何れかを選択します。
	最大範囲	0 以上の整数値を指定します。 0 を指定すると範囲は検査せず、開始値と終了値の大小関係のみ検査します。
「終了」 の場合	グループ ID	半角英数字の文字列で指定します。 対応する開始値のテキストインプットのグループ ID と同じ文字列を指定する必要があります。

第 4 章

データのドリルダウン とリンク

1 ドリルダウンの設定

データバインドされたグラフにドリルダウンの設定をしておくこと、ダッシュボード定義の実行時にグラフのX軸や棒、アンカーマークなどをクリックしたときに、設定したキー項目でドリルダウンが行われ、軸となる項目が切り替わったグラフが表示されます。

ドリルダウンの設定方法は、バインドされている照会定義の種類により異なります。

ここでは、バインドされているデータごとのドリルダウンの設定について説明します。

1-1 標準表形式の場合

- バインドするデータが標準表形式の場合は、ドリルダウンの集計キーとなるキー項目を設定します。
- キー項目を設定すると、標準表形式のデータがバインドされたグラフのX軸名や棒、アンカーマークなどをクリックしたときに、クリックしたデータをキー項目で集計した結果が表示されます。
- ドリルダウンはキー項目に設定した順に行われます。
- ドリルダウンしたグラフを別のウィンドウに表示できます。

グラフの種類ごとにドリルダウンの動きが異なります。

バインドデータが標準表形式の場合は以下のとおりです。

グラフの種類	クリック箇所	動作	ドリルダウンの動き
単一グラフ	パイ	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示
複数グラフ	棒、アンカーマーク、 積み上げ（グラフの一部）	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
	系列名	不可	
	X軸名	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
複数（変形） グラフ	アンカーマーク、バブル （グラフの一部分）	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示
	系列名	不可	
混合グラフ	棒、アンカーマーク、 積み上げ（グラフの一部）	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
	系列名	不可	
	X軸名	可	クリックしたデータをキー項目で集計した結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
ゲージ	グラフ全体	不可	

ここでは、以下のような標準表形式の照会定義がバインドされた横棒グラフ（X軸に「商品名」、Y軸に「数量」をバインド）にドリルダウンを設定する例で手順を説明します。

商品名	数量	商品コード	単価	店舗コード	店舗名	住所
ウィンナーコーヒー	59 303	580 202	大倉山店	神奈川県横浜港北区大倉町1366,昭ビル	256	22-
キリマンジャロ	107 206	550 203	川崎店	神奈川県川崎市川崎区小	62	9-
オレンジジュース	22 508	550 103	六本木店	東京都港区六本木3-3-15	48	51
ミルクティー	190 402	450 202	銀座店	神奈川県横浜港北区大	256	22-
パニラアイスクリーム	9 515	530 103	六本木店	東京都港区六本木3-3-15	48	51
アイスコア	94 502	580 203	銀座店	神奈川県横浜港北区大	256	22-
コーラプロト	146 514	580 203	川崎店	神奈川県川崎市川崎区小	62	9-
マンデリン	82 205	500 202	御茶ノ水店	神奈川県横浜港北区大	256	1200-
ロシアコーヒー	50 304	600 203	新宿店	神奈川県川崎市川崎区小	62	9-
ブレンドコーヒー	236 101	450 202	御茶ノ水店	神奈川県横浜港北区大	256	1200-
ラムネ	90 603	380 202	大倉山店	神奈川県横浜港北区大	256	22-

照会定義：「商品売上数量」

※拡大図は標準表の一部です。

ドリルダウン設定

項目 9X軸 2 / 100

- 商品コード
- 商品名
- 単価
- 数量
- 店舗コード
- 住所
- 席数
- 従業員
- 店長名

店舗名
売上日

ドリルダウンのキー項目に「店舗名」と「売上日」を設定

保管されたダッシュボード定義を実行

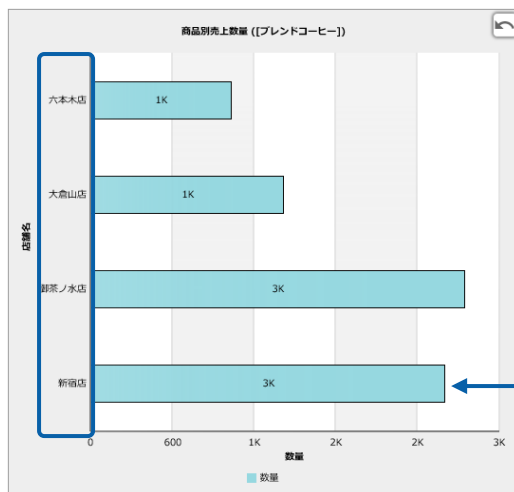
商品別売上数量

商品名	数量
ブレンドコーヒー	8K
アメリカンコーヒー	8K
アイスコーヒー	5K
モカ	741
カマラ	42
コロンビア	45
ブラジル	45
マンデリン	45
キリマンジャロ	48
ブルーマウンテン	70
カフェ・オ・レ	321
アイスカフェ・オ・レ	48
ウィンナーコーヒー	48
ロシアコーヒー	55
コーヒーゼリー	45
レモンティー	2K

「ブレンドコーヒー」の棒部分をクリック



最初のキー項目「店舗名」でドリルダウン

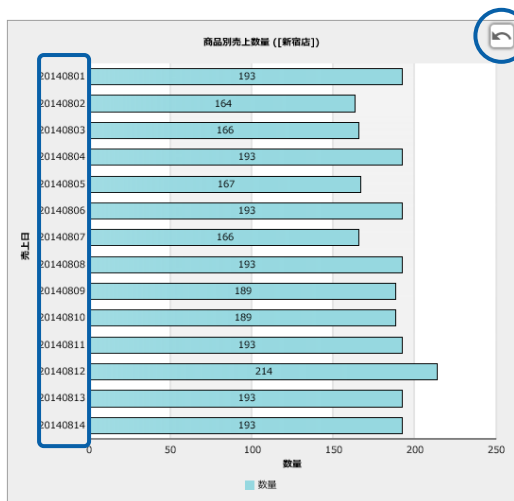


「新宿店」の棒部分を
をクリック

ブレンドコーヒーの「店舗別の売上数量」



2 番目のキー項目「売上日」でドリルダウン

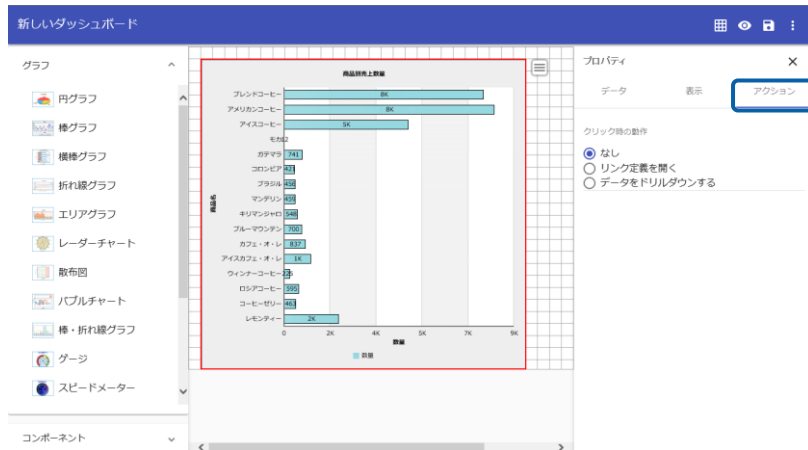


別ウィンドウにグラフを表示しないときは、
グラフの右上に表示されるボタンを
クリックすると、前の画面に戻る

ブレンドコーヒーの「新宿店」の「売上日別の売上数量」

手順

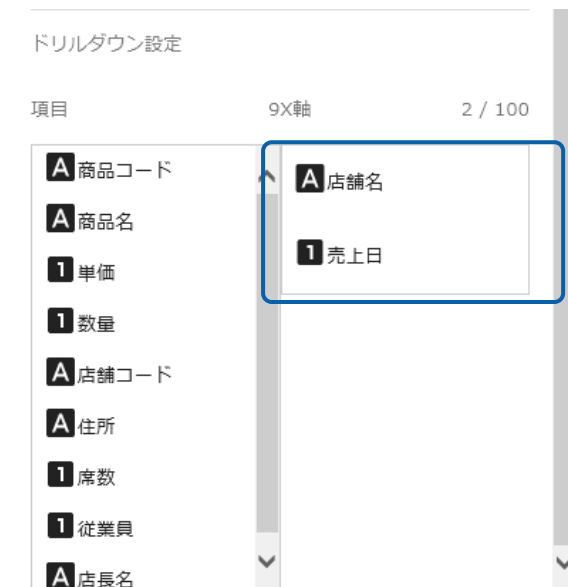
1. グラフを配置し、データをバインドします。
2. グラフを選択し、プロパティシートの [アクション] タブをクリックします。



3. [クリック時の動作] で [データをドリルダウンする] を選択します。



4. [ドリルダウン指定] で「店舗名」と「売上日」をそれぞれ選択します。



グラフにドリルダウンが設定されます。

5. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。

6. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ドリルダウンの設定が正しくできているか確認します。

1-2 クロス集計形式の場合

- バインドデータがクロス集計表形式の場合は、ドリルダウンの集計キーとなる X 軸のキー項目に、クロス集計の列キーが、系列のキー項目に行キーが自動的に設定されます。
- ドリルダウンの設定を行うと、クロス集計形式のデータがバインドされたグラフの X 軸や棒、アンカーマーク、系列などをクリックしたときに、グラフの X 軸と系列に設定されているキー項目の順に集計結果が表示されます。
- 列キー、行キーが複数設定されているクロス集計の定義がバインドされているグラフの場合に、ドリルダウンが行われます。

グラフの種類ごとにドリルダウンの動きが異なります。

バインドデータがクロス集計形式の場合は以下のとおりです。

グラフの種類	クリック箇所	動作	ドリルダウンの動き
複数グラフ	棒、アンカーマーク、積み上げ	可	次の行キーと列キーの集計結果を表示
	系列名	可	系列に設定されている次の行キーの集計結果を表示
	X 軸名	可	X 軸に設定されている次の列キーの集計結果を表示
複数（変形）グラフ	アンカーマーク、バブル	可	次の行キーと列キーの集計結果を表示
	系列名	可	系列に設定されている次の行キーの集計結果を表示
ゲージ	グラフ全体	不可	

ここでは、以下のようなクロス集計形式の照会定義がバインドされた横棒グラフ(X軸に「営業所」、系列に「年度」、値に「売上金額」をバインド)にドリルダウンを設定し、別のウィンドウに表示する例で手順を説明します。

照会定義：「売上集計」

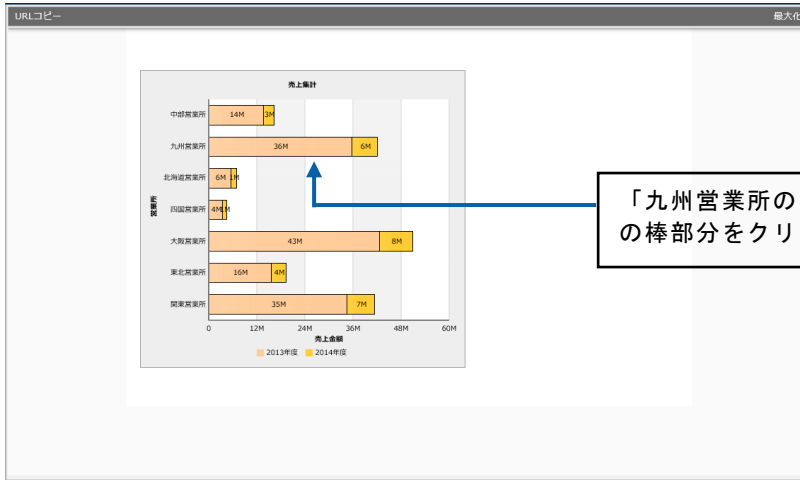
※拡大図はクロス集計表の一部です。

クロス集計形式の照会定義がバインドされているときは、自動的にキー項目が設定される



保管されたダッシュボード定義を実行

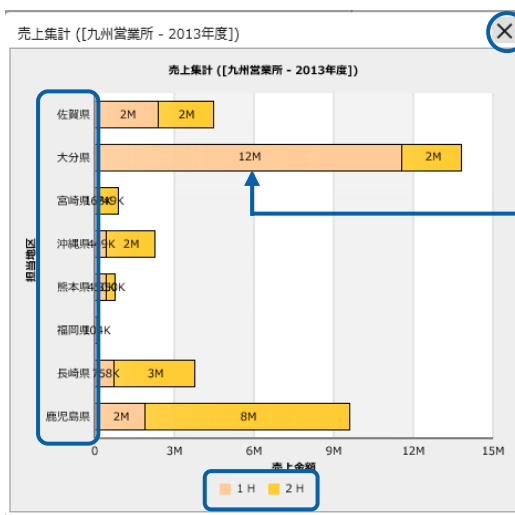
X軸名と系列名のドリルダウン



「九州営業所の2013年度」の棒部分をクリック



X軸が次の列キー「担当地区」、系列が次の行キー「半期」でドリルダウン



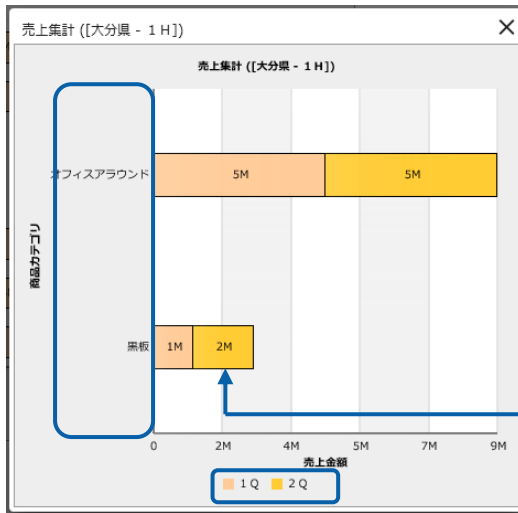
別ウィンドウに表示されたグラフは、ウィンドウ上部の [X] ボタンをクリックすると、閉じることができる

「大分県の1H (上半期)」の棒部分をクリック

九州営業所の2013年度における担当地区別半期の売上



X軸が次の列キー「商品カテゴリ」、系列が次の行キー「四半期」でドリルダウン

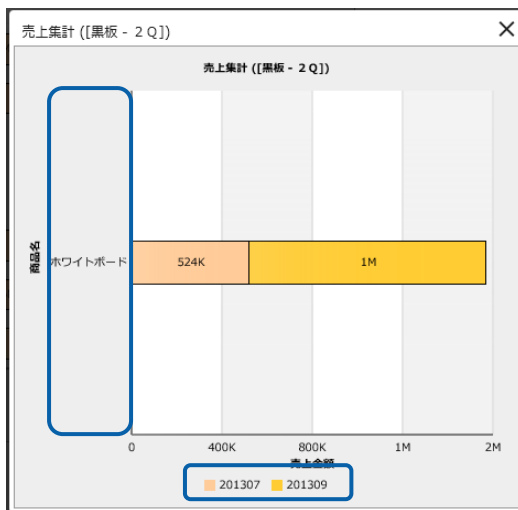


「黒板の 2Q (第 2 四半期)」の棒部分をクリック

大分県の 1H (上半期) における商品カテゴリ別四半期の売上

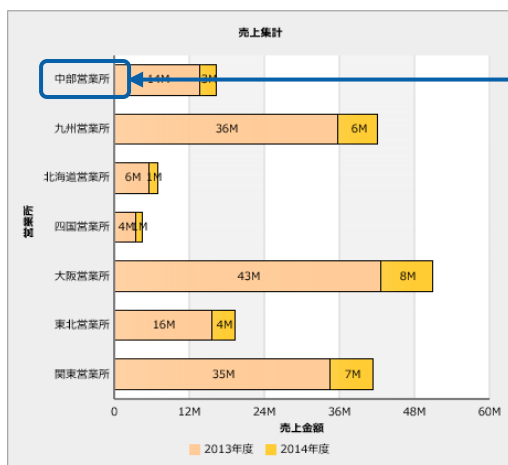


X 軸が次の列キー「商品名」、系列が次の行キー「売上年月」でドリルダウン



大分県の黒板の 2Q (第 2 四半期) における商品別の売上

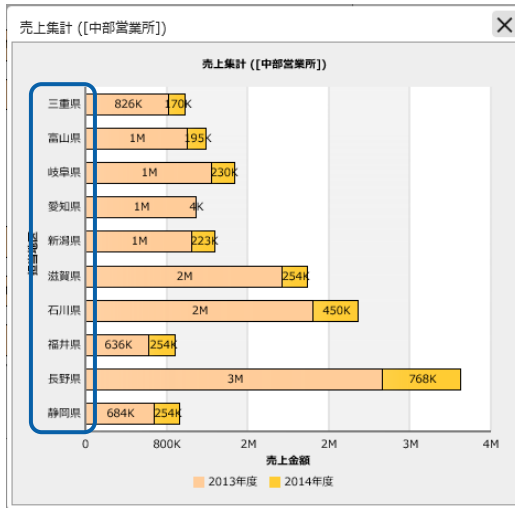
X 軸名のドリルダウン



最初のグラフで X 軸の「中部営業所」をクリック

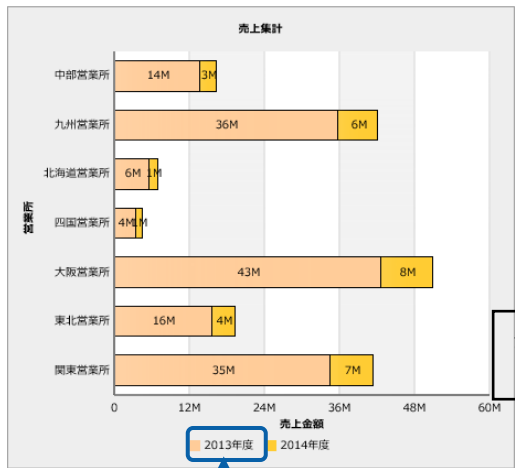


X軸のみ次の列キー「担当地区」でドリルダウン



中部営業所における担当地区別の売上

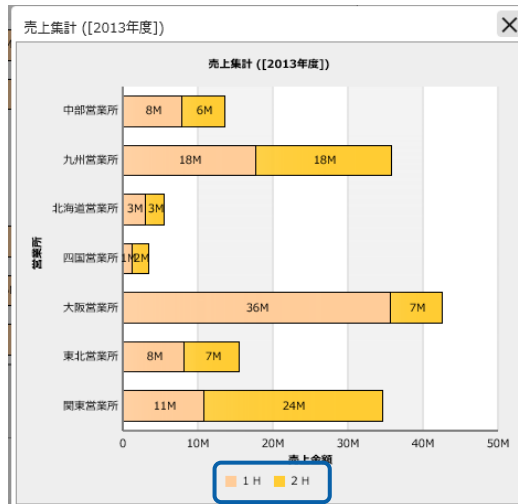
系列名のドリルダウン



最初のグラフで系列の「2013年度」をクリック



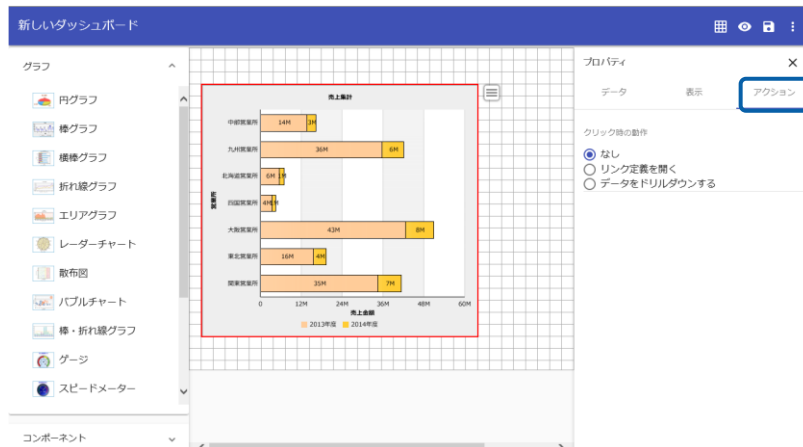
系列のみ次の行キー「半期」でドリルダウン



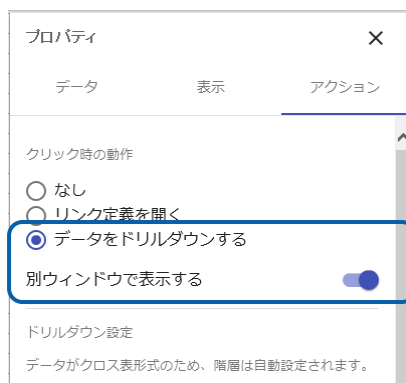
2013年度における半期毎の営業所別の売上

手順

1. グラフを配置し、データをバインドします。
2. グラフを選択し、プロパティシートの [アクション] タブをクリックします。



3. [クリックの動作] で [データをドリルダウン] を選択し、[別ウィンドウで表示する]を有効にします。



4. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
5. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ドリルダウンの設定が正しくできているか確認します。

1-3 キューブデータの場合

バインドデータがキューブデータの場合は、キューブデータの展開の方法が「標準表」タイプか「クロス集計」タイプかによって、設定内容が異なります。

また、ドリルダウンの方法には、以下の2つがあります。

- 同次元でドリルダウンする方法
1段階ずつレベルを下げてドリルダウンします。
- ドリルダウン先を手動で設定する方法
次元やレベルを変更してドリルダウンします。

「標準表」タイプの場合

バインドデータが「標準表」タイプの場合は、以下のようにドリルダウンします。

- 同次元でドリルダウンする場合
自動的にドリルダウンのキー項目に次のレベルが設定されます。

グラフの X 軸名や棒、アンカーマークなどをクリックすると、照会定義で定義されている次元が 1 レベルずつ順にキー項目に設定され、クリックした箇所のデータの 1 レベル下の集計結果が表示されます。
- 次元・レベルを変更してドリルダウンする場合
ドリルダウンのキー項目に次元・レベルを設定します。

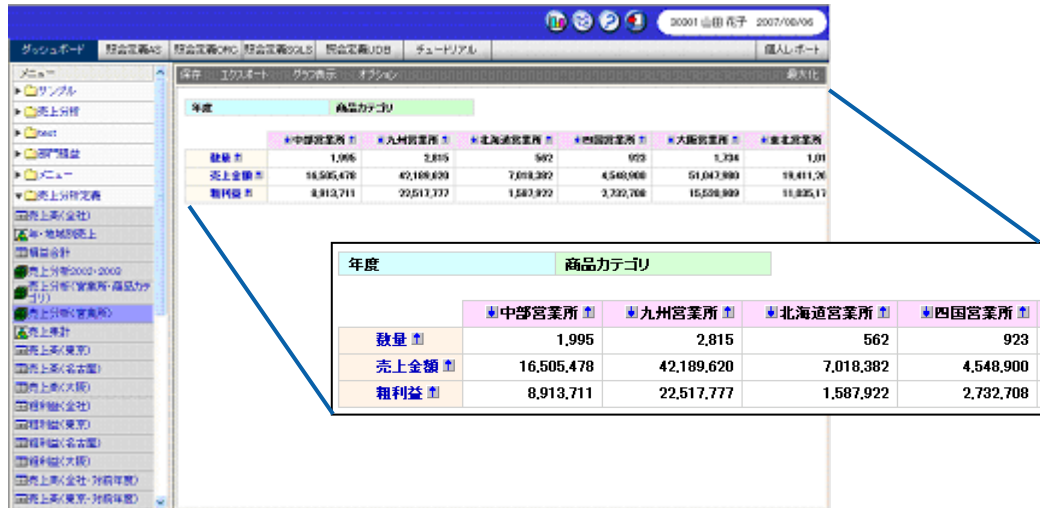
グラフの X 軸名や棒、アンカーマークなどをクリックすると、クリックした箇所のデータの指定した次元・レベルの集計結果が表示されます。

グラフの種類ごとにドリルダウンの動きが異なります。

バインドデータがキューブデータ（「標準表」タイプ）の場合は以下のとおりです。

グラフの種類	クリック箇所	動作	ドリルダウンの動き
単一グラフ	パイ	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示
複数グラフ	棒、アンカーマーク、積み上げ（グラフの一部）	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
	系列名	不可	
	X軸名	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
複数（変形）グラフ	アンカーマーク、バブル（グラフの一部分）	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示
	系列名	不可	
混合グラフ	棒、アンカーマーク、積み上げ（グラフの一部）	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
	系列名	不可	
	X軸名	可	<ul style="list-style-type: none"> ・クリックしたデータの1レベル下の集計結果を表示 ・ドリルダウン先を指定した場合は、クリックしたデータの指定した次元・レベルの集計結果を表示 （系列の要素と数は同じ）
ゲージ	グラフ全体	不可	

ここでは、以下のような「標準表」タイプのキューブデータがバインドされた棒グラフ（X軸に「営業所」、Y軸に「売上金額」と「粗利益」をバインド）に次元・レベルを変更してドリルダウンを設定する例で手順を説明します。



照会定義：「売上分析（営業所）」

プロパティ ×

データ 表示 アクション

なし
 リンク定義を開く
 データをドリルダウンする

別ウィンドウで表示する

ドリルダウン設定
 定義の階層を使用する 階層を設定する

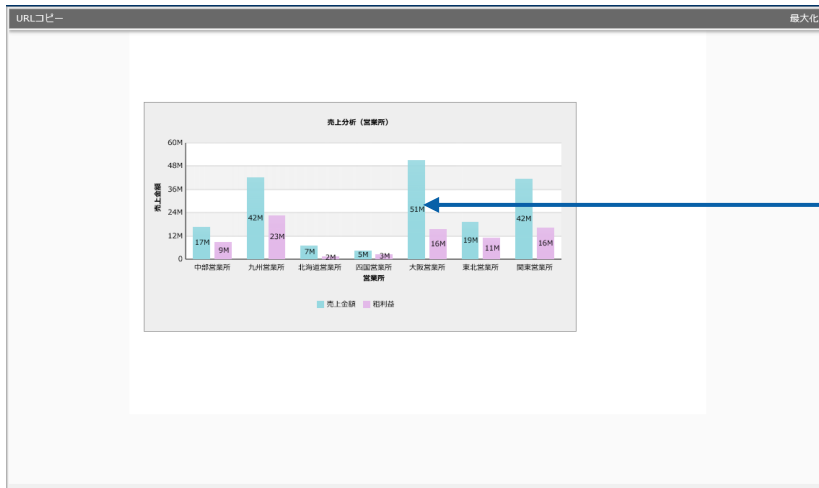
項目 6X軸 2 / 100

- 半年期
- 四半期
- 売上年月
- 商品名
- 営業所
- 担当地区

ドリルダウンのキー項目に「年度」と「商品カテゴリ」を設定



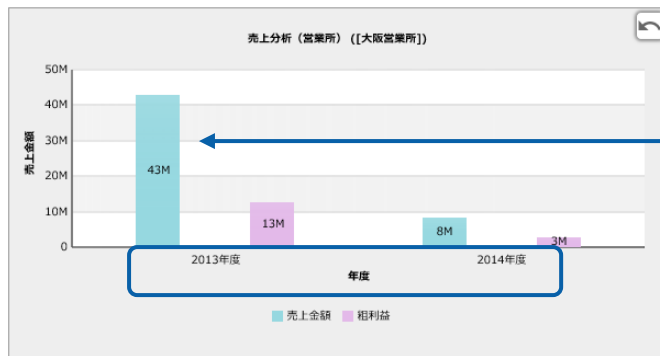
保管されたダッシュボード定義を実行



「大阪営業所」の棒部分を
クリック



最初のキー項目「年度」でドリルダウン

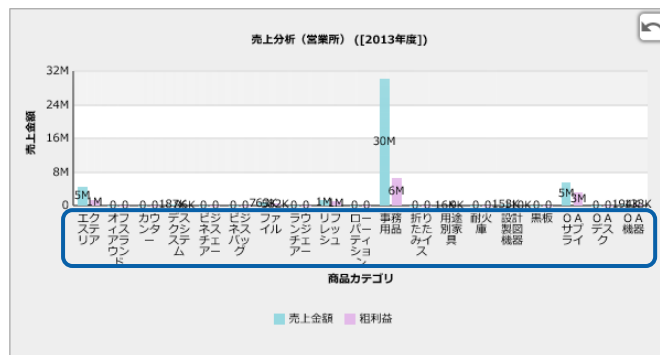


「2013 年度」の棒部分を
クリック

大阪営業所の年度別の売上と粗利益



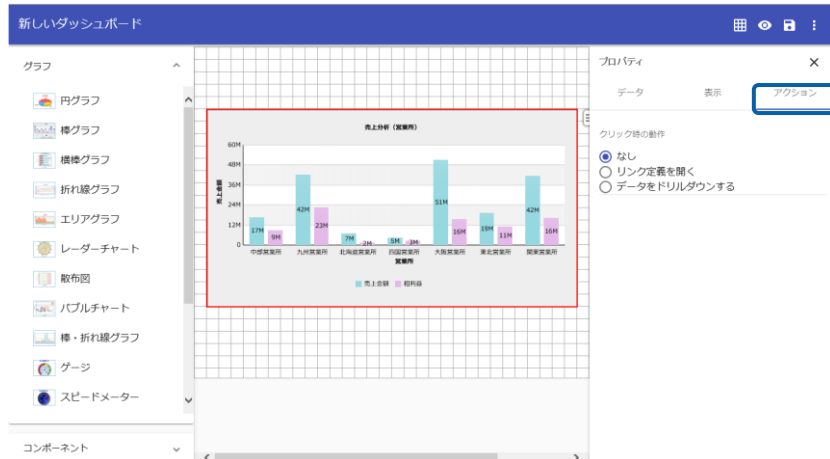
2 番目のキー項目「商品カテゴリ」でドリルダウン



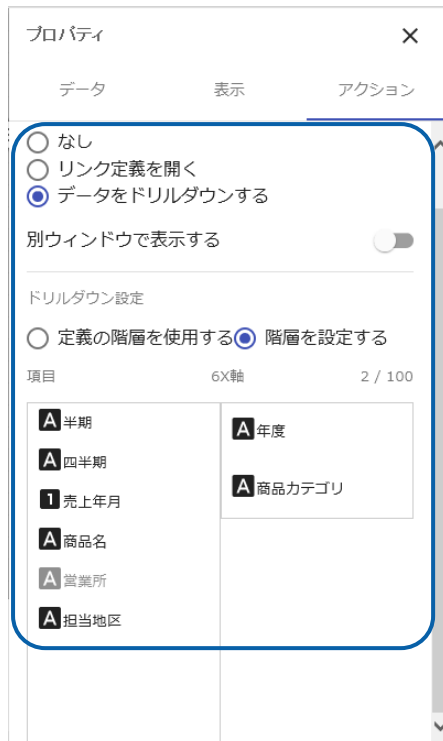
2013 年度の商品カテゴリ別の売上と粗利益

手順

1. グラフを配置し、データバインドします。
2. グラフを選択し、プロパティシートの [アクション] タブをクリックします。



3. [クリックの動作] で [データをドリルダウン] を選択、[ドリルダウン設定] で [階層を設定する] を選択、[項目] で「年度」と「商品カテゴリ」をそれぞれ選択します。



4. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
5. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ドリルダウンの設定が正しくできているか確認します。



上記の「標準表」タイプのキューブデータ（〔営業所〕次元に「営業所」、「担当地区」、「担当者」の順でレベルが定義されている）がバインドされているグラフに〔同次元でドリルダウン〕を設定した場合は、グラフのX軸名や棒、アンカーマークなどをクリックするごとに、1レベルずつドリルダウンが行われ、X軸の項目が「営業所」、「担当地区」、「担当者」の順に切り替わります。

「クロス集計」タイプの場合

バインドデータが「クロス集計」タイプの場合は、以下のようにドリルダウンします。

- 同次元でドリルダウンする場合

自動的にドリルダウンのキー項目に行方向、列方向のレベルが設定されます。

グラフの X 軸名や棒、アンカーマーク、系列などをクリックすると、照会定義で定義されている行方向と列方向の次元が1レベルずつ順にキー項目に設定され、クリックした箇所のデータの1レベル下の集計結果が表示されます。

- 次元・レベルを変更してドリルダウンする場合

ドリルダウンのキー項目に X 軸と系列の次元・レベルをそれぞれ設定します。X 軸だけ次元、レベルを変更したり、系列だけ次元・レベルを変更することもできます。

グラフの X 軸名や棒、アンカーマーク、系列などをクリックすると、クリックした箇所のデータの指定した次元・レベルの集計結果が表示されます。

ドリルダウン先を手動で設定し、次元・レベルを変更してドリルダウンを行う場合、以下の設定はできません。

- ・レベルが上の項目をドリルダウン先に設定すること
(たとえば、「年度→半期→四半期→売上年月」とレベルが設定されている場合に、「四半期→半期」という順番で設定するなど)
- ・すでにグラフの X 軸または系列に指定されている項目をドリルダウン先に設定すること
- ・X 軸、系列ともに同じ項目をドリルダウン先に設定すること



注意

グラフの種類ごとにドリルダウンの動きが異なります。

バインドデータがキューブデータ（「クロス集計」タイプ）の場合は以下のとおりです。

グラフの種類	クリック箇所	動作	ドリルダウンの動き
複数グラフ	棒、アンカーマーク、積み上げ	可	<ul style="list-style-type: none"> 次のレベルの行キーと列キーの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した X 軸と系列の次元・レベルの集計結果を表示
	系列名	可	<ul style="list-style-type: none"> 系列に設定されている次の行キーのレベルの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した系列の次元・レベルの集計結果を表示
	X 軸名	可	<ul style="list-style-type: none"> X 軸に設定されている次の列キーのレベルの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した X 軸の次元・レベルの集計結果を表示
複数（変形）グラフ	アンカーマーク、バブル	可	<ul style="list-style-type: none"> 次のレベルの行キーと列キーの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した X 軸と系列の次元・レベルの集計結果を表示
	系列名	可	<ul style="list-style-type: none"> 系列に設定されている次の行キーのレベルの集計結果を表示 ドリルダウン先を指定した場合は、指定した系列の次元・レベルの集計結果を表示
ゲージ	グラフ全体	不可	

ここでは、以下のような「クロス集計」タイプのキューブデータがバインドされた横棒グラフ（X 軸に「商品カテゴリ」、系列に「営業所」、数値項目に「数量」をバインド）に次元・レベルを変更しドリルダウンを設定して別ウィンドウに表示する例で手順を説明します。



照会定義：売上分析（営業所・商品カテゴリ）

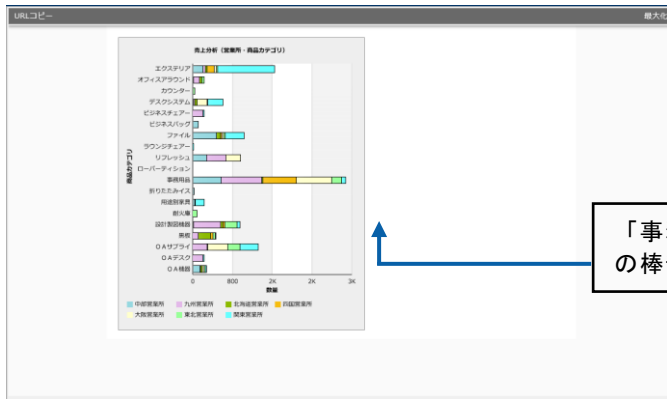


X 軸のキー項目に「年度」と「売上年月」を、系列のキー項目に「担当地区」を設定



保管されたダッシュボード定義を実行

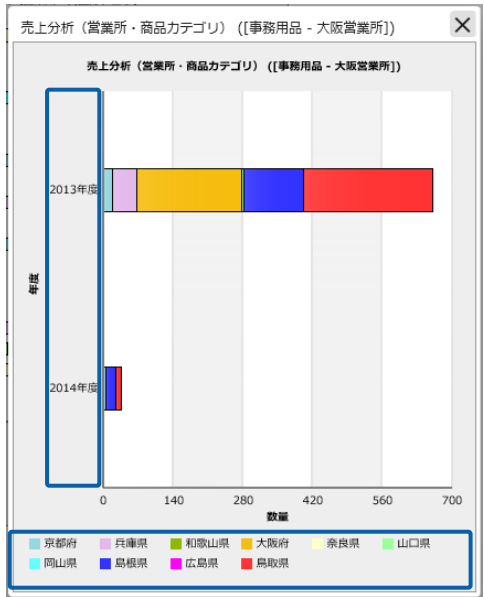
X軸名と系列名のドリルダウン



「事務用品の大阪営業所」の棒部分をクリック

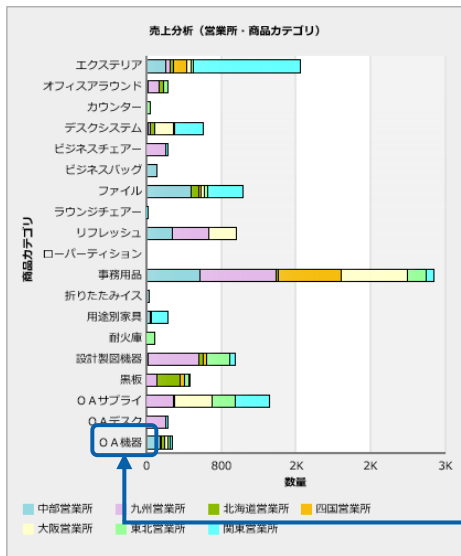


X軸が最初のキー項目「年度」、系列が最初のキー項目「担当地区」でドリルダウン



事務用品の大阪営業所における年度毎の担当地区別の売上

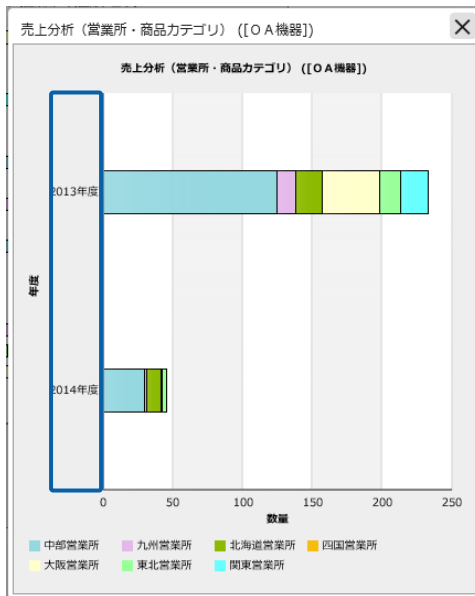
X軸名のドリルダウン



最初のグラフで X 軸の「OA 機器」をクリック

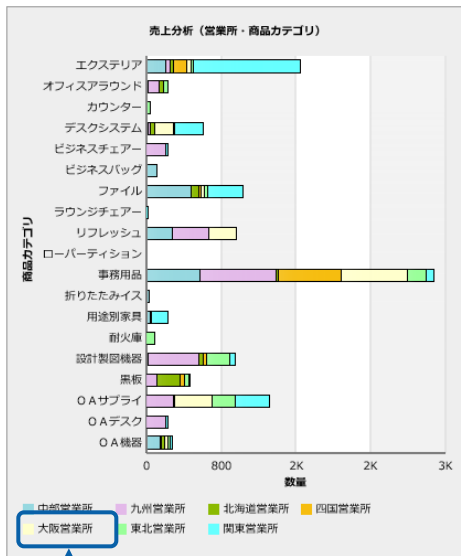


X 軸のみ最初のキー項目「年度」でドリルダウン



OA 機器の年度毎の営業所別の売上

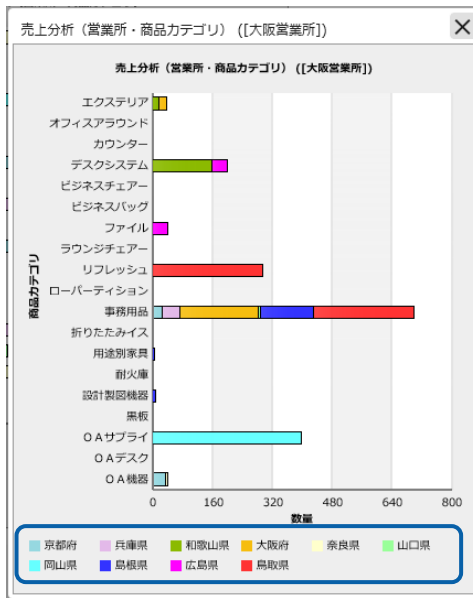
系列名のドリルダウン



最初のグラフで系列の「大阪営業所」をクリック



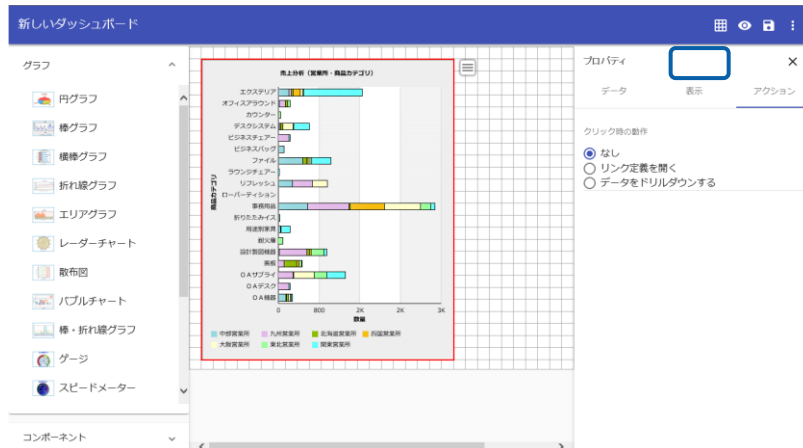
系列のみ最初のキー項目「担当地区」でドリルダウン



大阪営業所における商品カテゴリの担当地区別の売上

手順

1. グラフを配置し、データをバインドします。
2. グラフを選択し、プロパティウィンドウで [リンク設定] ボタンをクリックします。



3. [クリックの動作] で [データをドリルダウン] を選択、[別ウィンドウで表示する] を有効、[ドリルダウン設定] で [階層を設定する] を選択、[X 軸] に「年度」と「売上年月」をそれぞれ選択し、[系列] に「担当地区」を選択します。



4. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
5. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ドリルダウンの設定が正しくできているか確認します。

2 リンクの設定

グラフやコンポーネントにリンクを設定すると、関連する照会定義やダッシュボード定義を表示することができます。また、リンク先の定義にデータを引き渡して、表示する照会定義やダッシュボード定義でデータを絞り込むこともできます。

リンクの設定は、グラフとコンポーネントで異なります。

ここでは、グラフのリンク設定と、コンポーネントのリンク設定について説明します。

2-1 グラフの場合

- グラフにリンクの設定をすると、ダッシュボード定義の実行時にグラフをクリックしたときに、別の照会定義やダッシュボード定義を表示できます。
- リンク先の照会定義に@INPUT(@GET())が設定されている場合、変数名を設定しておくことで、グラフ上でクリックした箇所の値で検索した結果が表示されます。
- グラフに標準表形式のデータがバインドされている場合は、X軸のみ変数名を設定できます。クロス集計形式の場合は、X軸と系列に別の変数名を設定できます。
- 変数名を設定しない場合は、グラフのどの部分をクリックしても、リンク先に指定した照会定義が表示されます。
- リンク先の定義を別のウィンドウに表示することができます。

ここでは、標準表形式のデータがバインドされた棒グラフに、@INPUT(@GET("店舗 CD"))の設定された照会定義「店舗別商品売上数量」へのリンクを設定し、別ウィンドウに表示する例で手順を説明します。

プロパティ ✕

データ 表示 アクション

クリック時の動作

なし

リンク定義を開く

データをドリルダウンする

別ウィンドウで表示する

リンク設定

リンク定義

店舗別商品売上数量 ✎ ✕

検索条件設定

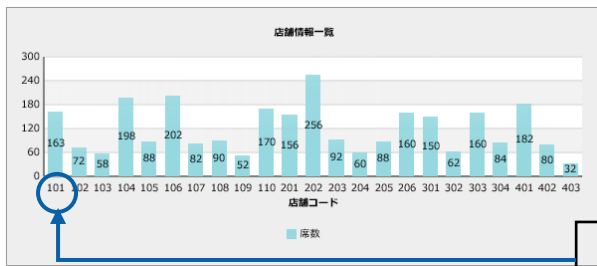
@Get変数名 セットする値

店舗CD X軸の値

リンク先に照会定義「店舗別商品売上数量」を設定し、X軸の変数名に「店舗CD」を設定



保管されたダッシュボード定義を実行



グラフのX軸の「101」をクリック



店舗CD「101」でリンク先の照会定義のデータを検索

WebReport 2.0 Smart -- Webpage Dialog

エクスポート 表示設定 列項目の固定解除 閉じる 全て閉じる

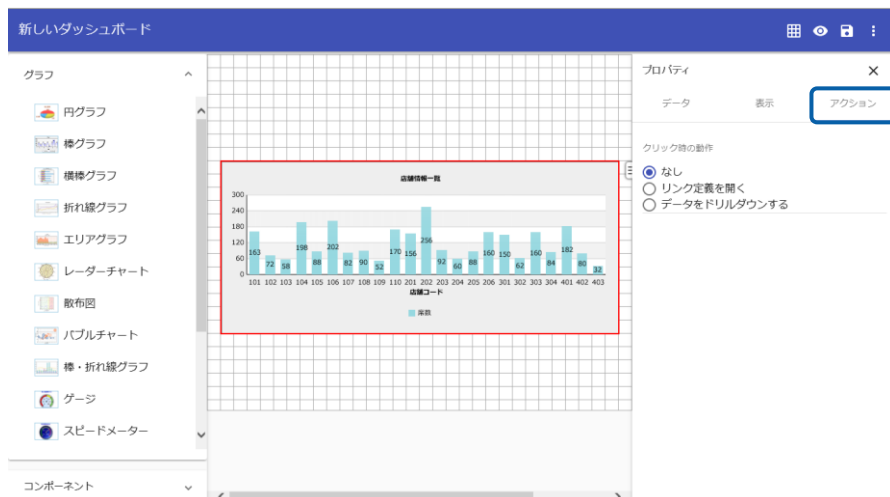
表示件数: 9件 (1~9件目/9件中)

商品コード	商品名	単価	売上日	数量	店舗コード	店舗名	住所	席数	従業員	店
101	ブレンドコーヒー	450	20140814	2756	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	様
201	モカ	500	20140802	12	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	様
202	ガデマラ	500	20140814	156	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	様
203	コロンビア	500	20140814	129	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	様
205	マンデリン	500	20140806	7	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	様
301	カフェ・オ・レ	550	20140814	420	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	様
401	レモンティー	450	20140814	1405	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	様
501	ココア	530	20140813	950	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	様
601	トースト	250	20140802	21	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	様

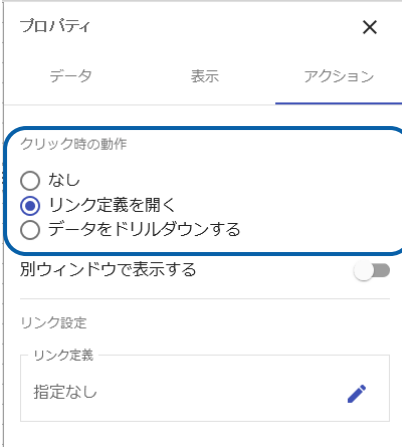
店舗CD「101」（御茶ノ水店）のデータ

手順

1. データバインドされたグラフを選択し、プロパティシートの [アクション] タブをクリックします。



2. [クリックの動作] で [リンク定義を開く] を選択します。



プロパティ ×

データ 表示 アクション

クリック時の動作

なし

リンク定義を開く

データをドリルダウンする

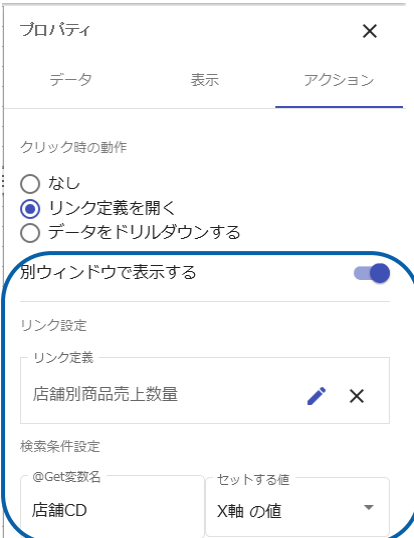
別ウィンドウで表示する

リンク設定

リンク定義

指定なし

3. [別ウィンドウで表示する] を有効、[リンク定義] をクリックし、リンク先の照会定義「店舗別商品売上数量」を選択、[@Get 変数名] にリンク先の照会定義へ引き渡す変数名「店舗 CD」を入力します。



プロパティ ×

データ 表示 アクション

クリック時の動作

なし

リンク定義を開く

データをドリルダウンする

別ウィンドウで表示する

リンク設定

リンク定義

店舗別商品売上数量

検索条件設定

@Get変数名

店舗CD

セットする値

X軸 の値

4. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
5. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、リンクの設定が正しくできているか確認します。

2-2 コンポーネントの場合

- コンポーネントにリンク先の定義を設定しておく、ダッシュボード定義の実行時にラベルやボタンをクリックしたときに、別の照会定義やダッシュボード定義を表示することができます。
- ラベル、チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットは、リンク先の照会定義に@INPUT(@GET())で検索条件が設定されている場合、リンク先の定義にプロパティ名や値を引き渡して、データを絞り込んで表示することができます。
- ラジオボタンとコンボボックスは、自動リンクの設定ができます。自動リンクを設定しておく、ボタンを配置しなくても、ダッシュボード定義の実行時にラジオボタンやコンボボックスで値が選択されると、指定のリンク先を表示します。
- リンク先の定義を別のウィンドウに表示することができます。



コンポーネントによって設定する内容が異なります。
各コンポーネントのプロパティについては、『付録 3 コンポーネントのプロパティ』を参照してください。

単一リンク先定義

コンポーネントをクリックしたときに、目的のリンク先の定義が表示されるようにするには、テキストインプットとラベル、またはボタンを組み合わせるダッシュボード定義を作成します。

ここでは、@INPUT(@GET("店舗 CD"))の設定された照会定義（「店舗別商品売上数量」）へのリンクをボタンに設定し、テキストインプットに入力された値（店舗コード）でリンク先のデータを絞り込んで表示する例で手順を説明します。

店舗コードを入力してください。

101 売上表示

店舗コード	店舗名	席数	従業員	店長名
101	御茶ノ水店	163	12	嶋田尊之介
102	銀座店	72	8	嶋口孝太
103	六本木店	58	5	梶井友次郎
104	新宿店	198	18	尾崎洋行
105	上野店	88	8	嶋尾浩太郎
106	渋谷店	202	19	芥川百合之介
107	池袋店	82	9	水井風花
108	高円寺店	90	7	井伏清隆次
109	立川店	52	4	萩原真太郎
110	八王子店	170	11	井原角彦
201	桜木町店	156	10	滝沢金馬
202	大倉山店	256	22	石川麗造
203	川崎店	92	8	梶原伸夫
204	溝ノ口店	60	6	阿部元次
205	平塚店	88	8	林美歩子
206	厚木店	160	10	谷崎一朗郎
301	津田沼店	150	10	小林茶一

店舗コード「101」を入力して、[売上表示]ボタンをクリック



店舗コード「101」でリンク先の照会定義のデータを検索

商品コード	商品名	単価	売上日	数量	店舗コード	店舗名	住所	席数	従業員	店
101	ブレンドコーヒー	450	20140814	2756	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	権
201	モカ	500	20140802	12	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	権
202	カデマラ	500	20140814	156	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	権
203	コロンビア	500	20140814	129	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	権
205	マンデリン	500	20140806	7	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	権
301	カフェ・オ・レ	550	20140814	420	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	権
401	レモンティー	450	20140814	1405	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	権
501	ココア	530	20140813	950	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	権
601	トースト	250	20140802	21	101	御茶ノ水店	東京都千代田区神足2-9-8	163	12	権

店舗コード「101」（御茶ノ水店）のデータ

手順

1. グラフ選択シートからテキストインプットとボタンをキャンバス上に配置します。
2. テキストインプットのプロパティシート→[機能]タブ→[プロパティ名]に、リンク先の照会定義の@INPUT(@GET(“変数名”))で指定した変数名を設定します。
ここでは「店舗CD」と入力します。

[初期値] は空欄にしておきます。

3. ボタンにリンク先を設定します。
ボタンを選択し、プロパティシートの [機能] タブをクリックします。



4. [コンポーネントの機能] で [リンク] を選択します。



5. [開く定義] で[指定した定義]を選択、[定義] をクリックし、リンク先の照会定義「店舗別商品売上数量」を選択、[別ウィンドウで開く] を有効にします。

プロパティ ×

表示 機能

基本設定

コンポーネントの機能

データ更新

リンク

リンク設定

開く定義

指定した定義

指定したコンポーネントのリンク

定義

店舗別商品売上数量 ×

別ウィンドウで開く

6. ボタンのラベルを設定します。

ボタンを選択し、プロパティシートの[表示]タブ→[基本設定]→[ラベル]に「売上表示」と入力します。

プロパティ ×

表示 機能

基本設定 ^

テキスト

売上表示 4 / 256

タブインデックス

2 0 ~

表示

7. 必要に応じて、テキストインプットの使用方法を示すテキストを配置します。
ラベルを配置し、プロパティシートの[表示]タブ→[基本設定]→[テキスト]に「店舗コードを入力してください。」と入力します。
また、店舗コードに対応する店舗名を示すため、データグリッドを配置し、照会定義「店舗情報」をバインドします。



表に照会定義のデータをバインドする方法については、『第2章 7 データグリッド』を参照してください。

店舗コード	店舗名	席数	従業員	店長名
101	柳茶ノ水店	163	12	橋田肇之介
102	銀座店	72	8	堀口孝六
103	六本木店	58	5	梶井友次郎
104	新宿店	198	18	尾崎洋行
105	上野店	88	8	稲垣ほたる
106	渋谷店	202	19	芥川百合之介
107	池袋店	82	9	永井風花
108	高円寺店	90	7	井伏須磨次
109	立川店	52	4	萩原肇太郎
110	八王子店	170	11	井原角善
201	桜木町店	156	10	滝沢金吾
202	大倉山店	256	22	石川巖雄
203	川崎店	92	8	有島裕夫
204	瀬ノ口店	60	6	阿部元次
205	平塚店	88	8	林美歩子
206	厚木店	160	10	谷崎一進郎
301	津田沼店	150	10	小林茶一

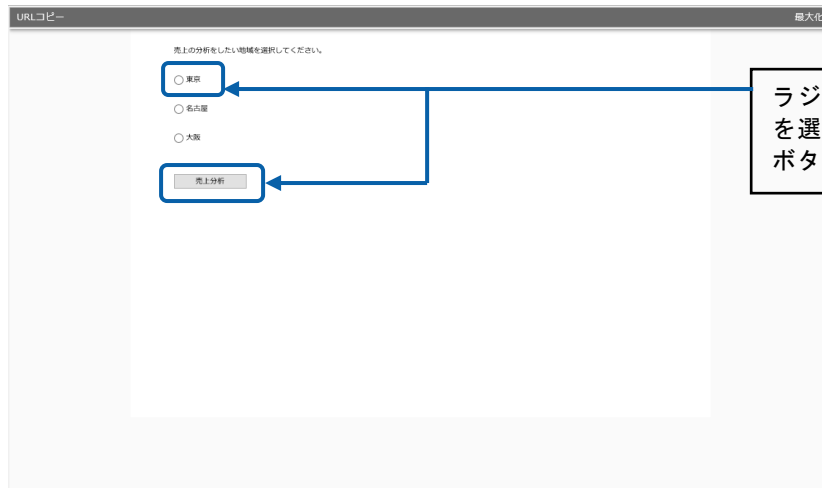
8. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
9. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、リンクの設定が正しくできているか確認します。

選択リンク先定義

複数の選択肢からリンク先を選択するには、チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックスのいずれか1つとボタンを組み合わせでダッシュボード定義を作成します。

ただし、ラジオボタンとコンボボックスの場合は、「自動リンク」の機能を設定しておく、ボタンがなくても、リンク先のデータを表示することができます。

ここでは、以下のように3つのラジオボタンにそれぞれリンク先を設定し、選択されたラジオボタンによって、異なるダッシュボード定義を別ウィンドウに表示する例で手順を説明します。



「東京」の売上分析データ

手順

1. グラフ選択シートからラジオボタンを3つ、ボタンを1つキャンバス上に配置します。



2. ラジオボタンにリンク先を設定します。

①のラジオボタンを選択し、プロパティシートの「機能」タブをクリックします。



3. 「コンポーネントの機能」で「リンク」を選択します。

プロパティ

表示 機能

基本設定

プロパティ名
0 / 256

値
0 / 256

コンポーネントの機能

データ更新

リンク

リンク設定

リンク定義
指定なし

別ウィンドウで開く

4. [リンク定義] でリンク先のダッシュボード定義「東京売上分析」を選択、[別ウィンドウで開く] を有効にします。

プロパティ

表示 機能

プロパティ名
0 / 256

値
0 / 256

コンポーネントの機能

データ更新

リンク

リンク設定

リンク定義
東京売上分析

別ウィンドウで開く

クリック時にリンク定義を開く



ラジオボタンで[クリック時にリンク定義を開く]を有効にすると、ダッシュボード定義実行時に値を選択するだけで、リンク先が表示されます。

5. 手順 2~4 を繰り返し、②、③のラジオボタンにもリンク先を設定します。

- ②のラジオボタン：ダッシュボード定義「名古屋売上分析」

- ③のラジオボタン：ダッシュボード定義「大阪売上分析」

6. ラジオボタンにプロパティ名とラベルを設定します。

ラジオボタンを選択し、プロパティシート内の[機能]タブ→[プロパティ名]にラジオボタンのグループ名を、[表示]タブ→[基本設定]→[テキスト]にラベルに表示するテキストを設定します。

プロパティ	ラジオボタン		
	①のラジオボタン	②のラジオボタン	③のラジオボタン
[テキスト]	「東京」	「名古屋」	「大阪」
[プロパティ名]	「地域」	「地域」	「地域」



7. ボタンにリンクの機能を設定します。

ボタンを選択し、プロパティシート内の[機能]タブをクリックします。

8. [コンポーネントの機能]で[リンク]を選択、[開く定義]で[指定したコンポーネントのリンク]を選択、[コンポーネント]でラジオボタンに設定したプロパティ名「地域」を選択します。



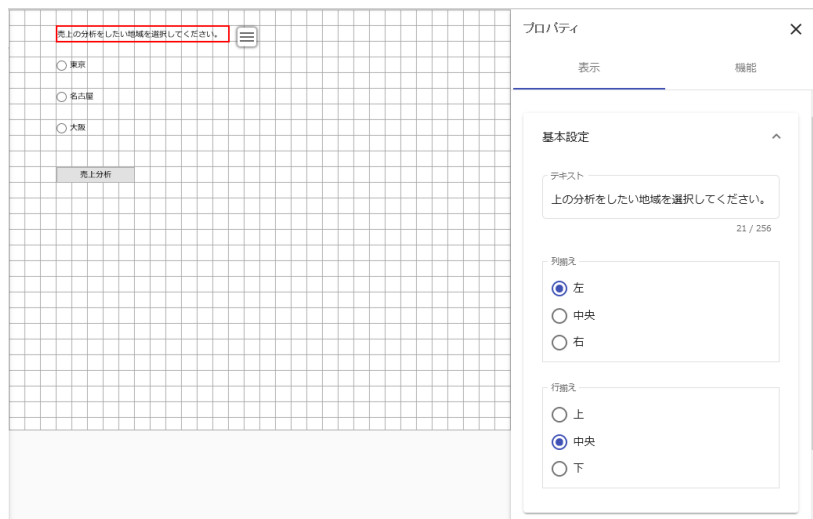
9. ボタンのラベルを設定します。

ボタンを選択し、プロパティシートの[表示]タブ→[基本設定]→[テキスト]にボタンに表示する名前「売上分析」を入力します。



10. 必要に応じて、ラジオボタンの上に使い方を示すテキストを配置します。

ラベルを配置し、プロパティシートの[表示]→[基本設定]→[テキスト]に「売上の分析をしたい地域を選択してください。」と入力します。



11. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。

12. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、リンクの設定が正しくできているか確認します。

3 ナビゲーション・バーの設定

ナビゲーション・バーの機能を利用すると、ダッシュボード上に、ラジオボタンやチェックボックス、コンボボックスなどのコンポーネントを複数配置し、これらの組み合わせによって、リンク先のダッシュボード定義を切り替えることができます。

リンク先は、コンポーネントの組み合わせの数だけ設定できます。たとえば、チェックボックスを1つ、ラジオボタンが2つのラジオグループ(ラジオボタンAとラジオボタンBとする)を1つ配置する場合は、次のような4とおりの組み合わせで4つのリンク先を設定できます。

- チェックボックスがオンでラジオボタンAがオン
- チェックボックスがオフでラジオボタンAがオン
- チェックボックスがオンでラジオボタンBがオン
- チェックボックスがオフでラジオボタンBがオン

以下のコンポーネントには、ナビゲーション・バー定義の設定時のみ、プロパティシートの[機能]タブで「ナビゲーション条件に使用する」を設定できます。

- チェックボックス
- ラジオボタン
- コンボボックス

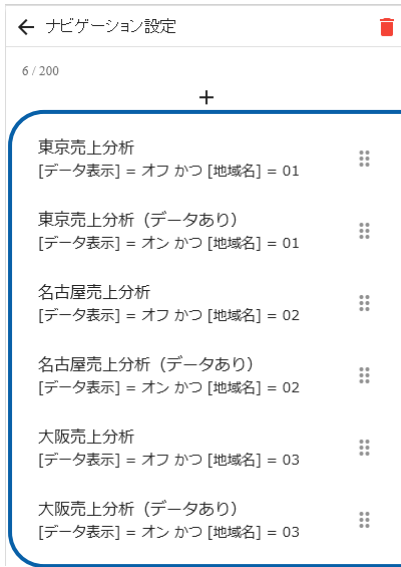


「ナビゲーション条件に使用する」が有効（デフォルト）の場合は、リンク先のダッシュボード定義を切り替えるために使用されます。

「ナビゲーション条件に使用する」を無効に設定すると、リンク先の設定には使用されず、ダッシュボード定義を表示する際にデータ更新用として使用されません。

これらのコンポーネントをデータ更新用として利用する場合の方法については、『付録 2-2 チェックボックス』、『付録 2-3 ラジオボタン』、『付録 2-4 コンボボックス』の「データ更新の場合」を参照してください。

ここでは、以下のようにチェックボックスを1つ、ラジオボタンが3つのラジオグループを1つ配置するナビゲーション・バーを定義する例で手順を説明します。

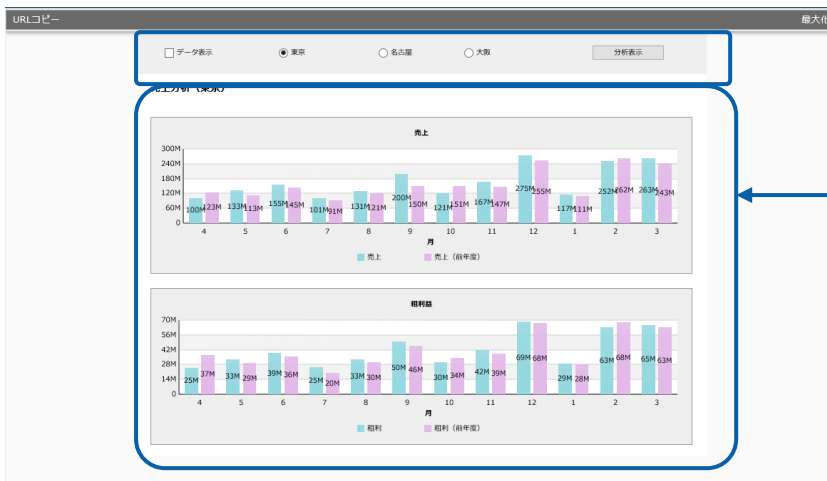


ナビゲーション・バーにチェックボックスとラジオボタンを配置し、ボタンに各コンポーネントが選択されたときのリンク先を設定

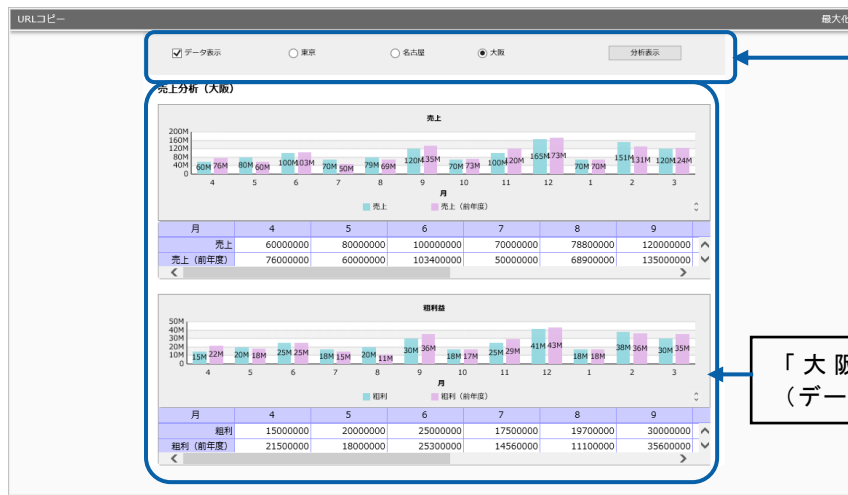


保管されたダッシュボード定義を実行

初期状態では、[データ表示] チェックボックスがオフ、ラジオボタン「東京」がオンになっているので、「東京」の売上分析が表示される



[データ表示] チェックボックスをオン、ラジオボタン [大阪] をオンにして [分析表示] ボタンをクリック



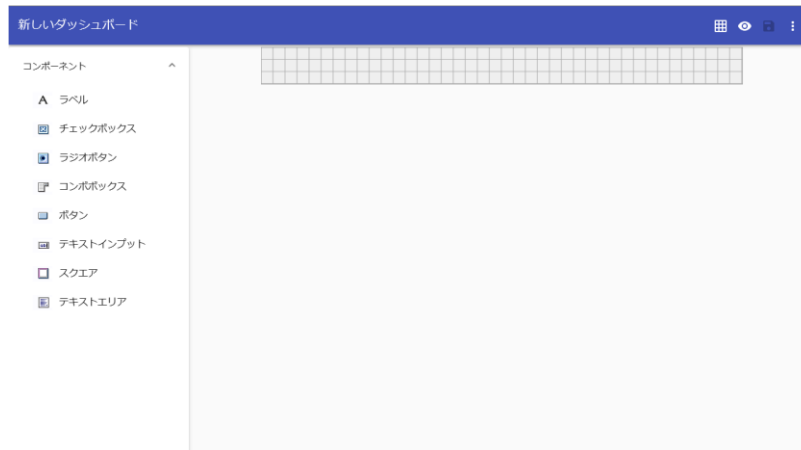
「大阪」の売上分析 (データあり) を表示

手順

1. ダッシュボードエディタのメニューの [新規作成 (ナビゲーションバー)] を選択します。



ダッシュボードエディタの上部にコンポーネントを配置するためのキャンバスが表示されます。



2. キャンバス上にコンポーネントを配置します。
 グラフ選択シートからチェックボックスを1つ、ラジオボタンを3つ、ボタンを1つ配置します。



3. 各コンポーネントの設定項目をプロパティシートで設定します。

プロパティ	チェックボックス	ラジオボタン			ボタン
	①の チェックボックス	②の ラジオボタン	③の ラジオボタン	④の ラジオボタン	⑤の ボタン
[テキスト]	「データ表示」	「東京」	「名古屋」	「大阪」	—
[プロパティ名]	「データ表示」	「地域」	「地域」	「地域」	—
[値]	—	「01」	「02」	「03」	—
[選択状態]	—	有効	無効	無効	—
[テキスト]	—	—	—	—	「分析表示」

4. ボタンを選択し、プロパティシートの [機能] タブをクリックし、[リンク先ダッシュボード] をクリックします。



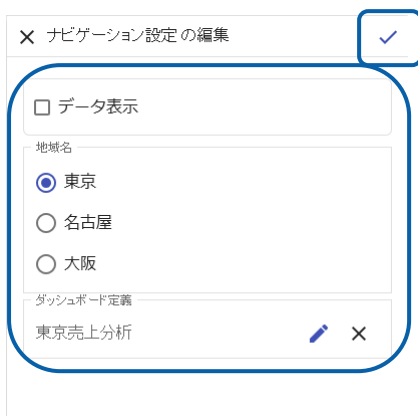
5. 追加ボタンをクリックします。



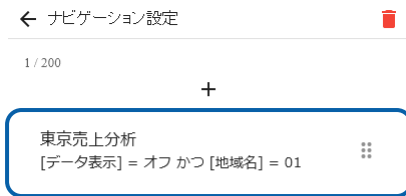
6. ①のチェックボックスがオフで②のラジオボタンがオンの場合のリンク先を設定します。



[データ表示] チェックボックスをオフ、[東京] ラジオボタンをオン、[ダッシュボード定義] をクリックし、[照会定義] ダイアログでリンク先のダッシュボード定義「東京売上分析」を選択し、右上のチェックボタンをクリックします。

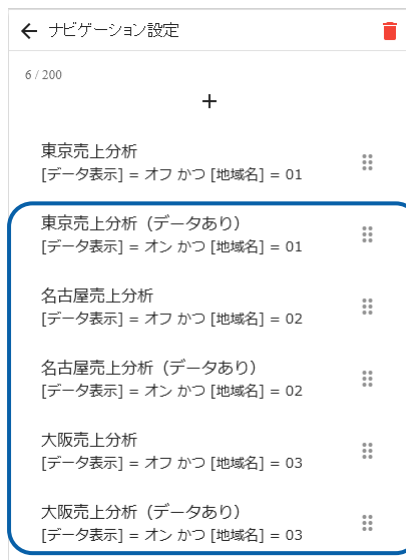


一覧にリンク先とコンポーネントの選択状態が表示されます。



7. 同様に、以下の場合のリンク先のダッシュボード定義を設定します。

- ①のチェックボックスがオンで②のラジオボタンがオン：「東京売上分析（データあり）」
- ①のチェックボックスがオフで③のラジオボタンがオン：「名古屋売上分析」
- ①のチェックボックスがオンで③のラジオボタンがオン：「名古屋売上分析（データあり）」
- ①のチェックボックスがオフで④のラジオボタンがオン：「大阪売上分析」
- ①のチェックボックスがオンで④のラジオボタンがオン：「大阪売上分析（データあり）」



8. 編集した内容をダッシュボード定義として保管し、ダッシュボードエディタを終了します。
9. Web 実行画面で保管したダッシュボード定義を実行し、ナビゲーション・バーのリンクの設定が正しくできているか確認します。

付

録

リファレンス

1 グラフとコンポーネントの種類

この章では、ダッシュボードで使用できるグラフとコンポーネントの種類と、Flash 版との差異について説明します。

グラフ

グラフ	Flash 版のグラフ	Flash 版と合わせる方法
円グラフ	3D 円グラフ	
棒グラフ	3D 棒グラフ	プロパティシート→[基本設定]→[3D 表示]を有効にします。(※1)
	2D 棒グラフ	
	2D 積上げグラフ	プロパティシート→[基本設定]→[積上げ]を有効にします。(※1)
横棒グラフ	2D 横棒グラフ	
	2D 横棒積上げグラフ	プロパティシート→[基本設定]→[積上げ]を有効にします。(※1)
折れ線グラフ	折れ線グラフ	
エリアグラフ	2D エリアグラフ	
レーダーチャート	レーダーチャート	
散布図	散布図	
バブルチャート	バブルチャート	
棒・折れ線グラフ	棒・線グラフ	
	積上げ・線グラフ	プロパティシート→[基本設定]→[積上げ]を有効にします。(※1)
	3D 棒・線グラフ	プロパティシート→[基本設定]→[3D 表示]を有効にします。(※1)
ゲージ	ゲージ	
スピードメーター	スピードメーター	
線ゲージ	線ゲージ	
球体	球体	
温度計	温度計	
LED(縦)	LED(縦)	
LED(横)	LED(横)	

※1 Flash 版で作成した定義を実行する場合やダッシュボードエディタで開いた場合は、デフォルトで有効になっています。

コンポーネント

コンポーネント	Flash 版のコンポーネント
ラベル	Label
チェックボックス	CheckBox
ラジオボタン	RadioButton
コンボボックス	ComboBox
ボタン	Button
テキストインプット	TextInput
スクエア	Square
テキストエリア	TextArea
データグリッド	DataGrid

2 グラフのプロパティ

この章では、それぞれのグラフで設定できるプロパティ、Flash 版との差異について説明します。

グラフのプロパティは、プロパティシートの[表示]タブで設定します。

プロパティの設定については、『第 1 章 4-5 プロパティの設定』を参照してください。

1-1 円グラフ

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	配色	配色
	透明度	—
	パイの半径	パイの半径
	3D 表示	—
	3D 奥行き	パイの高さ
	3D 傾き	パイのスケール
	アニメーション表示	—
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	フォントサイズ
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション
	高さ (%)	—
凡例	表示	—
	高さ (%)	—
ラベル	表示	—
	名前表示	名前表示 (X 軸)
	値表示	値表示 (Y 軸)
	パーセント表示	パーセント表示
ツールチップ	表示	—
	パーセント表示	チップのパーセント表示

1-2 棒グラフ

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	配色	配色
	透明度	—
	3D 表示	—
	3D 奥行き	奥行き (3D 棒グラフ)
	積上げ	—
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	グラフ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
キャンバス	背景表示	キャンバス背景表示 (3D 棒グラフ)
	背景の色	キャンバスの背景色
	背景の透明度	—
	スクロール表示	スクロール表示 (2D 棒グラフ、2D 積上げグラフ)
	スクロールなしの表示数	スクロールなしの表示数 (2D 棒グラフ、2D 積上げグラフ)
	—	スクロールバーの色 (2D 棒グラフ、2D 積上げグラフ)
	—	スクロールバーの高さ (2D 棒グラフ、2D 積上げグラフ)
横軸	軸の名前	X 軸の名前
	目盛のラベル表示	X 軸表示
縦軸	軸の名前	—

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛のラベル表示	—
	目盛の数	Y 軸分割線
	目盛の最大値	Y 軸の最大値
	目盛の最小値	Y 軸の最小値
	基準値設定	基準値設定
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション
	高さ (%)	—
凡例	表示	凡例表示
	高さ (%)	—
ラベル	表示	値表示
ツールチップ	表示	—
—	—	キャンバス背景表示 (3D 棒グラフ)
	—	キャンバス土台表示 (3D 棒グラフ)

1-3 横棒グラフ

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	配色	配色
	透明度	—
	3D 表示	—
	3D 奥行き	—
	積上げ	—
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	グラフ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
キャンバス	背景表示	—
	背景の色	キャンバスの背景色
	背景の透明度	—
縦軸	軸の名前	X 軸の名前
	目盛のラベル表示	X 軸表示
横軸	軸の名前	—
	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛のラベル表示	—
	目盛の数	Y 軸分割線
	目盛の最大値	Y 軸の最大値
	目盛の最小値	Y 軸の最小値
基準値設定	基準値設定	

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション
	高さ (%)	—
凡例	表示	凡例表示
	高さ (%)	—
ラベル	表示	値表示
ツールチップ	表示	—

1-4 折れ線グラフ

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	配色	配色
	透明度	—
	線の太さ	線の太さ
	アンカーマークの表示	アンカーマーク表示
	アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数
	積上げ	—
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	グラフ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
キャンパス	背景表示	—
	背景の色	キャンパスの背景色
	背景の透明度	—
	スクロール表示	スクロール表示
	スクロールなしの表示数	スクロールなしの表示数
	—	スクロールバーの色
	—	スクロールバーの高さ
横軸	軸の名前	X 軸の名前
	目盛のラベル表示	X 軸表示
	目盛の数	X 軸分割線
縦軸	軸の名前	—
	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛のラベル表示	—
	目盛の数	Y 軸分割線
	目盛の最大値	Y 軸の最大値
	目盛の最小値	Y 軸の最小値
	基準値設定	基準値設定
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション
	高さ (%)	—
凡例	表示	凡例表示
	高さ (%)	—
ラベル	表示	値表示
ツールチップ	表示	—

1-5 エリアグラフ

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	配色	配色
	透明度	エリア色の透明度
	線の表示	線表示
	線の太さ	線の太さ
	線の色	線表示の太さ
	線の透明度	線の色
	積上げ	—
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X座標	X座標
	Y座標	Y座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	グラフ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M表示	K、M表示
キャンバス	背景表示	—
	背景の色	キャンバスの背景色
	背景の透明度	—
	スクロール表示	スクロール表示
	スクロールなしの表示数	スクロールなしの表示数
	—	スクロールバーの色
	—	スクロールバーの高さ
横軸	軸の名前	X軸の名前
	目盛のラベル表示	X軸表示
	目盛の数	X軸分割線
縦軸	軸の名前	—
	前置文字列	前置文字列

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛のラベル表示	—
	目盛の数	Y 軸分割線
	目盛の最大値	Y 軸の最大値
	目盛の最小値	Y 軸の最小値
	基準値設定	基準値設定
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション
	高さ (%)	—
凡例	表示	凡例表示
	高さ (%)	—
ラベル	表示	値表示
ツールチップ	表示	—

1-6 レーダーチャート

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	配色	配色
	透明度	—
	レーダーの半径	レーダーの半径
	線の太さ	線の太さ
	アンカーマーク表示	アンカーマーク表示
	アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	グラフ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
キャンバス	背景表示	—
	背景の色	キャンバスの背景色
	背景の透明度	—
系列	系列のラベル表示	X 軸表示
軸	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛のラベル表示	—
	目盛の数	Y 軸分割線
	目盛の最大値	Y 軸の最大値
	目盛の最小値	Y 軸の最小値
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	高さ (%)	—
凡例	表示	凡例表示
	高さ (%)	—
ラベル	表示	値表示
ツールチップ	表示	—

1-7 散布図

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	配色	配色
	透明度	—
	アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数
	関連線の透明度	関連線の透明度
	アニメーション表示	—
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	グラフ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
キャンバス	背景表示	—
	背景の色	キャンバスの背景色
	背景の透明度	—
横軸	軸の名前	X 軸の名前
	目盛のラベル表示	X 軸表示
	目盛の数	X 軸分割線
	目盛の最大値	X 軸の最大値
	目盛の最小値	X 軸の最小値
	基準値設定	X 軸基準値設定
縦軸	軸の名前	—
	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛のラベル表示	—
	目盛の数	Y 軸分割線

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	目盛の最大値	Y 軸の最大値
	目盛の最小値	Y 軸の最小値
	基準値設定	Y 軸基準値設定
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション
	高さ (%)	—
凡例	表示	凡例表示
	高さ (%)	—
ラベル	表示	値表示
ツールチップ	表示	—

1-8 バブルチャート

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	配色	配色
	透明度	—
	バブルサイズ補正	バブルサイズ補正
	線の色	バブルボーダー色
	線の透明度	バブルサイズ補正
	3D 表示	3D 表現
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	グラフ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
キャンバス	背景表示	—
	背景の色	キャンバスの背景色
	背景の透明度	—
横軸	軸の名前	X 軸の名前
	目盛のラベル表示	X 軸表示
	目盛の数	X 軸分割線
	目盛の最大値	X 軸の最大値
	目盛の最小値	X 軸の最小値
	基準値設定	X 軸基準値設定
縦軸	軸の名前	—
	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	目盛のラベル表示	—
	目盛の数	Y 軸分割線
	目盛の最大値	Y 軸の最大値
	目盛の最小値	Y 軸の最小値
	基準値設定	Y 軸基準値設定
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション
	高さ (%)	—
凡例	表示	凡例表示
	高さ (%)	—
ラベル	表示	値表示
ツールチップ	表示	—

1-9 棒・折れ線グラフ

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	配色	配色
	透明度	—
	線の太さ	線の太さ
	アンカーマークの表示	アンカーマーク表示
	アンカーマークの角の数	アンカーマークの角の数
	3D 表示	—
	3D 奥行き	—
	積上げ	—
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	グラフ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
キャンバス	背景表示	—
	背景の色	キャンバスの背景色
	背景の透明度	—
	スクロール表示	スクロール表示(棒・折れ線グラフ)
	スクロールなしの表示数	スクロールなしの表示数(棒・折れ線グラフ)
	—	スクロールバーの色(棒・折れ線グラフ)
	—	スクロールバーの高さ(棒・折れ線グラフ)
横軸	軸の名前	X 軸の名前

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	目盛のラベル表示	X 軸表示
縦軸(左)	軸の名前	—
	前置文字列	第一 Y 軸の前置文字列
	後置文字列	第一 Y 軸の後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛のラベル表示	—
	目盛の数	Y 軸分割線
	目盛の最大値	第一 Y 軸の最大値
	目盛の最小値	第一 Y 軸の最小値
縦軸(右)	縦軸(左)と同じ目盛りを使用する	—
	軸の名前	—
	前置文字列	第二 Y 軸の前置文字列
	後置文字列	第二 Y 軸の後置文字列
	目盛のラベル表示	—
	目盛の最大値	第二 Y 軸の最大値
	目盛の最小値	第二 Y 軸の最小値
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション
	高さ(%)	—
凡例	表示	凡例表示
	高さ(%)	—
ラベル	表示	値表示
ツールチップ	表示	—

1-10 ゲージ

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	ゲージの幅	ゲージの幅
	ゲージ内の数値表示	ゲージ内数値表示
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	—
	右余白	—
	上余白	—
	下余白	—
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	ゲージ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
軸	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛のラベル表示	—
	大目盛の数	大目盛の数
	小目盛の数	小目盛の数
	範囲 1：開始値	最小限界値
	範囲 1：終了値	境界 1 の値
	範囲 1：色	範囲 1 の色
	範囲 2：開始値	境界 1 の値
	範囲 2：終了値	境界 2 の値
	範囲 2：色	範囲 2 の色
	範囲 3：開始値	境界 2 の値
	範囲 3：終了値	最大限界値
範囲 3：色	範囲 3 の色	
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	高さ (%)	—
ラベル	表示	—
ツールチップ	表示	—

1-11 スピードメーター

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	ゲージの幅	ゲージの幅
	ゲージ内の数値表示	ゲージ内数値表示
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	—
	右余白	—
	上余白	—
	下余白	—
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	ゲージ外のフォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
軸	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛のラベル表示	—
	大目盛の数	大目盛の数
	小目盛の数	小目盛の数
	範囲 1：開始値	最小限界値
	範囲 1：終了値	境界 1 の値
	範囲 1：色	範囲 1 の色
	範囲 2：開始値	境界 1 の値
	範囲 2：終了値	境界 2 の値
	範囲 2：色	範囲 2 の色
	範囲 3：開始値	境界 2 の値
	範囲 3：終了値	最大限界値
範囲 3：色	範囲 3 の色	
キャプション	表示	—
	テキスト	キャプション

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	高さ (%)	—
ラベル	表示	—
ツールチップ	表示	—

1-12 線ゲージ

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	線の表示	ゲージボーダー
	線の太さ	ボーダーの太さ
	線の色	ボーダーの色
	ポインターの大きさ	ポインターの大きさ
	ポインターの色	ポインターの色
	アニメーション表示	
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	—
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
軸	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛表示	目盛
	目盛のラベル表示	—
	目盛の色	目盛の色
	大目盛の数	大目盛の数
	大目盛の長さ	大目盛の長さ
	小目盛の数	小目盛の数
	小目盛の長さ	小目盛の長さ
	上限に表示する文字	上限に表示する文字
	下限に表示する文字	下限に表示する文字
	範囲の名前の表示	範囲の名前の表示
	範囲 1：開始値	最小限界値

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	範囲 1：終了値	境界 1 の値
	範囲 1：表示名	範囲 1 の名前
	範囲 1：色	範囲 1 の色
	範囲 2：開始値	境界 1 の値
	範囲 2：終了値	境界 2 の値
	範囲 2：表示名	範囲 2 の名前
	範囲 2：色	範囲 2 の色
	範囲 3：開始値	境界 2 の値
	範囲 3：終了値	最大限界値
	範囲 3：表示名	範囲 3 の名前
	範囲 3：色	範囲 3 の色
	—	限界値表示
	キャプション	表示
テキスト		—
高さ (%)		—
ラベル	表示	—
ツールチップ	表示	—

1-13 球体

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	球体の半径	球体の半径
	線の表示	球体ボーダー
	線の太さ	ボーダーの太さ
	線の色	ボーダーの色
	3D 表示	3D 表示
	アニメーション表示	—
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	—
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
軸	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	範囲 1：開始値	最小限界値
	範囲 1：終了値	境界 1 の値
	範囲 1：色	範囲 1 の色
	範囲 2：開始値	境界 1 の値
	範囲 2：終了値	境界 2 の値
	範囲 2：色	範囲 2 の色
	範囲 3：開始値	境界 2 の値
	範囲 3：終了値	最大限界値
	範囲 3：色	範囲 3 の色
キャプション	表示	—
	テキスト	—
	高さ (%)	—

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
ラベル	表示	—
ツールチップ	表示	—

1-14 温度計

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	線の表示	ゲージボーダー
	線の太さ	ボーダーの太さ
	線の色	ボーダーの色
	塗りつぶしの色	塗りつぶし色
	丸い部分の半径	丸い部分半径
	温度計の高さ	温度計の高さ
	アニメーション表示	アニメーション表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	—
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
軸	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛表示	目盛
	目盛のラベル表示	—
	目盛の色	目盛の色
	大目盛の数	大目盛の数
	大目盛の長さ	大目盛の長さ
	小目盛の数	小目盛の数
	小目盛の長さ	小目盛の長さ
	上限に表示する文字	上限に表示する文字
	下限に表示する文字	下限に表示する文字
	—	限界値表示

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
キャプション	表示	—
	テキスト	—
	高さ (%)	—
ラベル	表示	—
ツールチップ	表示	—

1-15 LED（縦）

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	線の表示	ゲージボーダー
	線の太さ	ボーダーの太さ
	線の色	ボーダーの色
	LED バー背景色	LED 背景色
	LED バーの間隔	LED バー間隔
	LED バーの大きさ	LED バーの大きさ
	アニメーション表示	—
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	—
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
軸	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛表示	目盛
	目盛のラベル表示	—
	目盛の色	目盛の色
	大目盛の数	大目盛の数
	大目盛の長さ	大目盛の長さ
	小目盛の数	小目盛の数
	小目盛の長さ	小目盛の長さ
	上限に表示する文字	下限に表示する文字
	下限に表示する文字	上限に表示する文字
	範囲 1：開始値	最小限界値

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	範囲 1 : 終了値	境界 1 の値
	範囲 1 : 色	範囲 1 の色
	範囲 2 : 開始値	境界 1 の値
	範囲 2 : 終了値	境界 2 の値
	範囲 2 : 色	範囲 2 の色
	範囲 3 : 開始値	境界 2 の値
	範囲 3 : 終了値	最大限界値
	範囲 3 : 色	範囲 3 の色
	—	限界値表示
キャプション	表示	—
	テキスト	—
	高さ (%)	—
ラベル	表示	—
ツールチップ	表示	—

•

1-16 LED（横）

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	名前	名前
	線の表示	ゲージボーダー
	線の太さ	ボーダーの太さ
	線の色	ボーダーの色
	LED バー背景色	LED 背景色
	LED バーの間隔	LED バー間隔
	LED バーの大きさ	LED バーの大きさ
	アニメーション表示	—
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
	左余白	左余白
	右余白	右余白
	上余白	上余白
	下余白	下余白
	背景	背景の表示
背景の色		背景色
背景の透明度		背景色の透明度
ボーダー	ボーダーの表示	—
	ボーダーの太さ	—
	ボーダーの色	—
	ボーダーの透明度	—
フォント	フォント色	フォント色
	グラフ外のフォント色	—
	フォントサイズ	フォントサイズ
数値フォーマット	数値フォーマット	数値フォーマット
	小数点以下の最大桁数	小数点以下
	K、M 表示	K、M 表示
軸	前置文字列	前置文字列
	後置文字列	後置文字列
	目盛の小数点以下の最大桁数	目盛の小数点以下
	目盛表示	目盛
	目盛のラベル表示	—
	目盛の色	目盛の色
	大目盛の数	大目盛の数
	大目盛の長さ	大目盛の長さ
	小目盛の数	小目盛の数
	小目盛の長さ	小目盛の長さ
	上限に表示する文字	下限に表示する文字
	下限に表示する文字	上限に表示する文字
	範囲 1：開始値	最小限界値

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	範囲 1 : 終了値	境界 1 の値
	範囲 1 : 色	範囲 1 の色
	範囲 2 : 開始値	境界 1 の値
	範囲 2 : 終了値	境界 2 の値
	範囲 2 : 色	範囲 2 の色
	範囲 3 : 開始値	境界 2 の値
	範囲 3 : 終了値	最大限界値
	範囲 3 : 色	範囲 3 の色
	—	限界値表示
キャプション	表示	—
	テキスト	—
	高さ (%)	—
ラベル	表示	—
ツールチップ	表示	—

•

3 コンポーネントのプロパティ

この章では、それぞれのコンポーネントで設定できるプロパティ、Flash 版との差異について説明します。

コンポーネントのプロパティは、プロパティシートの[表示]タブで設定します。

プロパティの設定については、『第 1 章 4-5 プロパティの設定』を参照してください。

3-1 ラベル

リンクの場合

- [機能] タブ→ [リンク設定] で、ラベルがクリックされた場合のリンク先の照会定義またはダッシュボード定義を指定します。
- 本製品実行時にラベルに設定したテキストをクリックすると、リンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。
- リンク先の照会定義に @INPUT(@GET()) を使用した検索条件が設定されている場合は、[リンク設定] ダイアログで、@INPUT(@GET()) で指定した変数名を [プロパティ名]、検索したい値を [値] に設定すると、リンク先の定義が検索された状態で表示されます。

プロパティ一覧

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	テキスト	テキスト
	列揃え	行揃え
	行揃え	—
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
フォント	フォント色	フォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
	文字太字	文字太字
	文字イタリック	文字イタリック
	文字アンダーライン	文字アンダーライン

3-2 チェックボックス

ダッシュボードエディタ上ではチェックマークは付けられませんが、本製品上で実行した際に、チェックマークを付け、外すことができます。また、[選択状態] プロパティを有効に設定すると、チェックマークを付けた状態で実行されます。

データ更新の場合

- チェックボックスは、本製品リンク機能の一部を使用しています。@INPUT(@GET())を使用した照会定義がバインドされたグラフがないと、配置しても機能しません。
- @INPUT(@GET())で設定した名前を [プロパティ名]、検索したい値を [値] に入力します。
- 本製品実行時にチェックマークを付け、ボタンをクリックすると、本製品サーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、値で検索した結果がグラフに表示されます。
- 本製品実行時にチェックマークを付けずにボタンをクリックすると、照会定義に指定した検索条件を無視した状態でグラフが更新されます。

リンクの場合

- [機能] タブ→ [リンク設定] で、チェックマークを付けた場合のリンク先と、チェックマークを付けない場合のリンク先の照会定義またはダッシュボード定義を指定します。
- チェックボックスを判別するための名前を [プロパティ名] に入力します。
- 本製品実行時にチェックマークを付け、ボタンをクリックすると、チェックボックスが「オン」のときのリンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。
- 本製品実行時にチェックマークを付けずに、ボタンをクリックすると、チェックボックスが「オフ」のときのリンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。
- リンク先の照会定義に @INPUT(@GET()) を使用した検索条件が設定されている場合は、@INPUT(@GET()) で指定した変数名を [プロパティ名]、検索したい値を [値] に設定すると、リンク先の定義が検索された状態で表示されます。

プロパティ一覧

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	テキスト	ラベル
	タブインデックス	タブインデックス
	選択状態	選択状態
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
フォント	フォント色	フォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
	文字太字	文字太字

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
	文字イタリック	文字イタリック
	文字アンダーライン	文字アンダーライン

3-3 ラジオボタン

ラジオボタンには「自動で更新」または「自動リンク」の機能を設定することができます。この機能を設定した場合は、ボタンがなくても、ラジオボタンが選択されたときに、データの更新またはリンクが行われます。

ダッシュボードエディタ上では選択できませんが、本製品上で実行した際に、ラジオボタンを選択することができます。また、プロパティで「選択状態」を有効にすると、そのラジオボタンが選択された状態で実行することができます。

共通の「プロパティ名」を設定することで、ラジオボタンは1つのラジオグループとなり、その中で1つしか選択できなくなります。

データ更新の場合

- ラジオボタンは、本製品のリンク機能の一部を使用しています。@INPUT(@GET())を使用した照会定義がバインドされたグラフがないと、配置しても機能しません。
- @INPUT(@GET())で指定した変数名を「プロパティ名」、検索したい値を「値」に入力します。
- 本製品の実行時にラジオボタンを1つ選択し、ボタンをクリックすると、本製品のサーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、値で検索した結果がグラフに表示されます。選択されていないラジオボタンのデータは送信されません。ただし、「自動で更新」が設定されている場合はボタンのクリックは不要です。
- 本製品の実行時に1つも選択せずにボタンをクリックすると、照会定義に指定した検索条件を無視した状態でグラフが更新されます。

リンクの場合

- 「機能」タブ→「リンク設定」で、ラジオボタンが選択されたときのリンク先の照会定義またはダッシュボード定義を指定します。
- ラジオグループを判別するための名前を「プロパティ名」に入力します。
- 本製品の実行時にラジオボタンを1つ選択し、ボタンをクリックすると、リンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。
- リンク先の照会定義に@INPUT(@GET())を使用した検索条件が設定されている場合は、@INPUT(@GET())で指定した変数名を「プロパティ名」、検索したい値を「値」に入力すると、ラジオボタンが選択されたときに、リンク先の定義が検索された状態で表示されます。

プロパティ一覧

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	テキスト	ラベル
	タブインデックス	タブインデックス
	選択状態	選択状態
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
フォント	フォント色	フォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
	文字太字	文字太字
	文字イタリック	文字イタリック
	文字アンダーライン	文字アンダーライン

3-4 コンボボックス

コンボボックスには「自動で更新」または「自動リンク」の機能を設定することができます。この機能を設定した場合は、ボタンがなくても、コンボボックスで値が選択されたときに、データの更新またはリンクが行われます。

ダッシュボードエディタ上では選択できませんが、本製品上で実行した際に、コンボボックスの[▼]ボタンをクリックしてドロップダウンリストから値を1つ選択することができます。

データ更新の場合

- コンボボックスは、本製品のリンク機能の一部を使用しています。@INPUT(@GET())を使用した照会定義がバインドされたグラフがないと、配置しても機能しません。
- [機能設定] ダイアログで@INPUT(@GET())で指定した変数名を [プロパティ名] に、ドロップダウンリストの表示名を [表示名] に、それに対応する検索値を [値] に入力します。
- 本製品の実行時にコンボボックスで値を1つ選択し、ボタンをクリックすると、本製品のサーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、値で検索をした結果がグラフに表示されます。

リンクの場合

- [機能] タブ→ [リンク設定] で、ドロップダウンリストの表示名を [表示名] に、表示名に対応するリンク先の照会定義、またはダッシュボード定義を [リンク先] に入力します。
- コンボボックスを判別するための名前を [プロパティ名] に入力します。
- 本製品実行時にコンボボックスで値を1つ選択し、ボタンをクリックすると、リンク先の照会定義、またはダッシュボード定義が表示されます。

プロパティ一覧

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	タブインデックス	タブインデックス
位置、大きさ、余白	X座標	X座標
	Y座標	Y座標
	幅	幅
	高さ	高さ
フォント	フォント色	フォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
	文字太字	文字太字
	文字イタリック	文字イタリック
	文字アンダーライン	文字アンダーライン
—	—	表示最大行数

3-5 ボタン

本製品サーバーにデータを送信するためのボタンです。

チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットを配置する際には、ボタンを配置してください。

ただし、ラジオボタン、コンボボックスで「自動で更新」または「自動リンク」の機能を設定した場合は、ボタンの配置は必ずしも必要ではありません。

データ更新の場合

- チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、テキストインプットの [プロパティ名] と [値] によってグラフを更新します。
- ボタンに自動更新のタイマー機能を設定することができます。この機能を設定すると、本製品で実行したときに指定した時間間隔で、自動的にグラフのデータが更新されます。

リンクの場合

- ボタンのみ、またはテキストインプットと組み合わせて使用する場合は、[機能] タブ→ [リンク設定] で、リンク先の照会定義、またはダッシュボード定義を [リンク先] に入力します。
- チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックスと組み合わせて使う場合は、[機能] タブで、組み合わせて使用するコンポーネントの [プロパティ名] を指定します。

プロパティ一覧

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	テキスト	ラベル
	タブインデックス	タブインデックス
	表示	表示
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
フォント	フォント色	フォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
	文字太字	文字太字
	文字イタリック	文字イタリック
	文字アンダーライン	文字アンダーライン

3-6 テキストインプット

テキストインプットはボタンと組み合わせて使用します。

ダッシュボードエディタ上では値は入力できませんが、本製品上で実行した際に、テキストインプットに値を入力できます。

データ更新の場合

- テキストインプットは、本製品のリンク機能の一部を使用しています。@INPUT(@GET())を使用した照会定義がバインドされたグラフがないと、配置しても機能しません。
- @INPUT(@GET())で指定した変数名を [プロパティ名] に入力します。
- 本製品実行時にテキストインプットに値を入力し、ボタンをクリックすると、本製品のサーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、値で検索をした結果がグラフに表示されます。

リンクの場合

- テキストインプットは、本製品のリンク機能の一部を使用しています。リンク先の照会定義の検索条件に@INPUT(@GET())がないと、配置しても機能しません。
- [機能] タブ → [リンク設定] で、ボタンにリンク先の照会定義またはダッシュボード定義を指定します。
- @INPUT(@GET())で設定した名前を [プロパティ名] に入力します。
- 本製品実行時にテキストインプットに「値」を入力し、ボタンをクリックすると、本製品のサーバーに、「プロパティ名」と「値」が送信され、リンク先の定義が検索された状態で表示されます。

プロパティ一覧

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	タブインデックス	タブインデックス
	文字列制限数	文字列制限数
	入力可能文字	入力可能文字
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ
フォント	フォント色	フォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
	文字太字	—
	文字イタリック	—
	文字アンダーライン	—

3-7 スクエア

キャンバス上に四角形を配置します。中塗りをするかどうかなども選択できます。

グラフの区切りや全体の見栄えを整えたいときに利用します。

プロパティ一覧

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	背景の表示	中塗り
	背景の色	中塗りの色
	ボーダーの太さ	線の太さ
	ボーダーの色	線の色
	ボーダーの透明度	—
位置、大きさ、余白	X 座標	X 座標
	Y 座標	Y 座標
	幅	幅
	高さ	高さ

3-8 テキストエリア

ダッシュボード上にコメントなどを配置したいときに利用します。

テキストエリア内にスクロールバーを付けて表示できます。

プロパティ一覧

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	テキスト	[テキスト設定]ダイアログ
	列揃え	行揃え
	行揃え	—
	水平スクロールバー	水平スクロールバー
	垂直スクロールバー	垂直スクロールバー
	テキスト折り返し	テキスト折り返し
位置、大きさ、余白	X座標	X座標
	Y座標	Y座標
	幅	幅
	高さ	高さ
フォント	フォント色	フォント色
	フォントサイズ	フォントサイズ
	文字太字	文字太字
	文字イタリック	文字イタリック
	文字アンダーライン	文字アンダーライン
背景	背景の表示	—
	背景の色	背景色
	背景の透明度	—

3-9 データグリッド

ダッシュボードエディタに配置されているグラフにバインドされているデータを表示したり、表にデータをバインドしたりすることができます。

プロパティ一覧

カテゴリ	プロパティ	Flash 版のプロパティ
基本設定	配色	配色
	列幅	列幅
	行高さ	行高さ
	ヘッダー高さ	ヘッダー高さ
	水平スクロールバー	水平スクロールバー
	垂直スクロールバー	垂直スクロールバー
位置、大きさ、余白	X座標	X座標
	Y座標	Y座標
	幅	幅
	高さ	高さ
フォント	ヘッダーのフォント色	ヘッダーフォント色
	ヘッダーのフォントサイズ	ヘッダーフォントサイズ
	ヘッダーの文字太字	ヘッダー文字太字
	ヘッダーの文字イタリック	ヘッダー文字イタリック
	ボディのフォント色	フォント色
	ボディのフォントサイズ	フォントサイズ
	ボディの文字太字	文字太字
	ボディの文字イタリック	文字イタリック

WebReport2.0 ダッシュボードエディタガイド

2006年12月10日 第1版発行
2021年05月07日 第15版発行

発行 JB アドバンスト・テクノロジー株式会社

お問い合わせ 弊社ホームページより、お問い合わせください。
<https://www.jbat.co.jp/>

本書は著作権上の保護を受けており、本書の全部あるいは一部に関して、JB アドバンスト・テクノロジー株式会社からの文書による許諾を得ず、無断で転写、複製することは禁じられています。また、本書はユーザーへ通知することなく変更される場合があります。

